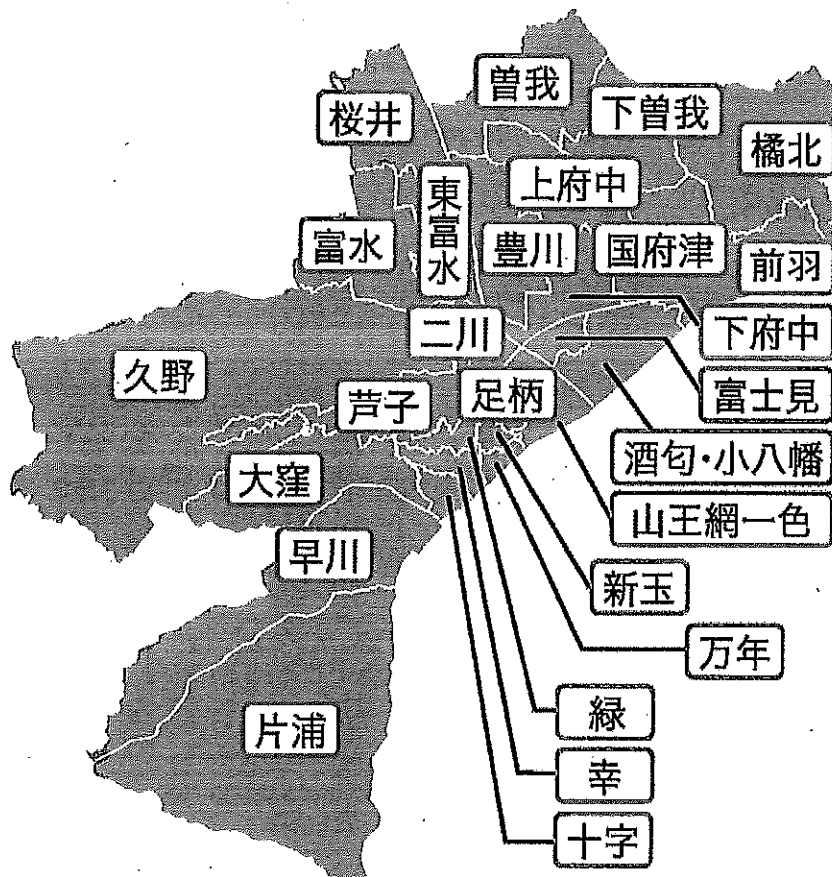


地域別計画(抜粋)



※本資料は、平成 22 年度に発行した地域別計画から、各地域の概要部分を抜粋したものです。

※富士見地区は、平成 25 年度に下府中地区から分離したため、本資料中には記載していません。

目 次

1.	緑地区	1
2.	新玉地区	4
3.	万年地区	7
4.	幸地区	10
5.	十字地区	13
6.	片浦地区	15
7.	早川地区	18
8.	大窪地区	21
9.	山王網一色地区	24
10.	足柄地区	27
11.	芦子地区	30
12.	二川地区	33
13.	久野地区	38
14.	東富水地区	43
15.	富水地区	46
16.	桜井地区	48
17.	酒匂・小八幡地区	51
18.	下府中地区	53
19.	富士見地区	—
20.	豊川地区	56
21.	上府中地区	58
22.	曾我地区	61
23.	下曾我地区	65
24.	国府津地区	68
25.	前羽地区	71
26.	橘北地区	74

※本資料ではエリア順に記載しています。

地域のキャッチフレーズ

小田原の“かお” 歴史と文化のまち “緑”

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

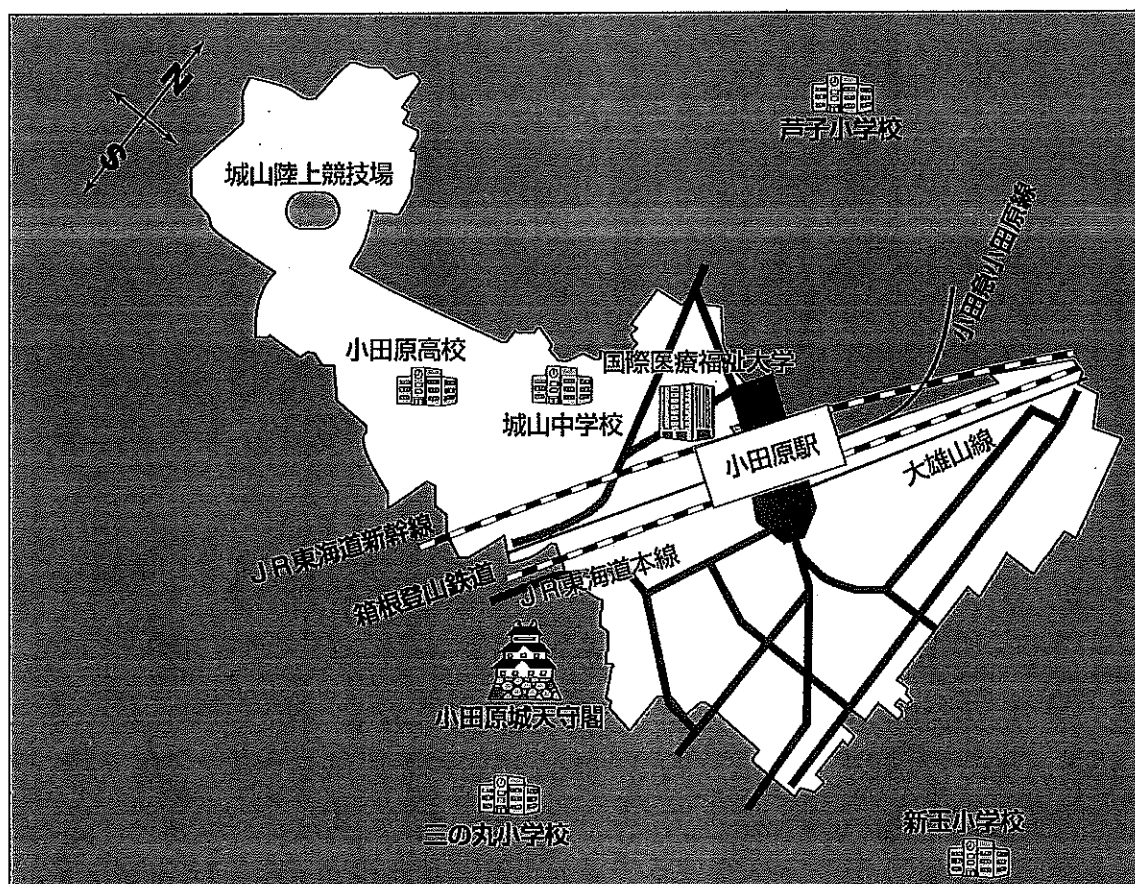
1 地域の地理状況

緑は、小田原駅を中心に東西に広がり、小田原城にも隣接した地域です。

小田原駅は、旅客鉄道5社がのり入れ、東西にバスターミナルを有する交通の拠点となっています。

小田原駅周辺には、商店街、金融機関、大学、高校などが集中しています。

また、周辺地域には商店街と住宅が混在しています。

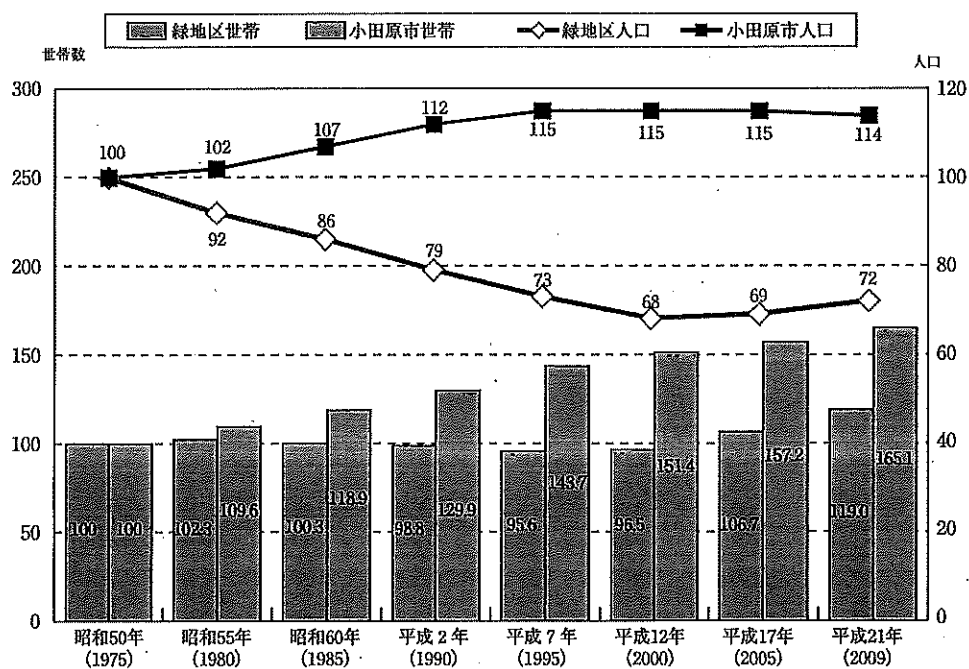


2 地域の人口・世帯

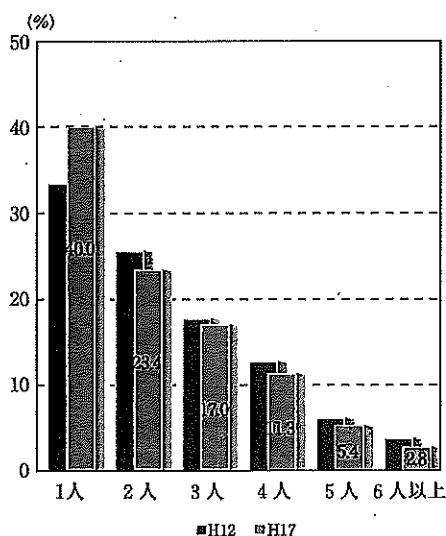
昭和50（1975）年と比較すると、人口は、平成12（2000）年まで減少し、その後、なだらかに増加しています。また、世帯数は、約1.2倍となっています。

また、世帯人員の割合をみますと、単身世帯の割合が多く、増加傾向にあります。年齢3区分の人口割合を小田原市全体と比較すると、15歳未満の人口が少なく、65歳以上が多くなっており少子高齢化が進んでいます。

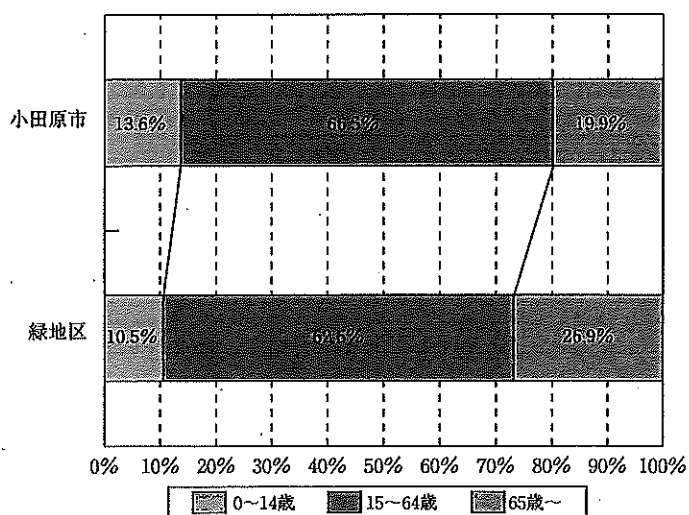
小田原市全域と緑地区の人口・世帯数の推移（昭和50年=100）



世帯人員（一般世帯）の割合

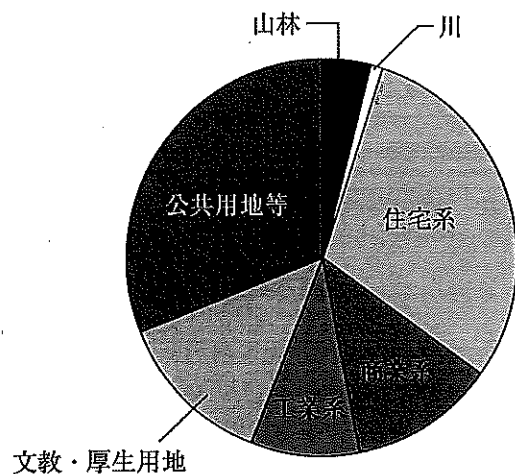


年齢3区分人口割合の比較（平成17年）



3 土地の利用状況

住宅系が全体の3割、商業と工業系が2割を占め、山林は4%となっています。
また、学校、病院などの文教・厚生用地の割合が13%となっております。
道路や鉄道用地などの公共用地等は31%を占めています。



区 分	割合
住宅系	30%
商業系	12%
工業系	9%
文教・厚生用地	13%
公共用地等	31%
山林	4%
川	1%

地域のキャッチフレーズ

**深めよう!!、安心、安全、地域のふれあい
みんなでつくろう誇りのもてるまちづくり**

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

新玉は、小田原城や小田原駅周辺の繁華街から北東1～2kmに位置します。

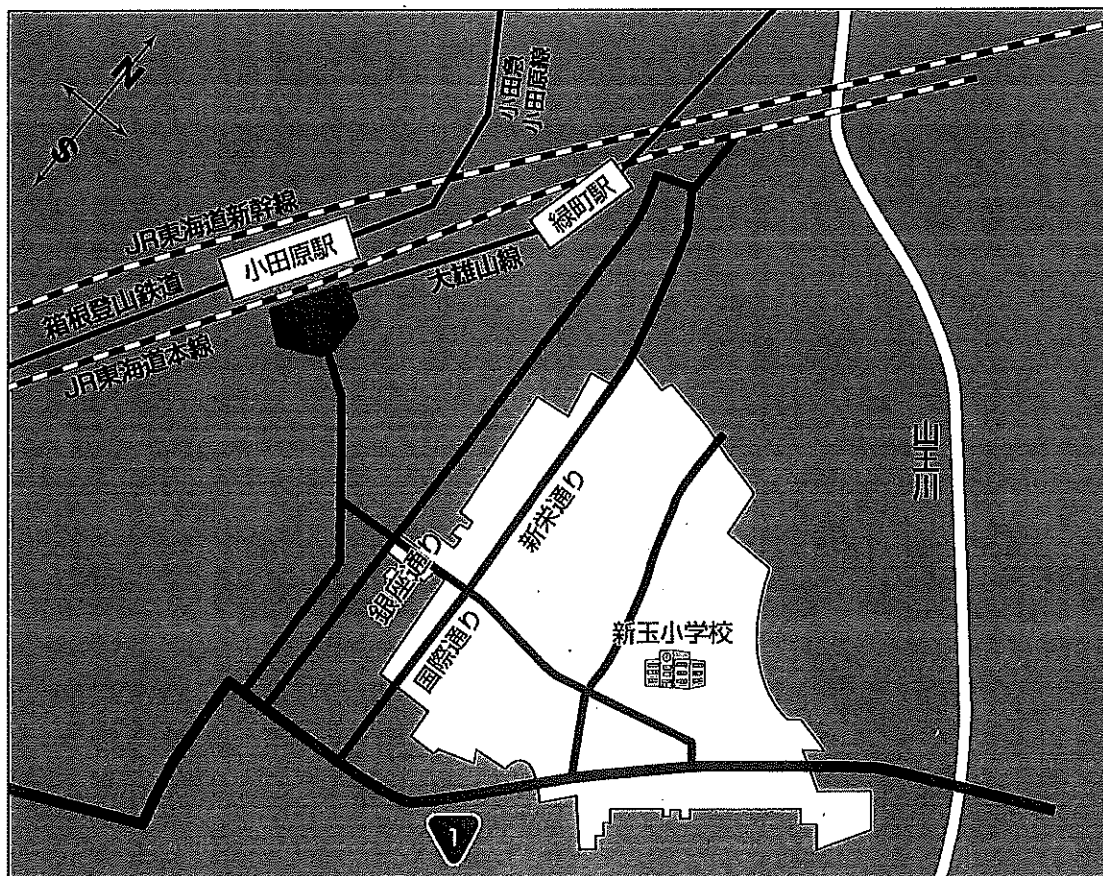
周辺にはありますが、東に山王川が流れ、南は海に面しており、徒歩でも自然を楽しめる環境です。

交通のアクセスは、西には小田原駅や大雄山線緑町駅が徒歩で10分程度の位置にあり、南には国道1号、西湘バイパスが走っており、車による都心への移動にも便利な地域といえます。

商業的には、新玉西部を南北につなぐ新栄通りから国際通り沿いの商店街があり、その通りから東は広大な住宅街が広がります。

住宅街の中央には新玉小学校があり、この地域の小学生は安心して通学できます。

城下町ということもあり寺社が多く、閑静な住宅街です。

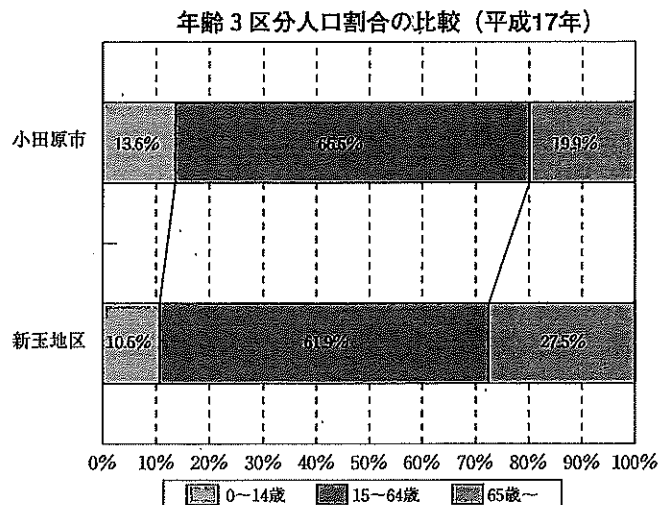
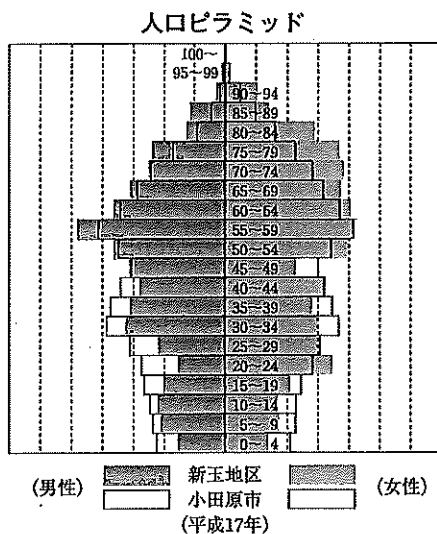
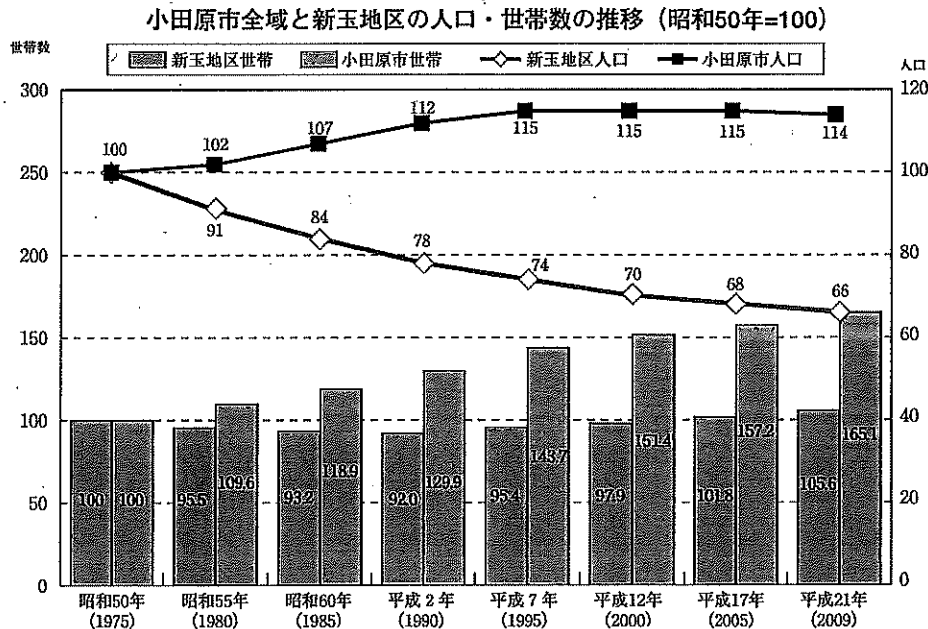


2 地域の人口・世帯

新玉は、市の中心部に位置しているものの、地域が抱える人口は減少し、商店街としての活力が衰えてきているといえます。空き家、空き地が増え、地域の過疎化が心配されます。

小田原市全体のデータと比較してみても、市全体の世帯数が大きく増加しているのに対し、地域の世帯数はほぼ横ばいであり、人口については市の人口がわずかながら増加しているにもかかわらず、地域の人口はあきらかな落ち込みが見られます。

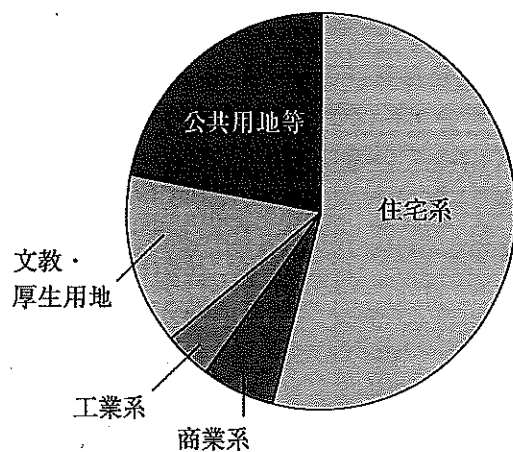
また、世代のバランスをみると、人口ピラミッドでは、小田原市の釣鐘型と比べると、54歳以下の層から若い層にいくほど痩せた形になっています。また生産年齢層（15～64歳）の割合をみても小田原市よりも4%ほど少なく約62%となっており、65歳以上の人の割合は反対に7%ほど多くなっています。人口の減少とともに少子高齢化が進んでいると思われます。



3 土地の利用状況

小田原市は、山林、川、海岸が市の約半分、産業としては農耕地が20%と高水準を占めています。その自然豊かな市のイメージの中であって、本地区は住宅系が半数を超え、商工業に利用されている割合が10%（小田原市5%）と高い割合を占めています。

【新玉の土地利用の状況】



区 分	割合
住宅系	54%
商業系	6%
工業系	4%
文教・厚生用地	14%
公共用地等	22%

地域のキャッチフレーズ

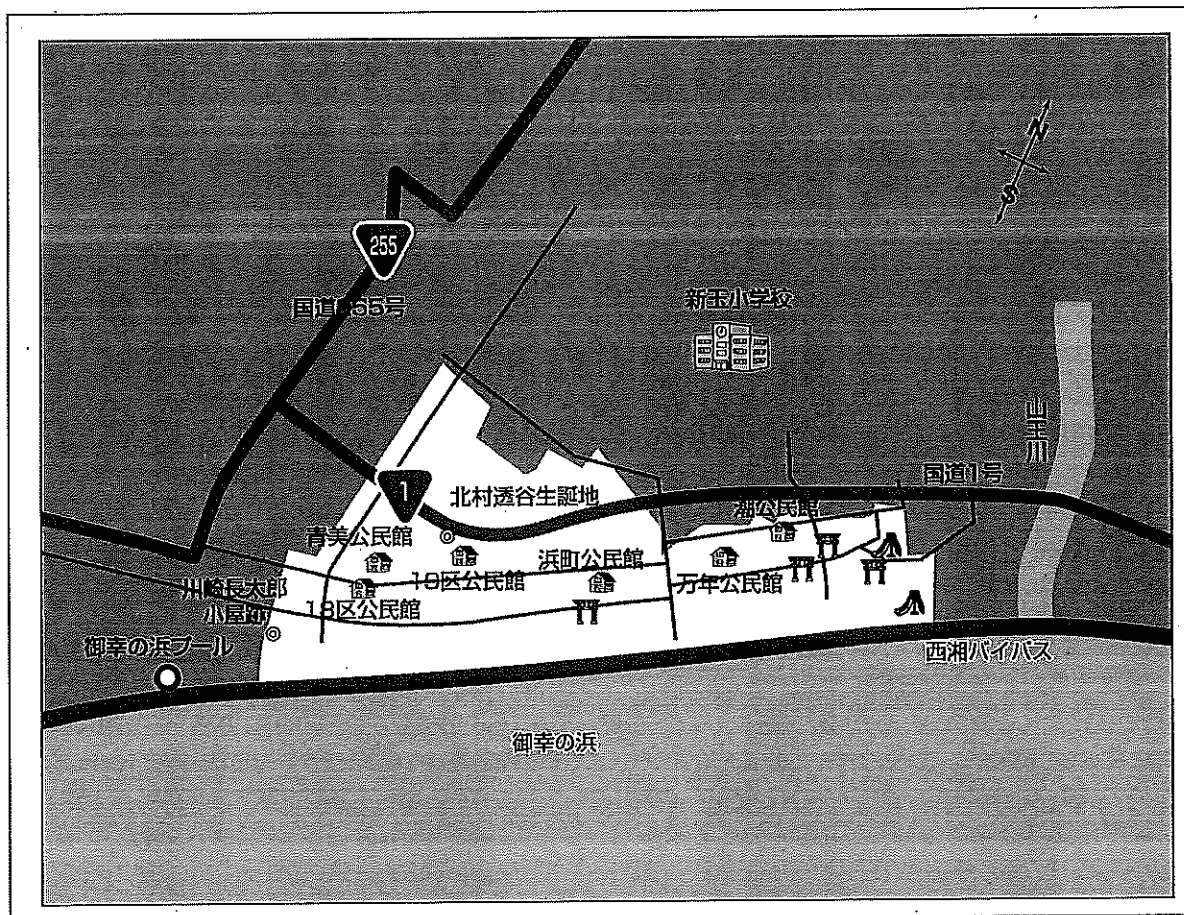
旧き良き伝統のまち 万年

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

万年は、小田原駅の東南1kmに位置し、そのほとんどが国道1号と西湘バイパスにはさまれている、交通の便がよい地域です。

南側は1kmにわたり、相模湾に面しており、地域内には、かまぼこや干物などの水産加工品の店舗が並んでいます。昔は浜辺から魚の水揚げを行い、店先に並ぶ商品までの過程すべてが一連の建物の中で行われていました。今でも、その名残りが感じられる、漁師まちの風情が残っている地域です。



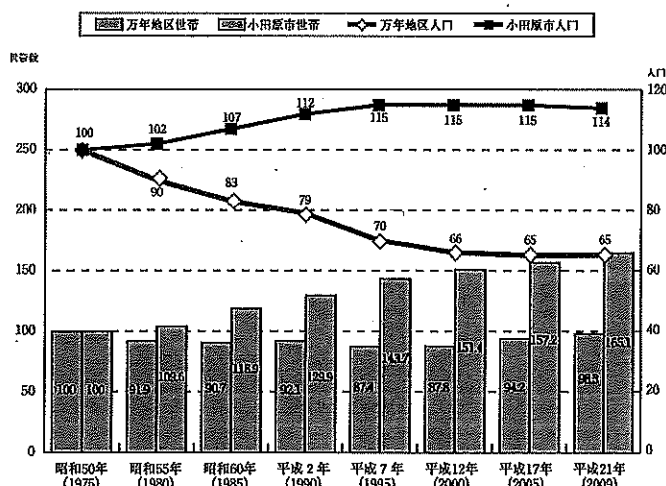
2 地域の人口・世帯

万年の人口・世帯の推移は、昭和50（1975）年を100とした場合、平成21（2009）年は、人口が65、世帯数が98.3となっています。昭和50年から平成12年までの25年間で、市全域では人口・世帯とも増加傾向にあります。万年では人口は3分の2ほどまで激減し、世帯数も減少傾向にあります。

次に、人口の構成をみると、市全域の傾向でもある団塊世代の人口が多く、特に万年では男女ともに55歳から59歳までの世代が突出して多いのが特徴です。また、第二次ベビーブーム世代の人口はそれほど多くなく、若い年齢層になるほど人口が減少しています。

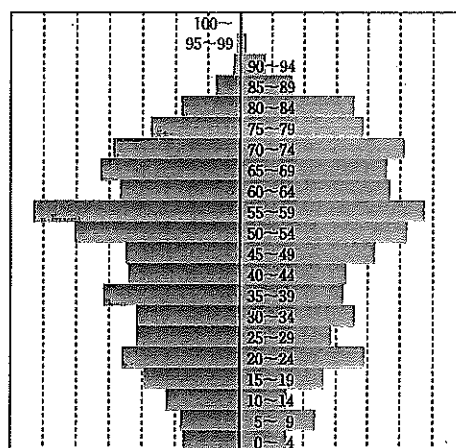
また、年齢3区分人口割合では、高齢人口（65歳以上）が市全域では20%に対して万年では27%であり、7ポイント上回っています。しかし、15歳未満人口は、市全域では14%に対して地域では9%であり、5ポイント下回っており、少子高齢化が進んでいることがうかがわれます。

市全域と万年地区の人口・世帯数の推移
(1975年=100)

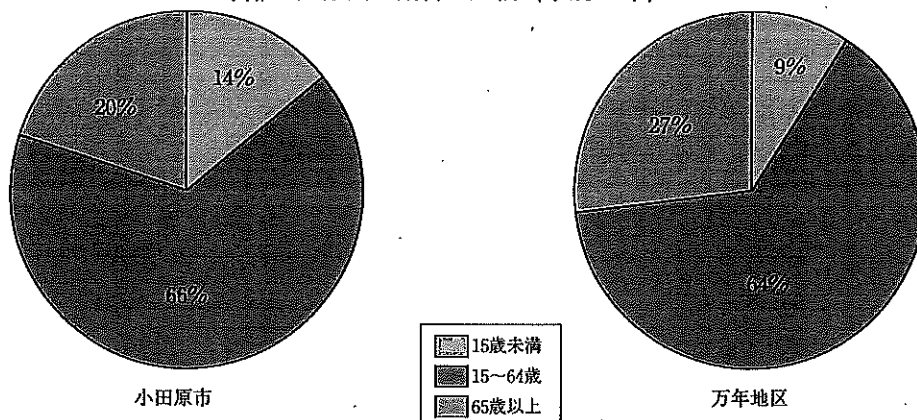


人口ピラミッド (万年地区)

(男性) 2005年 (H17年) (女性)



年齢3区分人口割合の比較 (平成17年)

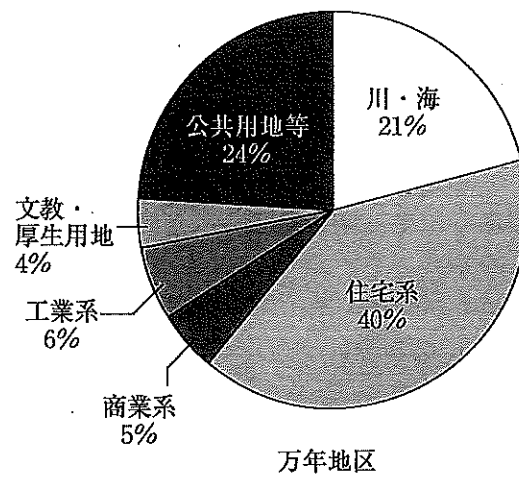
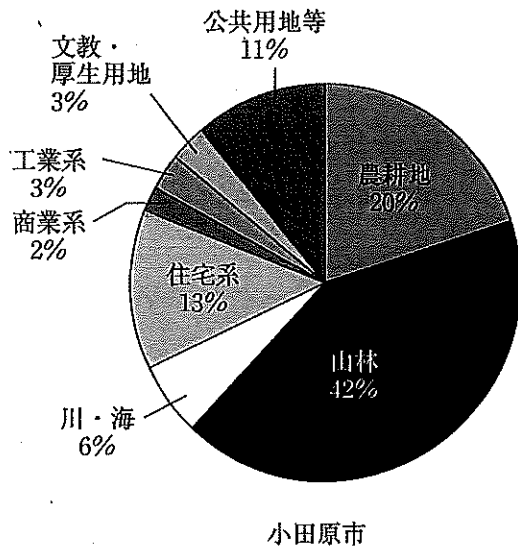


3 土地の利用状況

土地利用の状況としては、住宅系が40%を占めており、そのほか商業、工業と合わせると地域の半数を占めています。また、相模湾に面していることから、川・海が21%と割合が多くなっています。

一方、市全域に見られる山林や農耕地は万年にはないのが特徴となっています。

【土地利用の状況】



地域のキャッチフレーズ

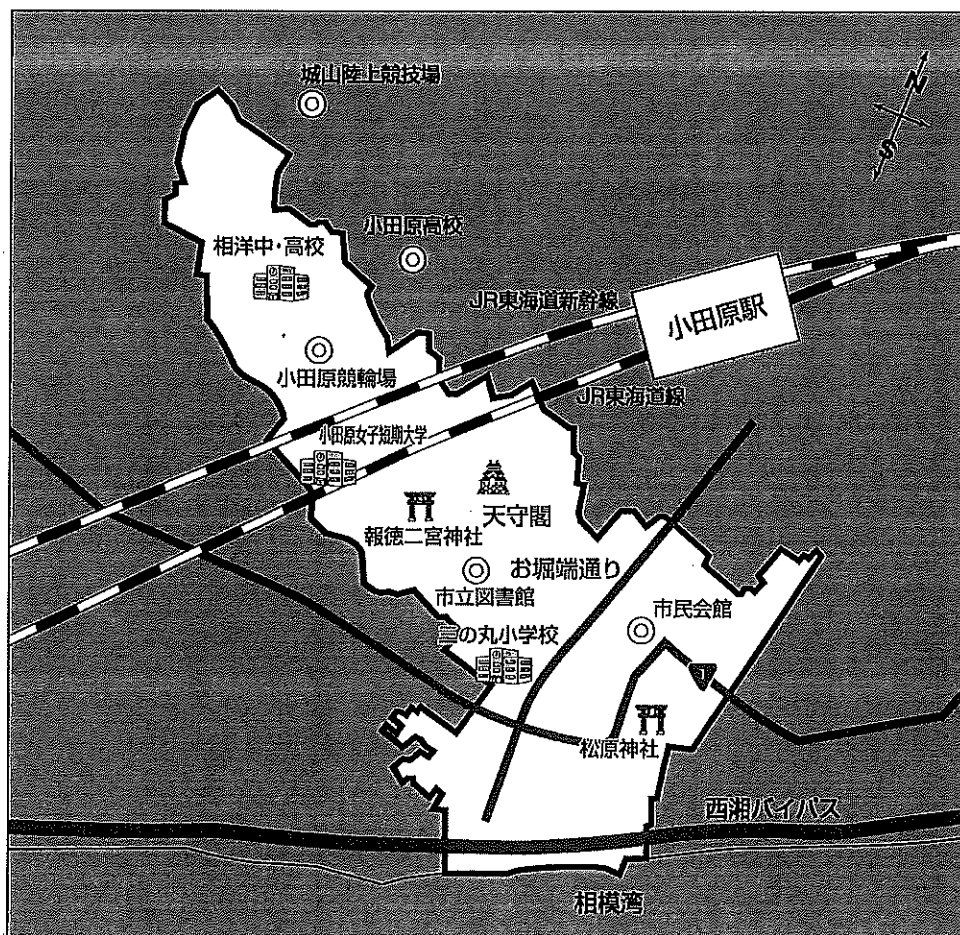
**いつまでもこれからも住み続けたい、
だれもが安心して暮らせる自然と歴史文化が調和したまち**

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

幸は、小田原駅の南から北西に細長く位置しており、JR東海道線、JR東海道新幹線が横断し国道1号と255号が通る交通至便の地域です。東は万年と新玉に、西は大窪に、北は緑に、そして南は十字と御幸の浜に接しています。地域内のもっとも北西には城山公園があり、海岸との高低差90m、面積88.3haの地域です。

中央には、小田原のシンボルである小田原城天守閣がそびえ、周囲には北条早雲の時代から城の守り神社とされている松原神社など、数多くの史跡・文化財が今もなお残っています。また、三の丸小学校、明德学園相洋中学校及び高等学校、小田原女子短期大学、市立図書館、小田原市民会館などがあり、歴史と文化が調和した、文教地区です。

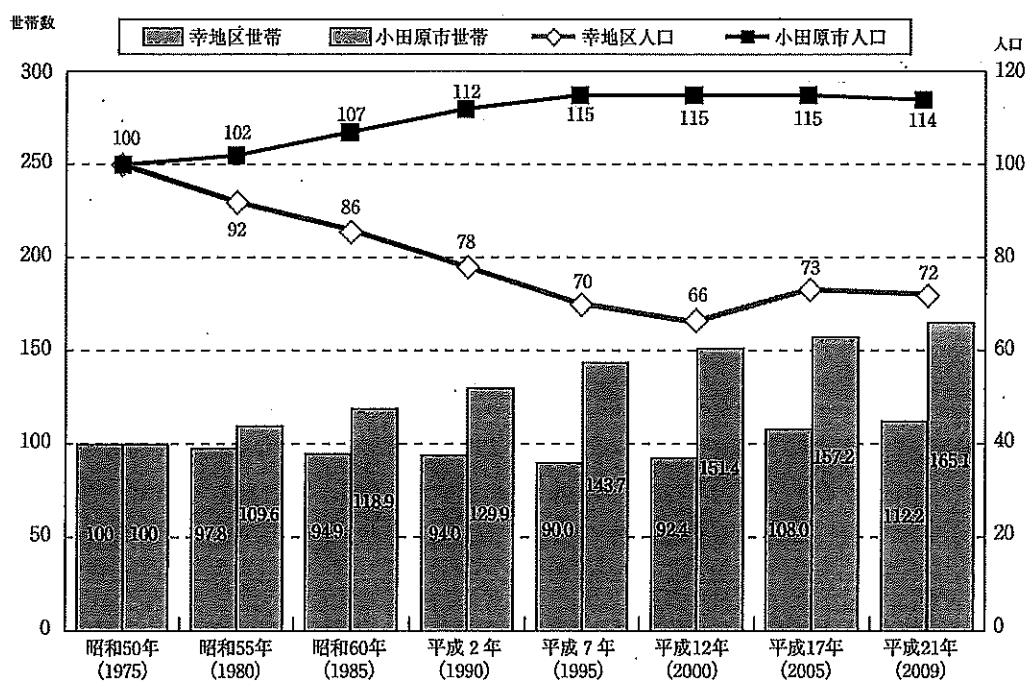


2 地域の人口・世帯

市全域では、人口は昭和50年（1975年）から平成12年（2000年）までの間、増加の傾向にありますが、幸ではその25年間、減少を続け、平成12年（2000年）には3分の2まで減少しています。世帯数も同様に、市全域では平成21年（2009年）まで増加を続けていますが、地区では平成12年（2000年）まで減少が続いています。しかし、地区内にマンションが建設されたためか、平成12年以降は人口・世帯数とも微増しています。

幸地区と市全域の人口・世帯数の推移

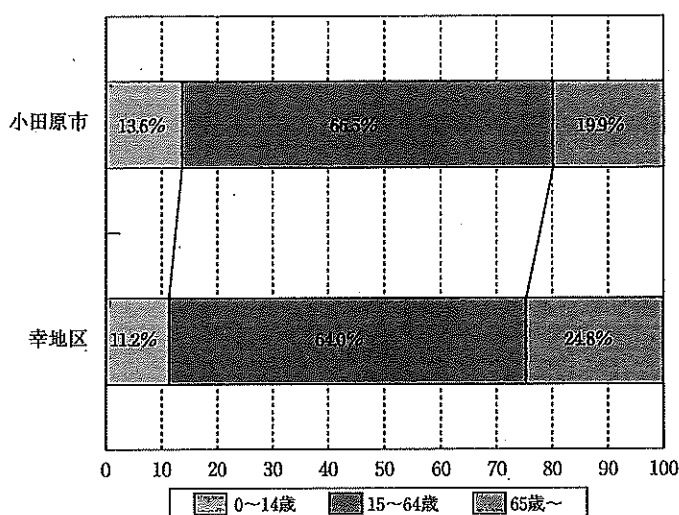
(1975年=100)



人口の構成としては、団塊世代の人口は多く、第二次ベビーブーム世代の人口がそれほど多くないのが特徴です。30歳以下の人口は少なく、特に乳幼児の数が少ない状況です。

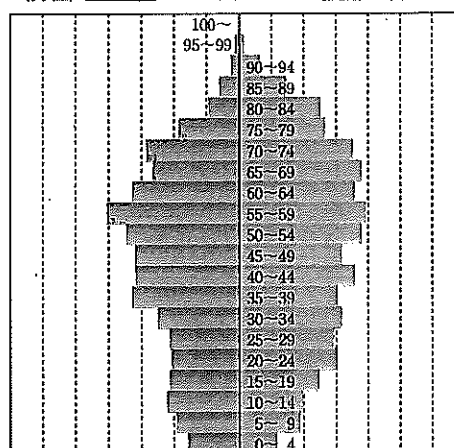
また、年齢3区分人口割合を見ると、市全域と比較した場合、15歳未満人口が少なく、高齢人口（65歳以上）が多くなっており、少子高齢化が進んでいる地域であるということが分かります。

年齢3区分人口割合の比較（平成17年）



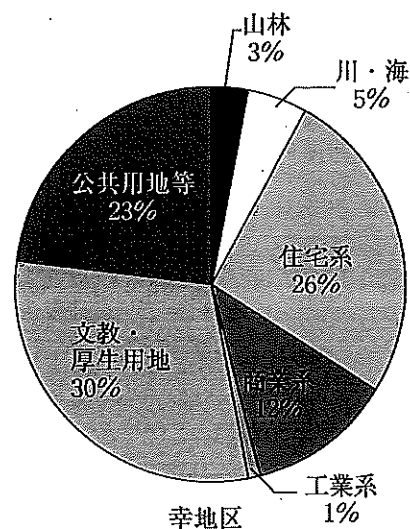
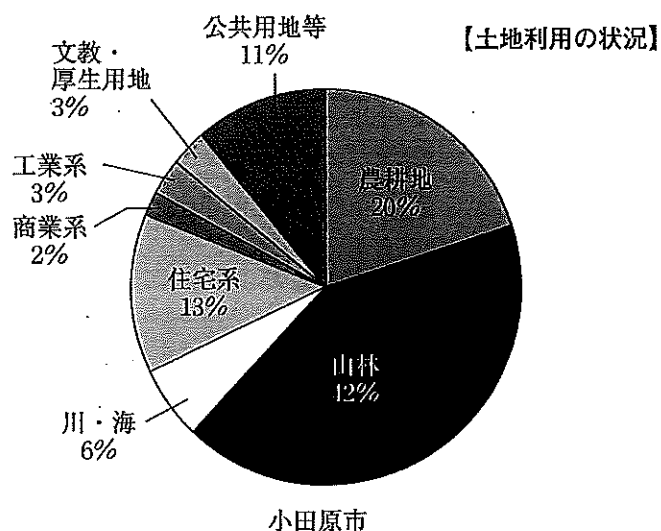
人口ピラミッド

(男性) 2005年(H17年) (女性)



3 土地利用の状況

土地の利用状況を見ると、地区内に三の丸小学校、明德学園相洋中学校及び高等学校、小田原女子短期大学などの学校や、図書館、報徳博物館、その他神社も多数あることから、文教・厚生用地が30%と最も面積割合が多くなっています。また、小田原城址公園や市民会館などを有していることから、公共用地等が23%と多くなっているのも特徴です。



地域のキャッチフレーズ

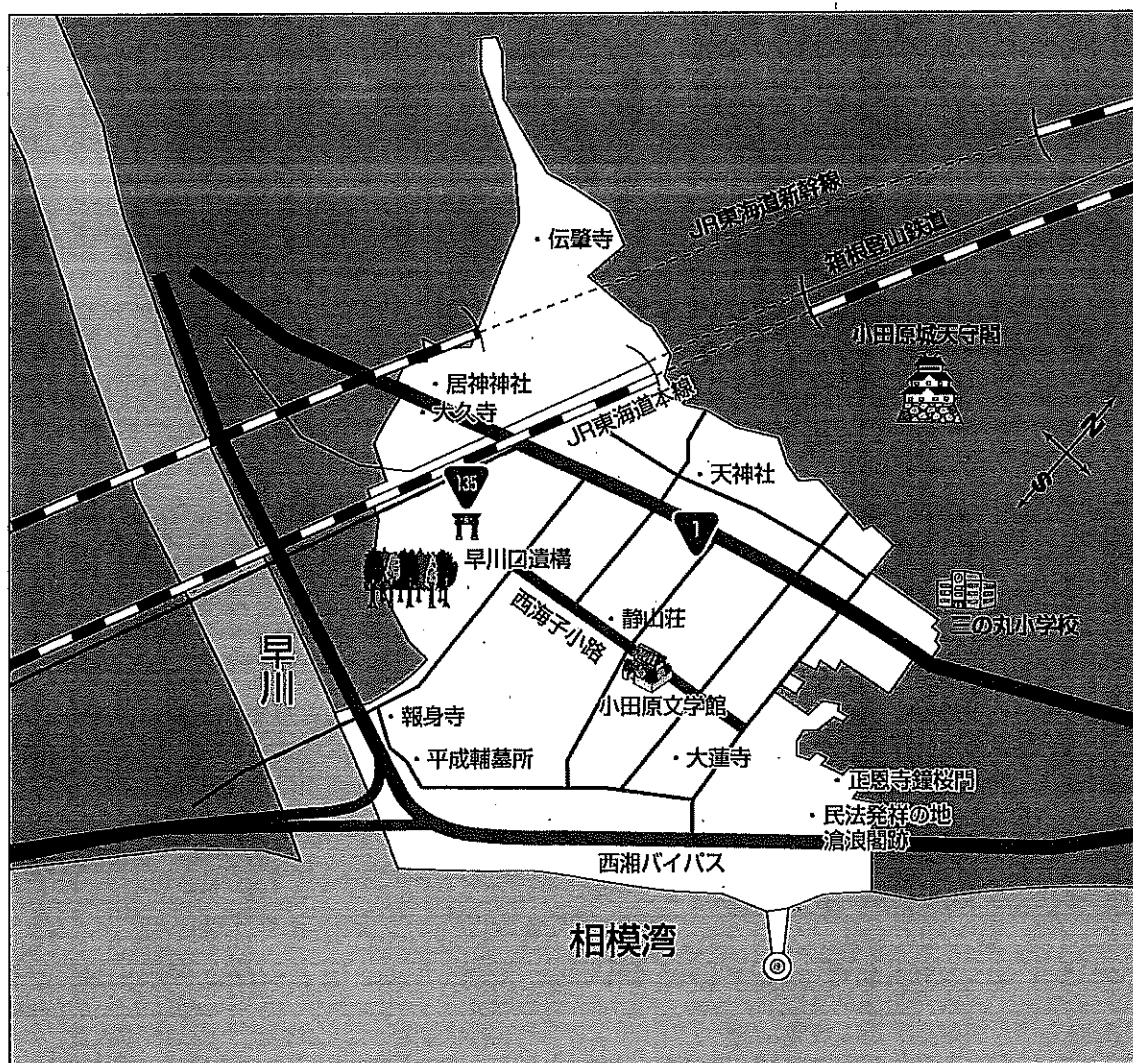
歴史と文化のいぶきの中で みんなで創ろう豊かなまちを

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

十字は、小田原市街地の南西部に位置し、北東部は幸に、南西部は大窪並びに早川の下流、相模湾に接しています。

地区の中心には、旧東海道を拡幅利用した国道1号が東西を走り箱根方面へアクセスしており、また、南側の海岸沿いには、西湘バイパス（国道1号バイパス）が設けられています。さらに、小田原市早川口から熱海方面へ国道135号が通じています。

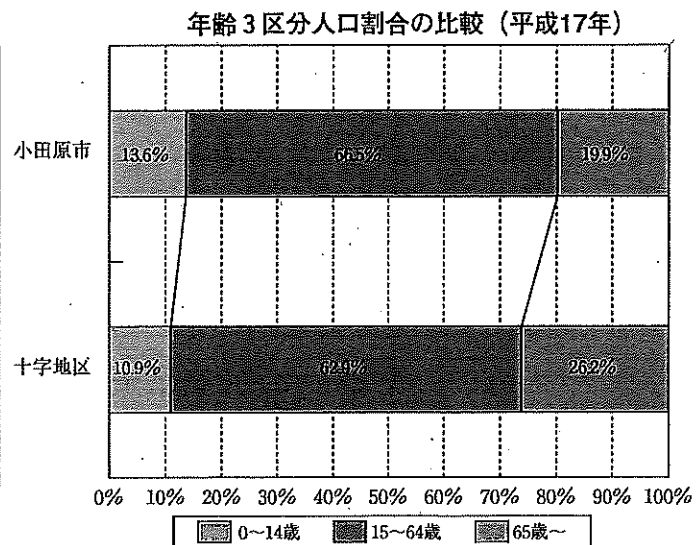
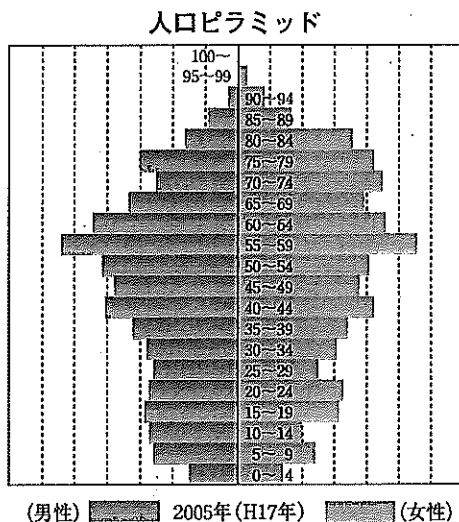
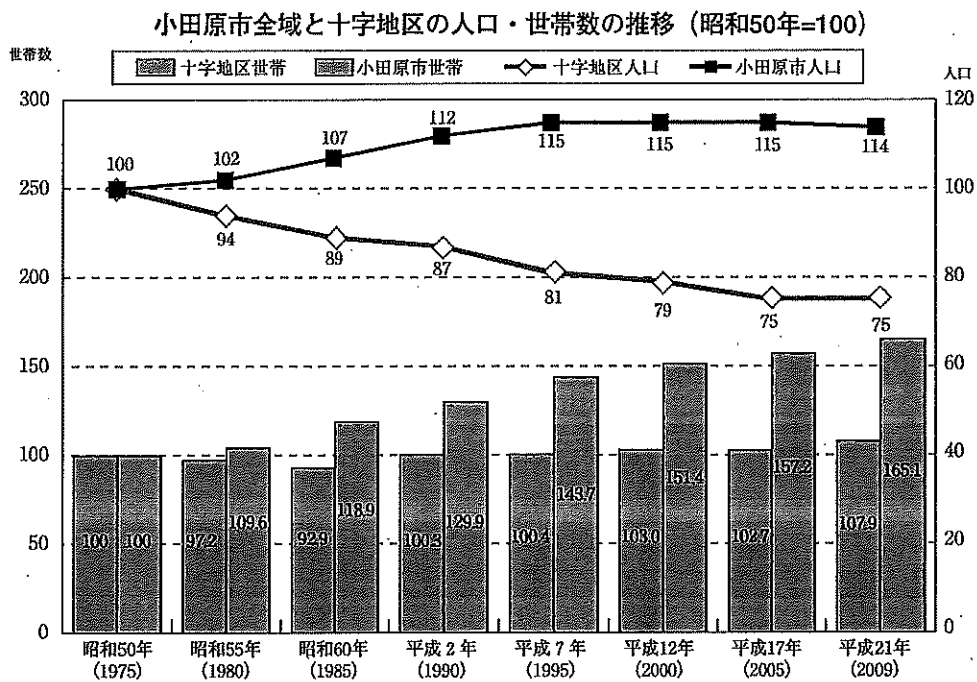


2 地域の人口・世帯

昭和50（1975）年と比較すると、平成21（2009）年における人口は、約3/4に減少しています。

一方、世帯数はゆるやかに増加しています。

また、年齢3区分人口の割合を小田原市全体と比較すると、65歳以上の割合が多くなっており、15歳未満の割合は少なくなっています。



地域のキャッチフレーズ

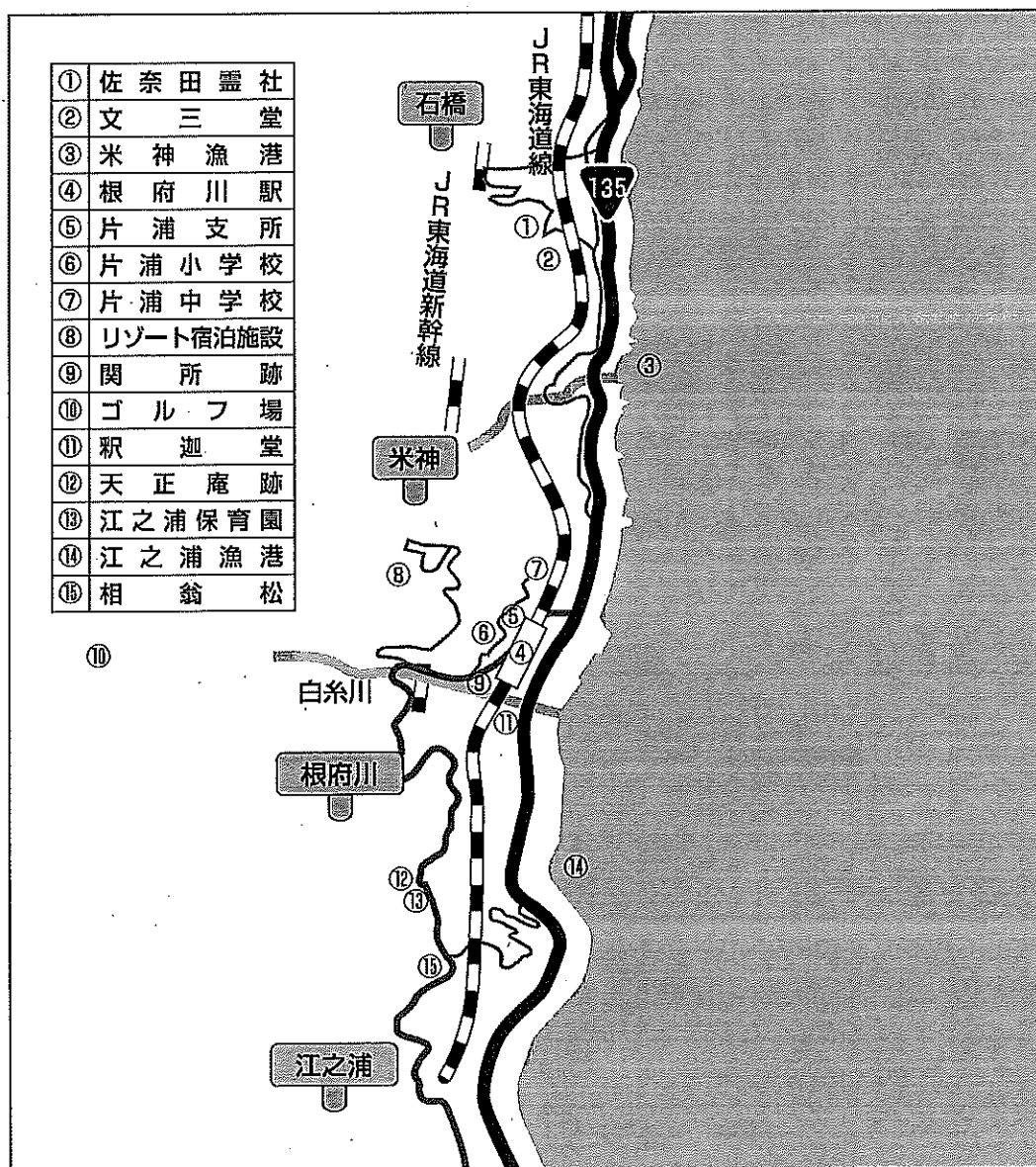
海と山・四季の香り漂う 片浦

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

片浦は、市内の西部に位置し、西は真鶴町、湯河原町、北は箱根町と接し、斜面には果樹園が多く見られる地域です。

東側を海に面し、海岸線沿いを国道135号、J R東海道線、J R東海道新幹線がほぼ並行に通っており、小田原で最も西にある駅として、J R根府川駅があります。

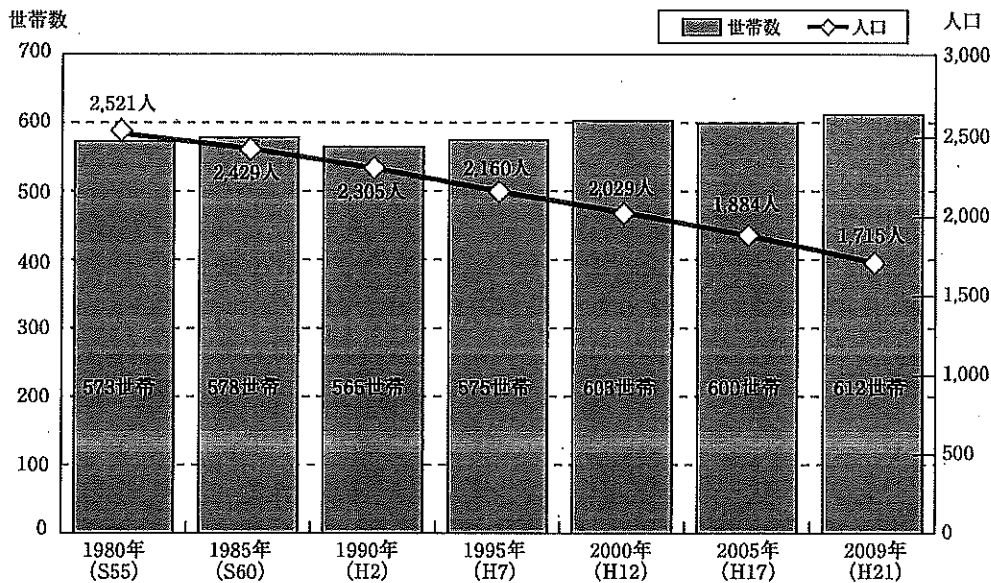


2 地域の人口・世帯

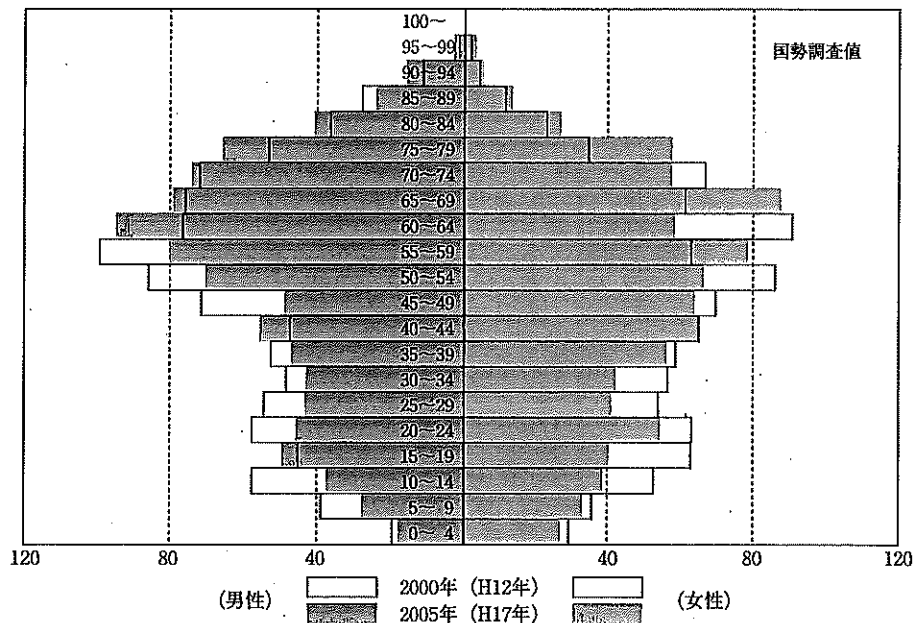
昭和55年（1980年）と比較すると、平成21年（2009年）で地域の人口は約30%減少し、世帯数は約8%増加しています。人口は昭和55年（1980年）から減少が続いていますが、世帯数はほぼ横ばいか微増しており、1世帯あたりの人数は昭和55年（1980年）の約4.4人から、平成21年（2009年）の約2.8人と大幅に減少しています。

人口の構成は、他地区と同様に「団塊の世代」が多いですが、65歳以上の割合を比較すると、小田原市全体が19.9%に対して片浦地区は29.4%と約10ポイント高く、高齢化が進んでいることがわかります。

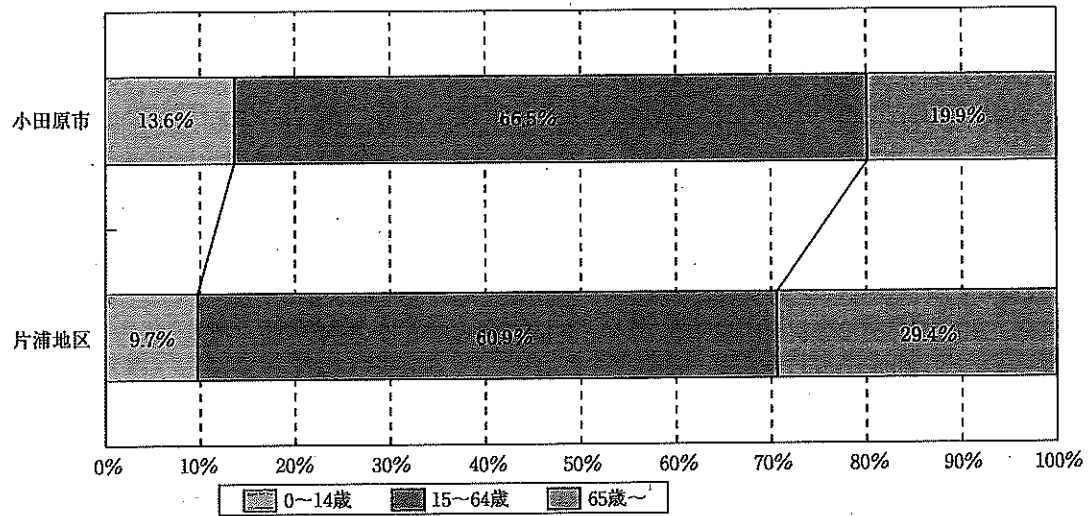
片浦地区の人口と世帯数の推移



片浦地区の人口ピラミッド



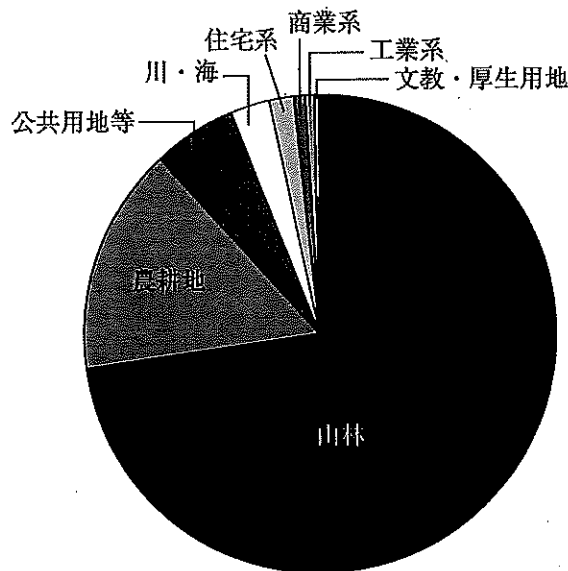
片浦地区と小田原市の年齢3区分人口割合の比較（平成17年）



3 土地の利用状況

山林と農耕地を合わせると全体の90%弱を占めており、学校や道路などの公共用地等の5.7%、住宅地の1.7%に比べて、緑に多く囲まれ、自然環境が豊かな地域です。

反面、商工業系などがとても少ない地域です。



区 分	割 合
山林	72.8%
農耕地	15.4%
公共用地等	5.7%
川・海	2.7%
住宅系	1.7%
商業系	0.8%
工業系	0.6%
文教・厚生用地	0.3%
合 計	100.0%

地域のキャッチフレーズ

海・山・川

自然の恵みを大切に！！

笑顔で広げる人の  和 はやかわ

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

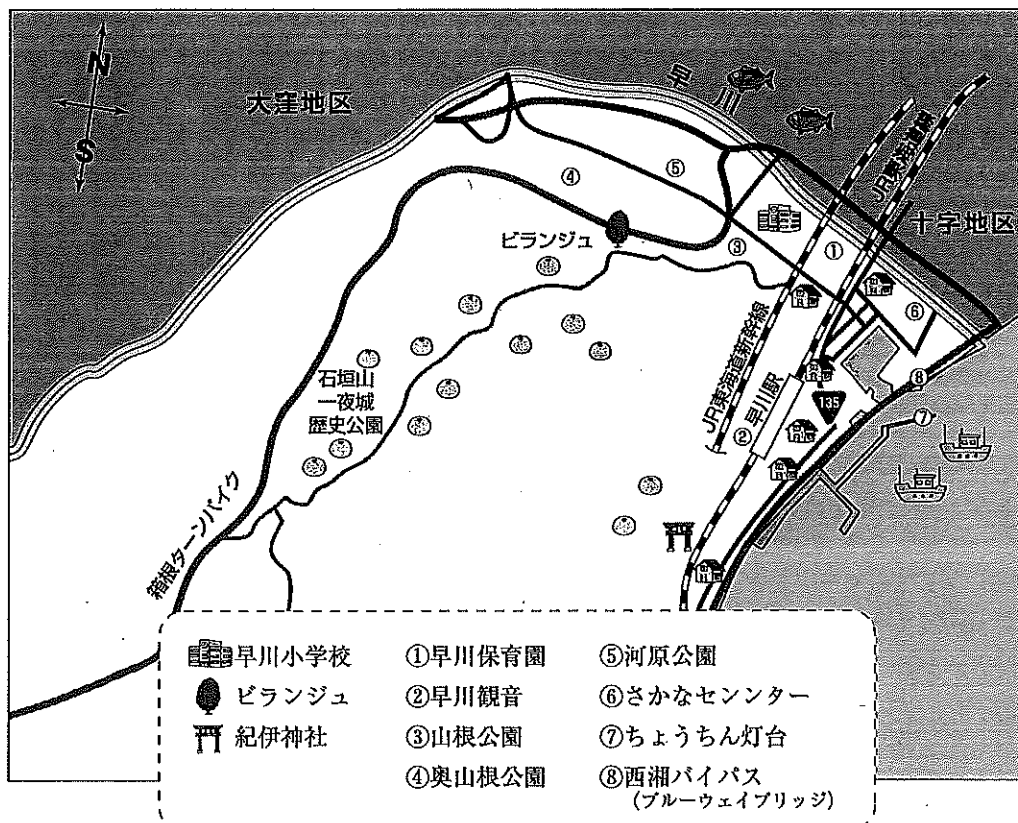
1 地域の地理状況

早川地区は、小田原市の西部に位置し、海・山・川に囲まれた面積およそ9.7km²の地域です。南部を片浦、北部を大窪、北東部を十字に接しています。

西には箱根山が連なり、北には早川が流れ、南には一夜城・みかん山が広がり、東は海に面し、晴れた日には大島、遠くは房総半島を見ることができます。一夜城からは、小田原市内や相模湾が一望でき素晴らしい景色を楽しむことができます。

海岸沿いをＪＲ東海道新幹線、ＪＲ東海道線、国道135号が平行に通り、ＪＲの駅の中で港に一番近い駅の早川駅があり、国道135号には、日本一背の低い信号機があります。また、小田原厚木道路や西湘バイパスのインターに隣接し、箱根ターンパイクのインターもあり交通の利便性の良いところです。

小学校3，4年生の社会科の教科書にも取り上げられるほどの、環境に恵まれた地域です。



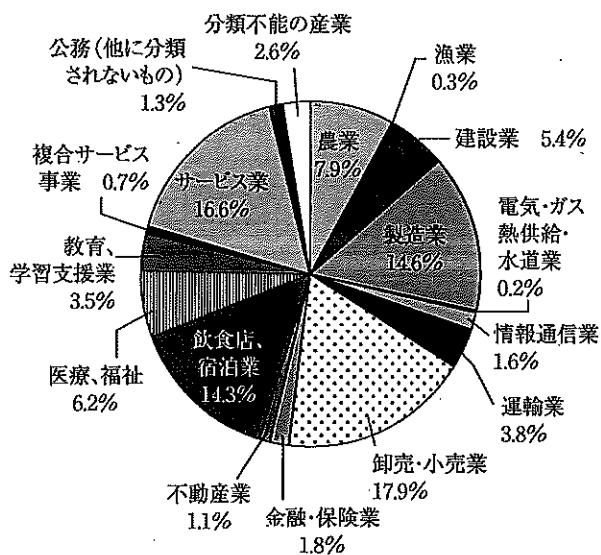
2 地域の人口・世帯

人口構成は、団塊の世代及び団塊ジュニア世代が多くなっています。小田原市と早川地区の年齢3区分人口割合に目を移しますと、65歳以上の割合が、小田原市全体の19.9%に対し、早川地区は24.5%と約4.5ポイント高く、高齢化が進んでいます。人口及び世帯数の推移では、1980年～2009年において、人口の減少が続いています。一方、世帯数は2000年にピークを迎えた後、若干減少しています。

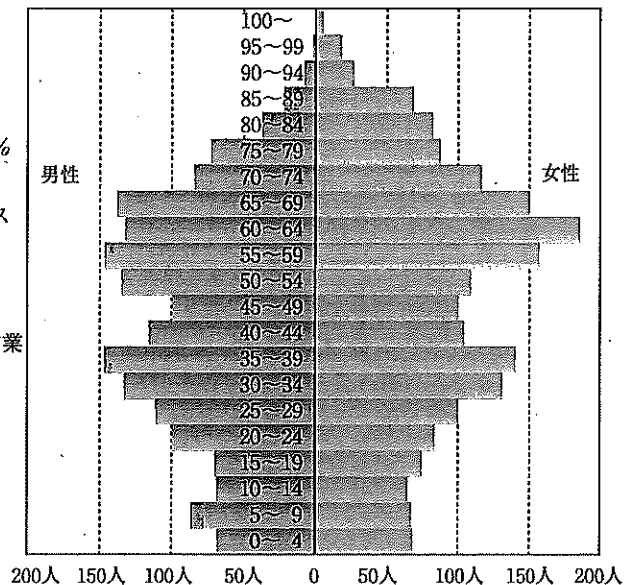
(平成17年)

	世帯数	人 口	0歳～14歳	15歳～64歳	65歳以上
小 田 原 市	74,291世帯	198,741人	27,117人	132,060人	39,564人
早 川 地 区	1,473世帯	3,719人	427人	2,380人	912人

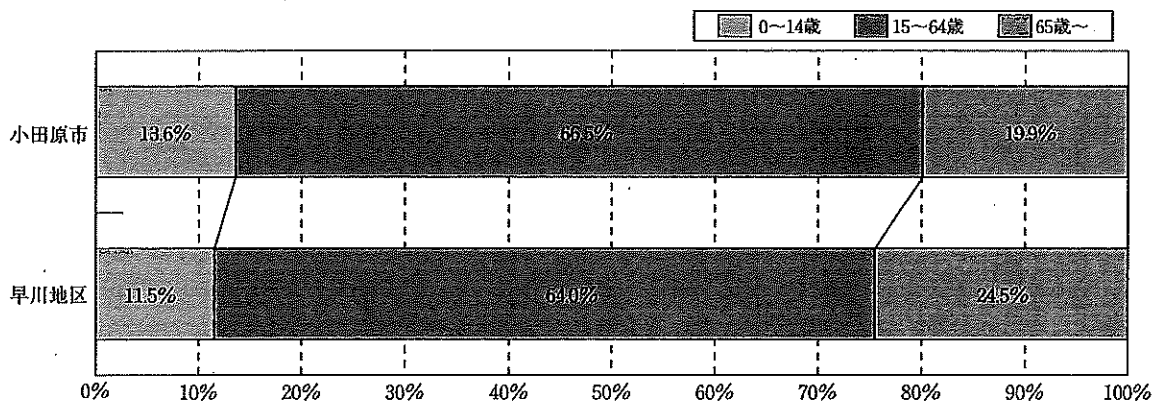
産業別就業者数の割合



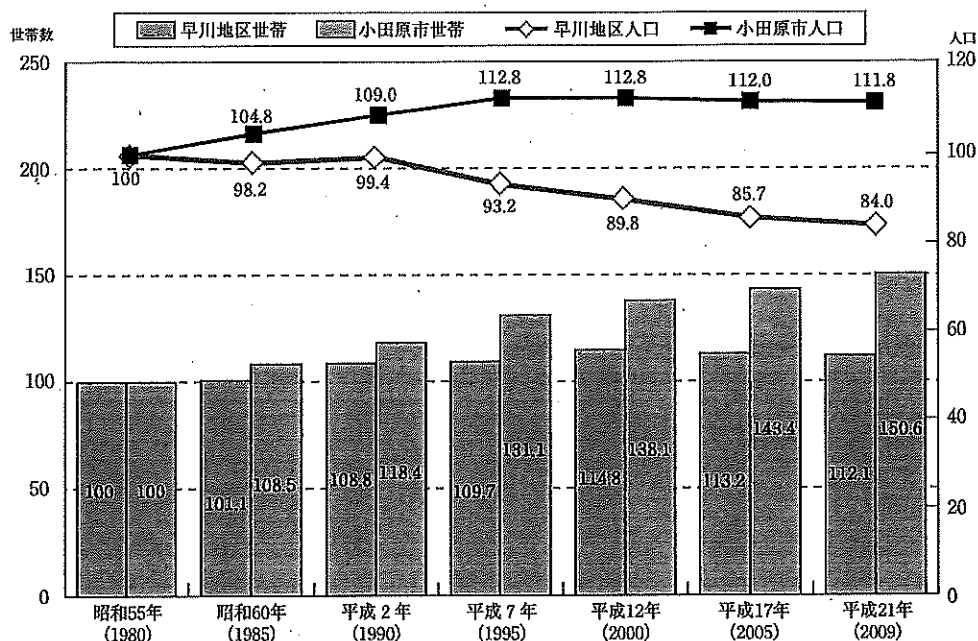
人口ピラミッド (平成17年)



小田原市と早川地区の年齢3区分人口割合の比較 (平成17年)

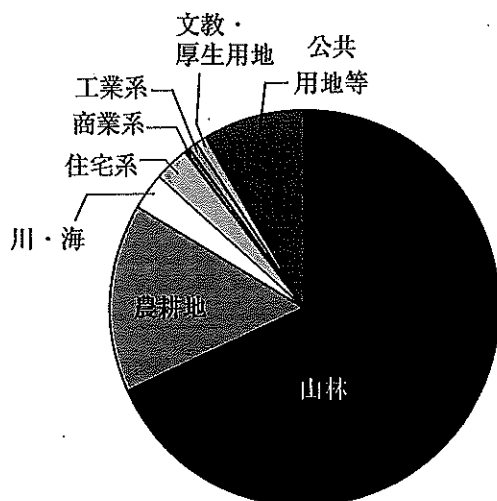


小田原市と早川地区の世帯数及び人口の推移 (1980年=100)



3 土地の利用状況

土地の利用状況は、山林、農耕地及び川・海で全体の85%以上占めており、自然に恵まれた地域環境です。早川地区には、小田原漁港があるため公共用地等が8.4%と高い割合になっています。



区 分	割 合
山林	68.2%
農耕地	15.4%
川・海	3.0%
住宅系	2.9%
商業系	0.5%
工業系	0.7%
文教・厚生用地	0.9%
公共用地等	8.4%
合 計	100%

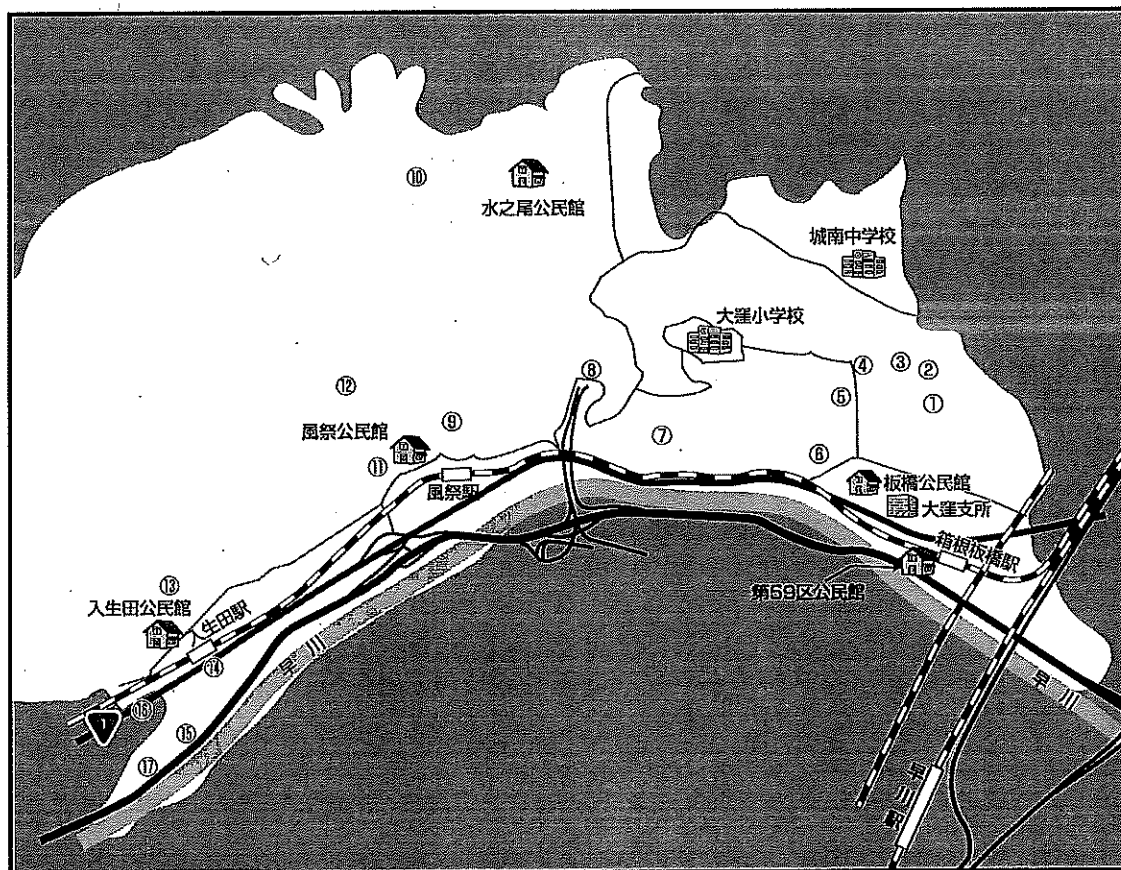
地域のキャッチフレーズ

歴史と文化遺産が薫り、自然と環境に恵まれたまち 大窪

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

大窪は小田原市西部に位置し、西側を箱根町に接しています。南側を地域に沿って早川が流れ、早川と並走するように国道1号が通っています。また、箱根板橋駅、風祭駅、入生田駅と箱根登山鉄道の駅が3つあり、これらの駅には小田急小田原線も乗り入れています。



① 古稀庵跡	② 皆春荘	③ 山月
④ 香林寺	⑤ 松永記念館	⑥ 板橋地藏尊（宗福院）
⑦ 富士山の砦	⑧ 妙貞院尼墓	⑨ 旧箱根国立療養所
⑩ 水之尾毘沙門天	⑪ 一里塚	⑫ 葛松院
⑬ 長興山紹太寺	⑭ カゴノキ	⑮ 生命の星・地球博物館
⑯ 駒留橋跡	⑰ 温泉地学研究所	

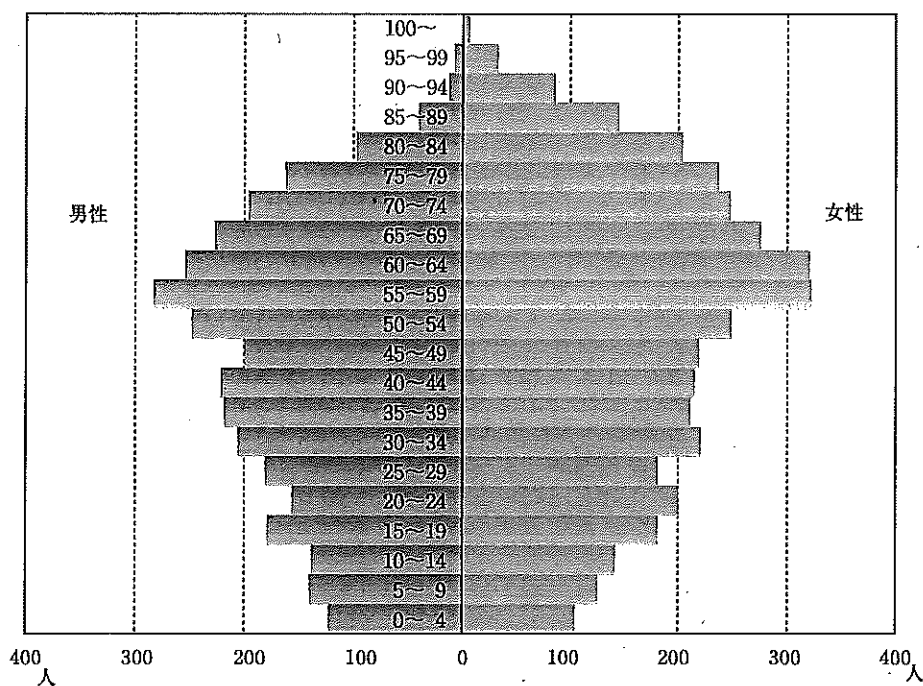
2 地域の人口・世帯

人口ピラミッドをみますと、男女共に団塊の世代が多く、若い年齢層にいくほど人数が減少している傾向が見られます。

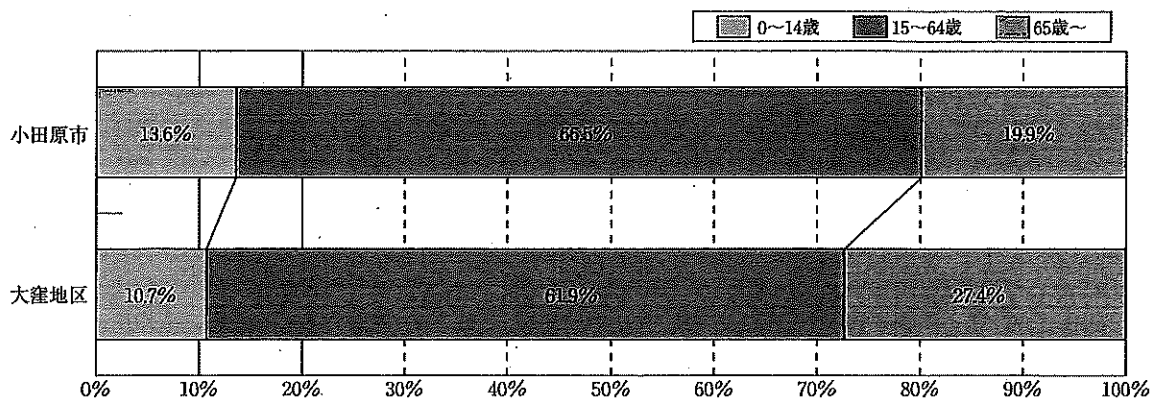
次に、年齢3区分人口割合の老齢人口（65歳以上）の割合を小田原市全体と比較いたしますと、小田原市全体が19.9%に対して大窪地区は27.4%と8ポイント近く上回っており、高齢化が進んでいることが見てとれます。

また、人口・世帯の推移を見ますと、1980年（昭和55年）を100とした場合、2009年（平成21年）では世帯数が126.7、人口が99.7と世帯は増加し、人口は微減となっています。1980年（昭和55年）から2009年（平成21年）を通して見ますと、世帯は一貫して増加傾向であるのに対して、人口は1990年（平成2年）にピークを迎えた後、減少傾向が続いています。

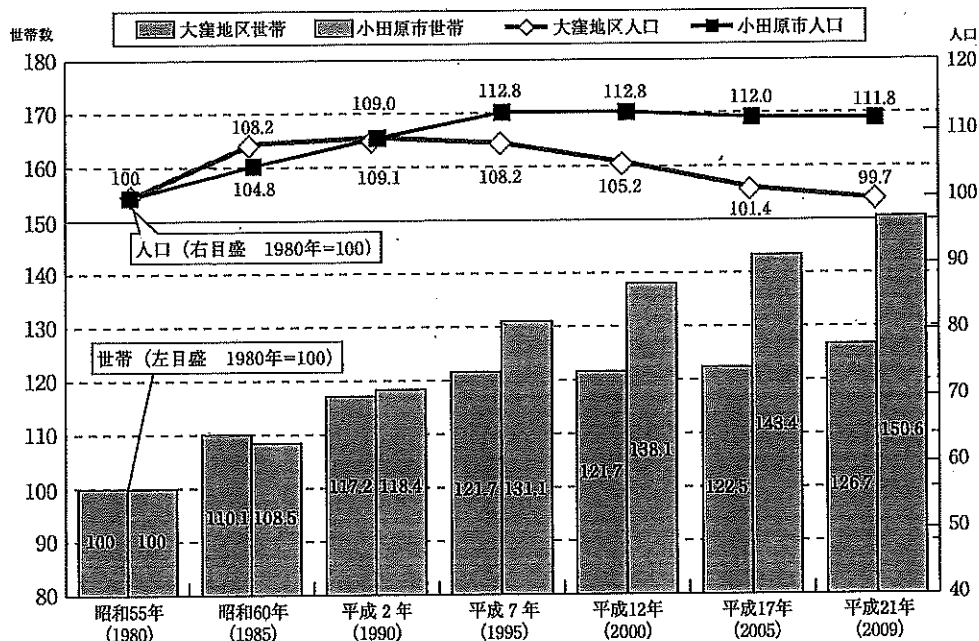
大窪地区の人口ピラミッド（平成17年）



大窪地区と小田原市の年齢3区分人口割合の比較（平成17年）



小田原市と大窪地区の人口・世帯の推移

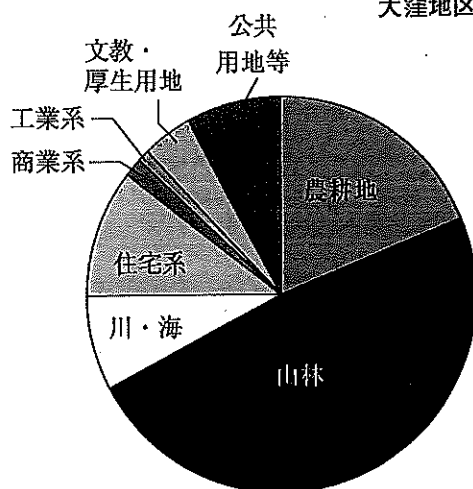


3 土地の利用状況

大窪の土地利用状況の割合をみると、農耕地、山林、川・海の合計で75%と小田原市の同合計68.4%に比べて高く、自然が豊かな地域です。反面、商業系、工業系の割合は小田原市に比べて少ないです。

そして、学校、幼稚園、寺院、神社や博物館などの文教・厚生施設が多くなっているのが、大窪の特徴であります。

大窪地区の土地利用状況



区 分	大窪地区	小田原市
農耕地	18.8%	20.4%
山林	48.5%	42.0%
川・海	7.7%	6.0%
住宅系	10.5%	13.3%
商業系	1.5%	2.1%
工業系	1.0%	2.9%
文教・厚生用地	4.2%	2.7%
公共用地等	7.8%	10.6%
合 計	100%	100%

地域のキャッチフレーズ

潮騒の香る地域づくり

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1. 地域の地理状況

私たちの山王網一色は、小田原市の中央地域に位置し小田原駅から約1.5km～2kmのところにある。

西側に山王川が、東側に酒匂川が流れ「まち」の中央に国道1号が通っている。

国道の南側は相模湾に接し、北側からは丹沢、箱根の連山、その間に富士山を見ることができる風光明媚な「まち」である。

かつては松林がいたるところにあり、白砂青松の地で漁業の盛んな半農半漁のまちであった。今は自動車産業の隆盛と共に、トヨタ、日産、ホンダ等の営業所やガソリンスタンドが営業をしている。

また、わずかな地域に「小」「中」「高」の学校があり（山王小学校、白鷗中学校、小田原総合ビジネス高等学校）、文教の「まち」になっている。

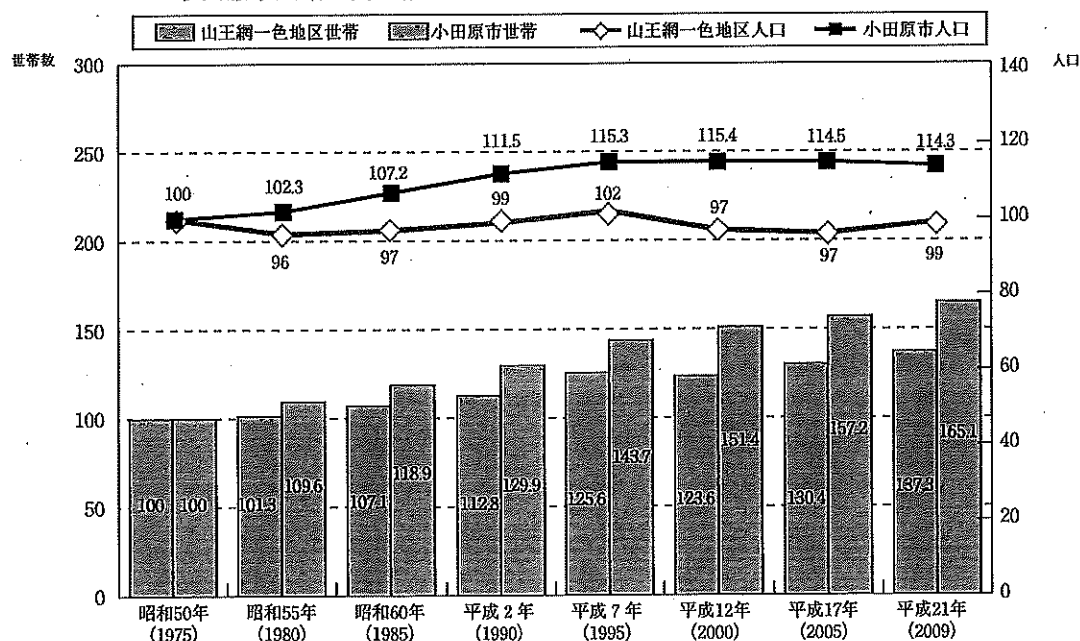
2. 地域の人口・世帯

地区内の世帯数は1,881世帯（2000年より13.7%増加）

人口は4,695人（2000年より2.0%増加）

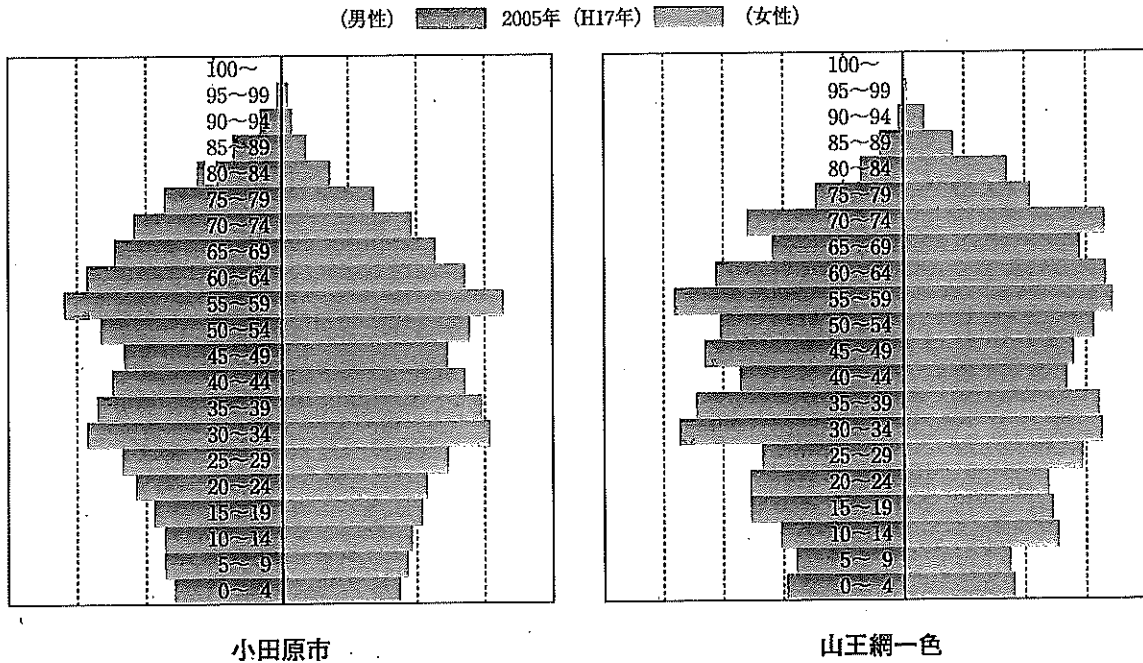
少子高齢化が進んでいる。自治会加入は約1,600世帯

小田原市全域と山王網一色地区の人口・世帯数の推移（1975年＝100）

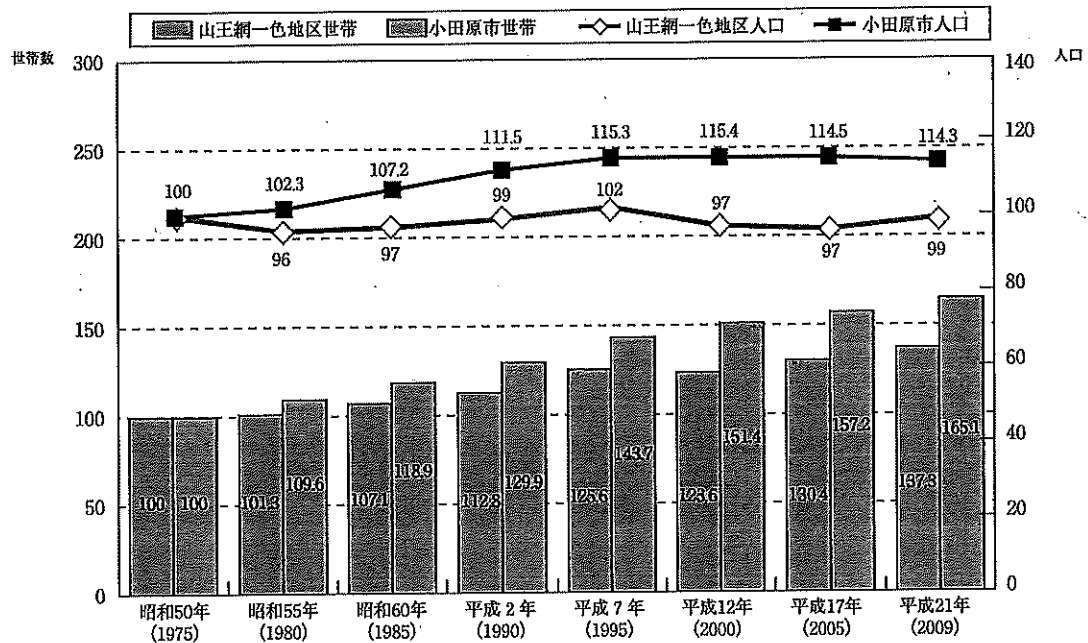


山王網一色地区の人口・世帯数・面積・土地利用の状況

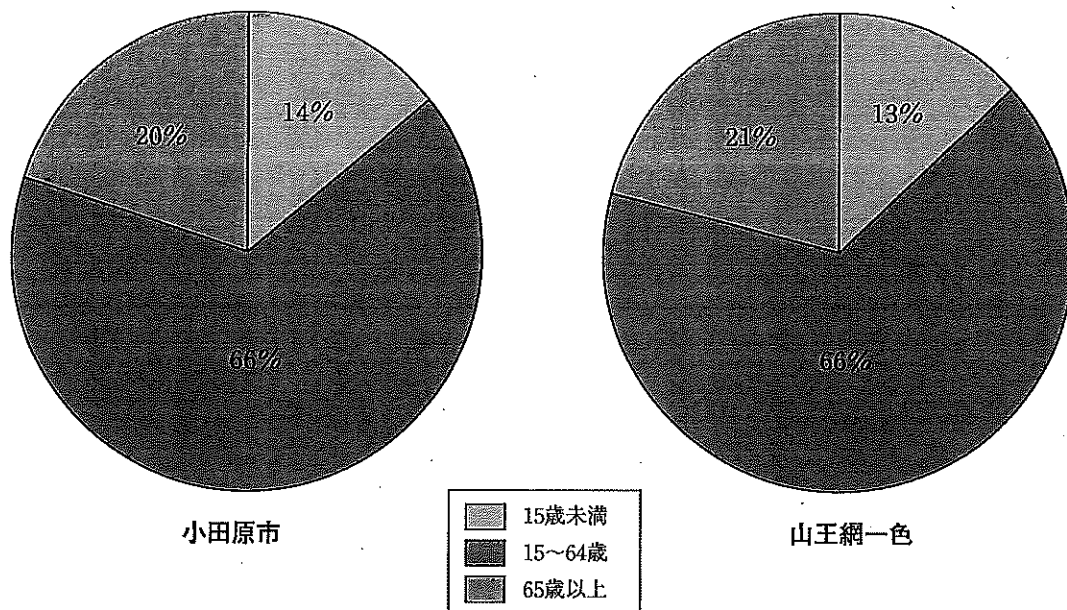
1. 人口ピラミッド



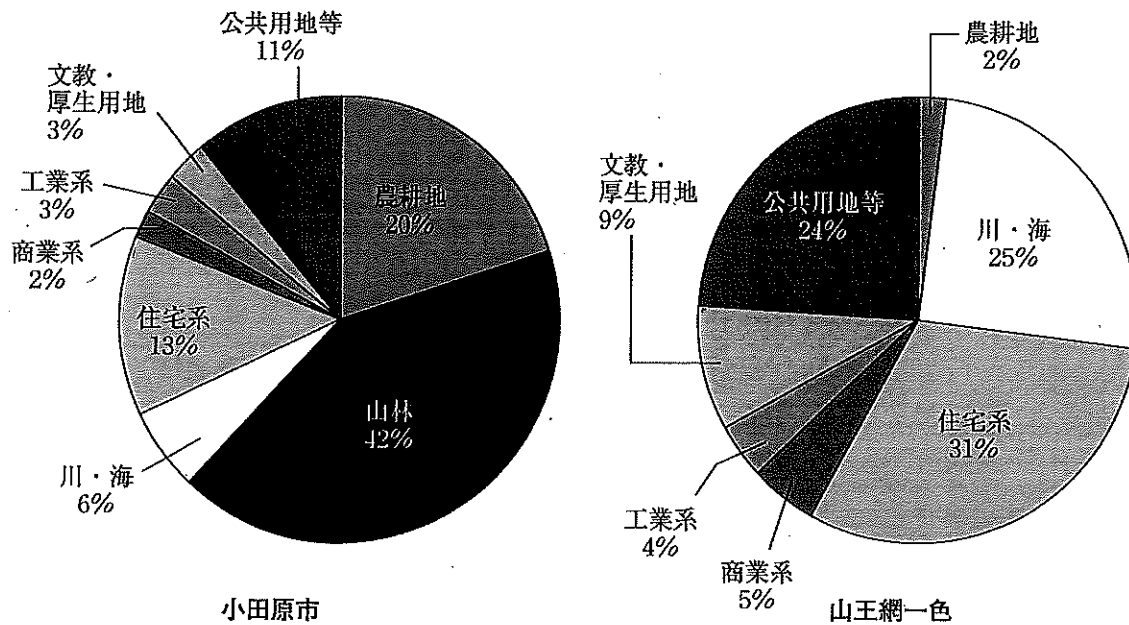
2. 人口の推移



3. 年齢3区分人口の割合の比較



4. 土地利用の状況



地域のキャッチフレーズ

住んでみたい 住んでよかった 足柄

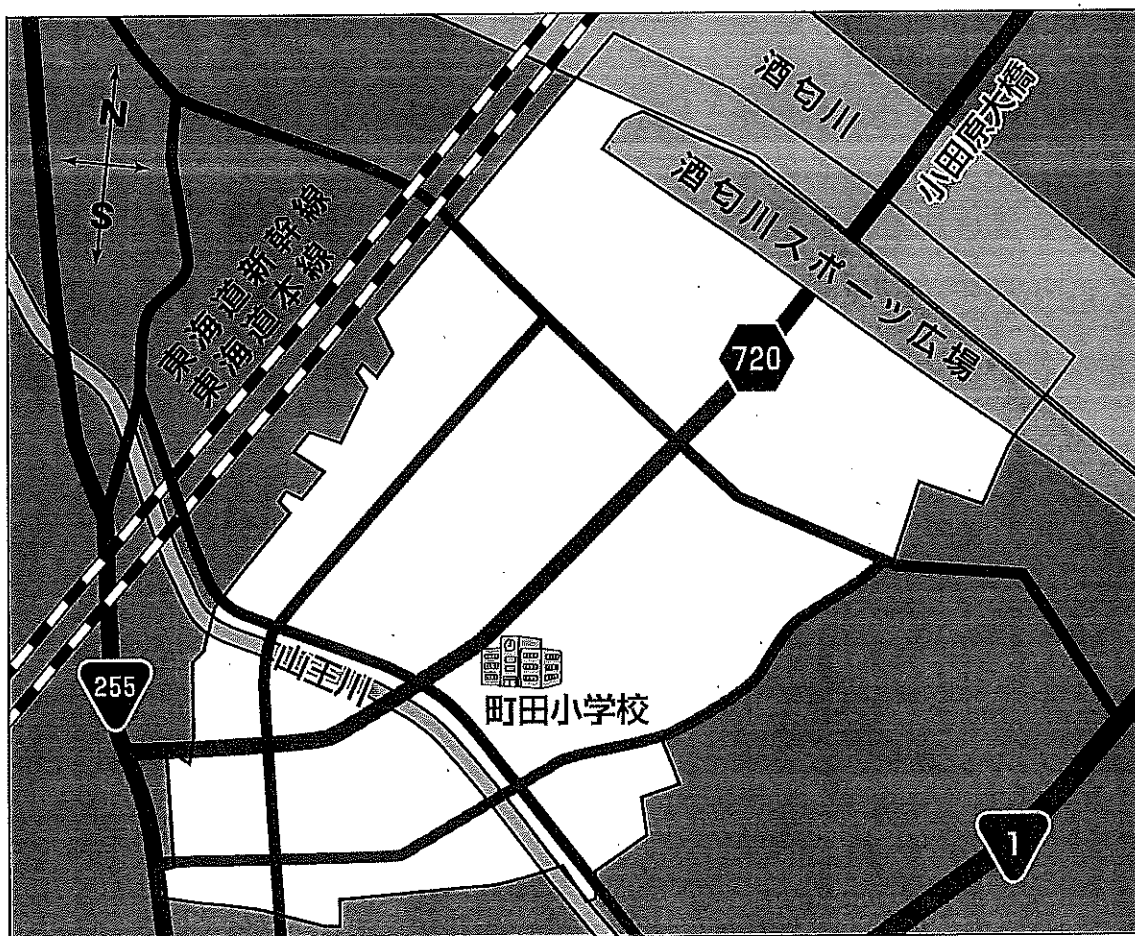
地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

足柄は、小田原駅の北東に位置し、地域の北側にはＪＲ東海道本線、東海道新幹線が走っています。

また、南には国道１号、西には国道255号が通っていて、東には酒匂川、西には山王川が流れており、酒匂川には小田原大橋がかかっている、川東地区に通ずる交通の結節点となっています。

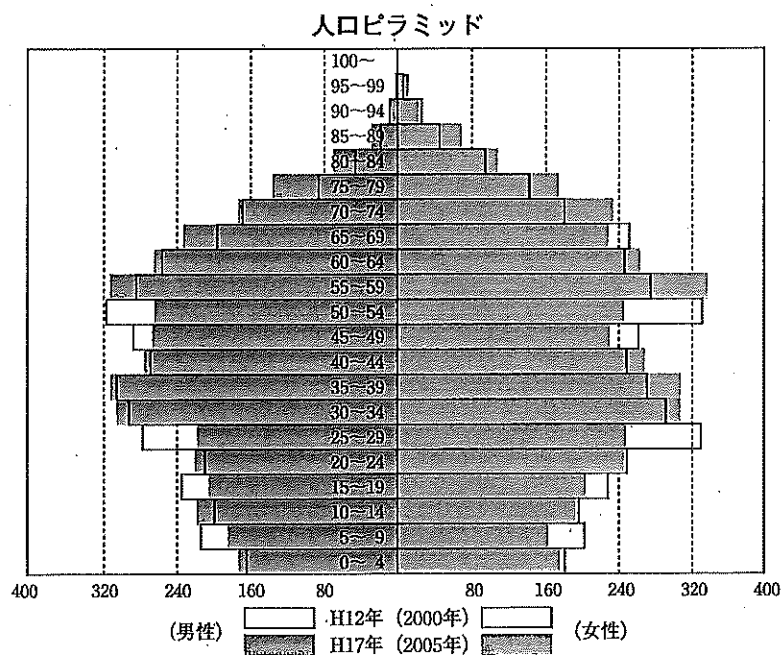
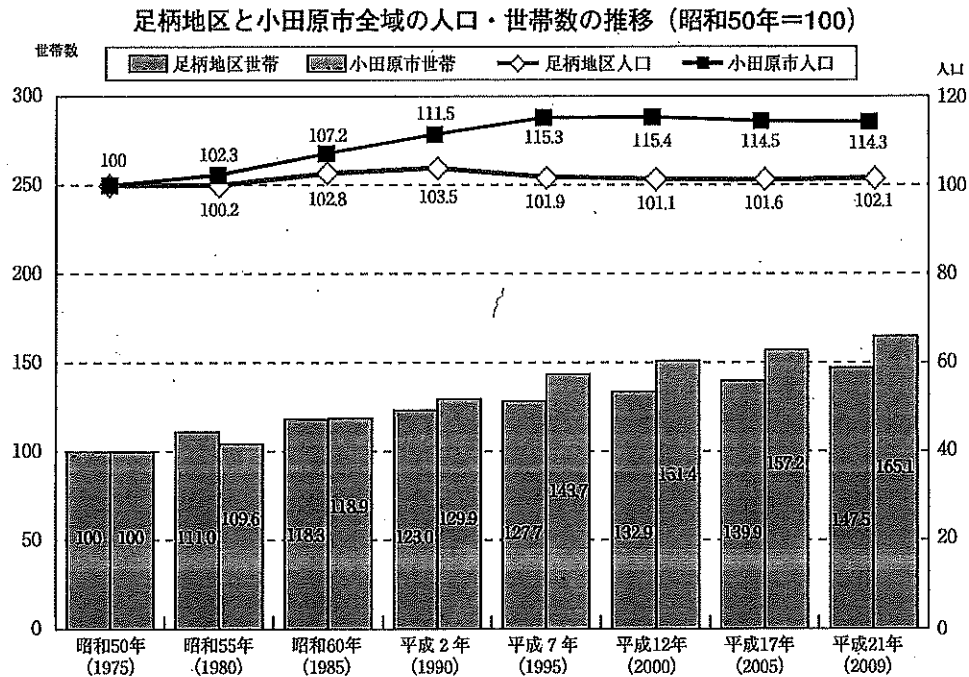
そして、小田原駅へも徒歩でいける距離にあり、生活に便利な閑静な住宅街がひろがっています。



2 地域の人口・世帯

市全域では、人口は昭和50年（1975年）から平成12年（2000年）までの間増加し、その後緩やかな減少傾向にあります。足柄地区はほぼ横ばいになっています。世帯数は、市全域も足柄地区も増加が続いています。

人口の構成としては、団塊の世代と第二次ベビーブーム世代の人口が多く、子どもが少ないことが特徴です。

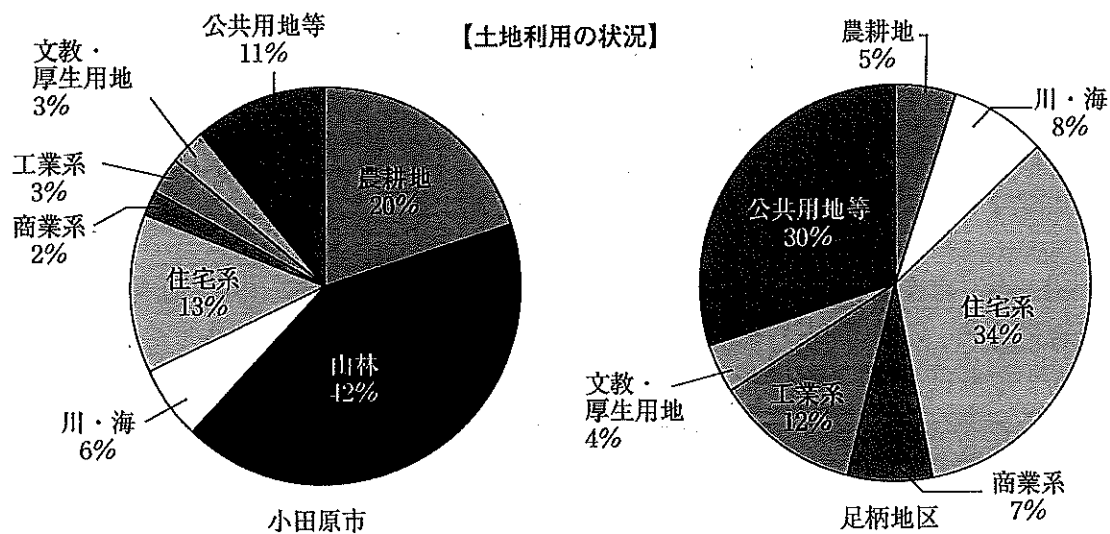


3 土地の利用状況

小田原市全域と比較すると農耕地や山林が少ない地域です。用途地域は工業地域、準工業地域に指定されており、工業系が約12%を占めています。

しかし、地域内では住宅系が約34%と最も多く、次いで公共用地等が約30%となっており、住宅と工業が混在した地域となっています。

そして、川が約8%を占めています。地域の東側には酒匂川が、西側には山王川が流れ、用水路がいたるところで見ることが出来る水が豊富な地域です。



地域のキャッチフレーズ

人と伝統と発展が融和するまち 芦子

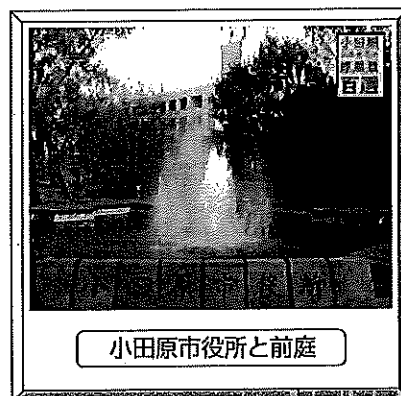
地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の位置と地勢

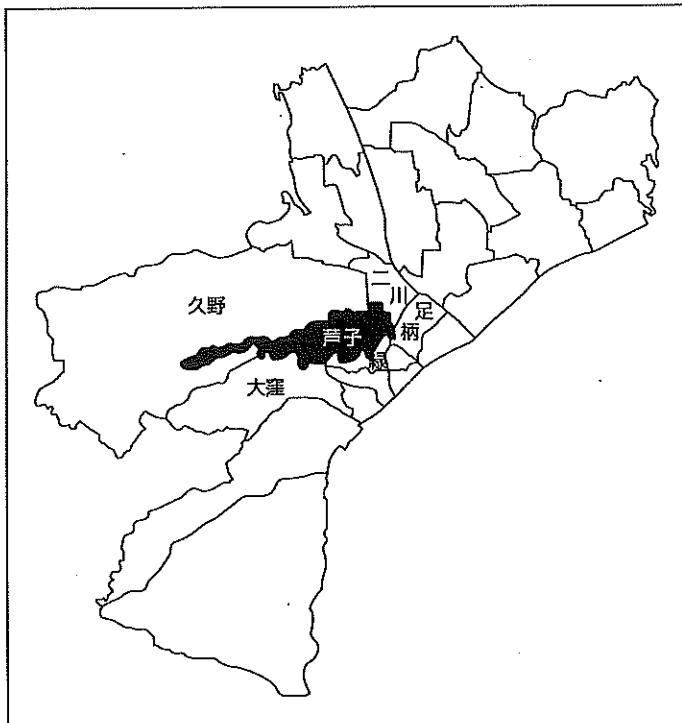
芦子は、小田原市の中央部に位置し、面積は約3㎢の地域です。周囲を久野、二川、足柄、緑、大窪に囲まれています。

西部は、箱根連山に連なる山地で、地域の北側部分を小田原厚木道路が通り、出入口として荻窪インターチェンジが設けられています。

また、官庁街として、小田原市役所、小田原合同庁舎、小田原税務署が集まっているほか、5つの鉄道会社が乗り入れて、県西最大の乗降客数を誇る小田原駅に隣接し、交通の便も良く、生活には便利な地域です。



小田原市役所と前庭



けやき通りの落ち葉拾い

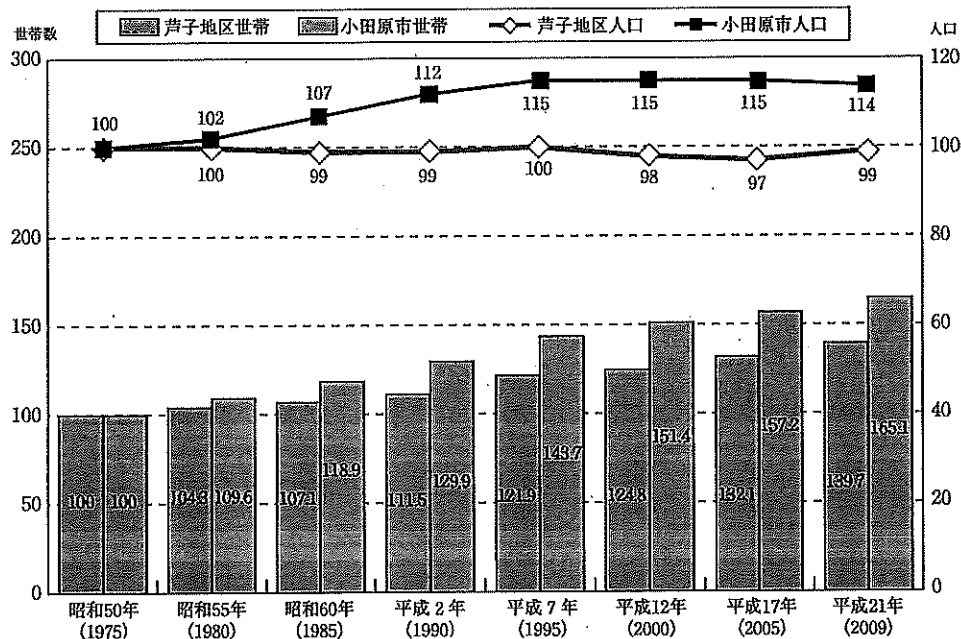


旧小田原競馬場

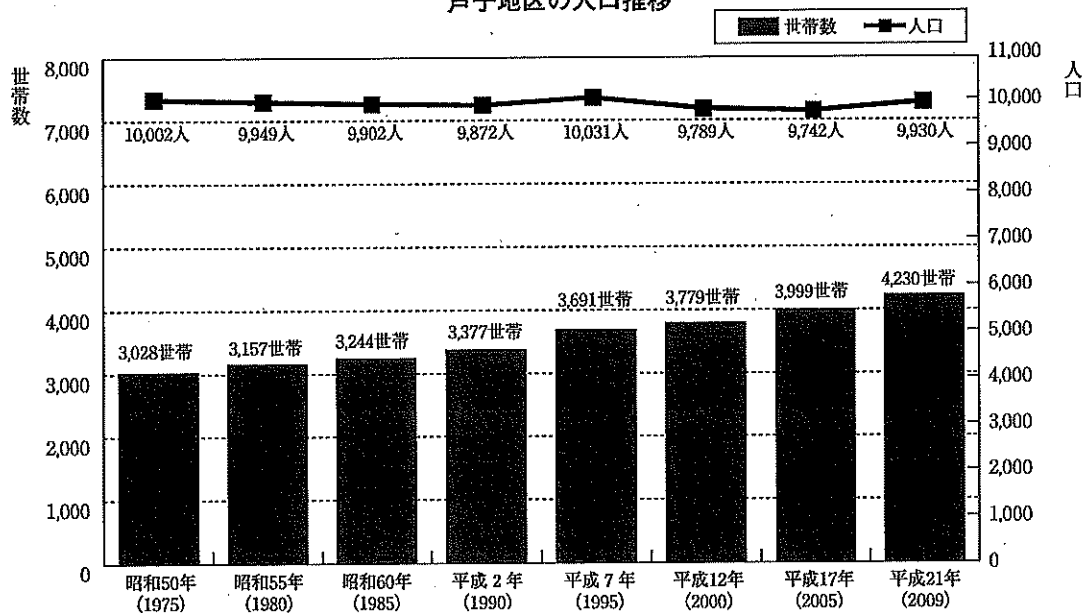
2 地域の人口・世帯・土地の利用状況等

人口は、ほぼ横ばいに推移していますが、世帯数が増加しているのが特徴です。高齢者世代が多いのではなく、15歳から60歳までの各世代とも居住しています。また、土地の利用は、農耕地と山林が半分近くを占めている割に、農業者が少ないことも特徴です。

芦子地区と小田原市全域との人口・世帯数の比較



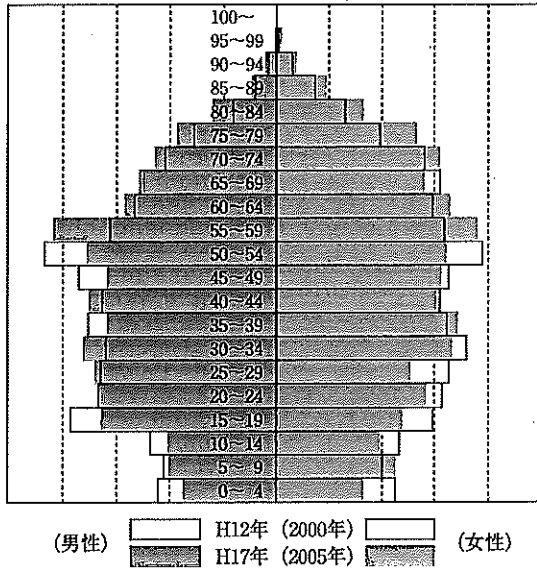
芦子地区の人口推移



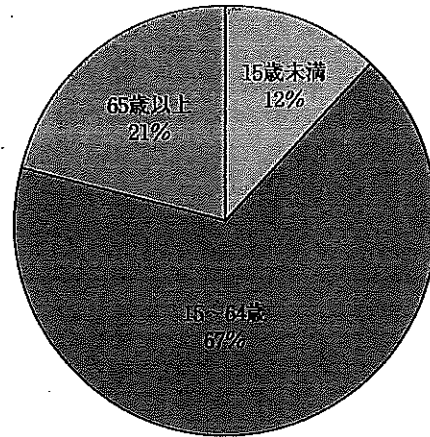
芦子地区

平成12・17年度芦子地区の人口ピラミッド

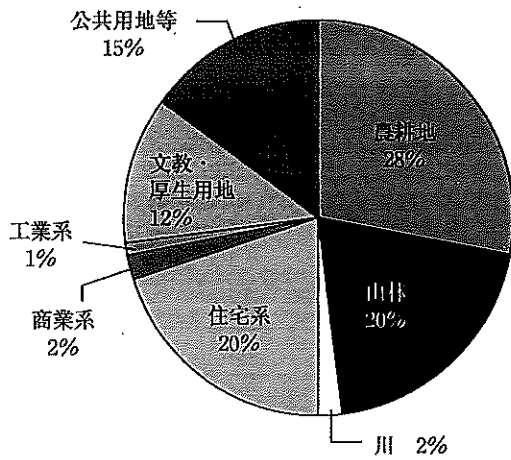
※ 目盛は100人



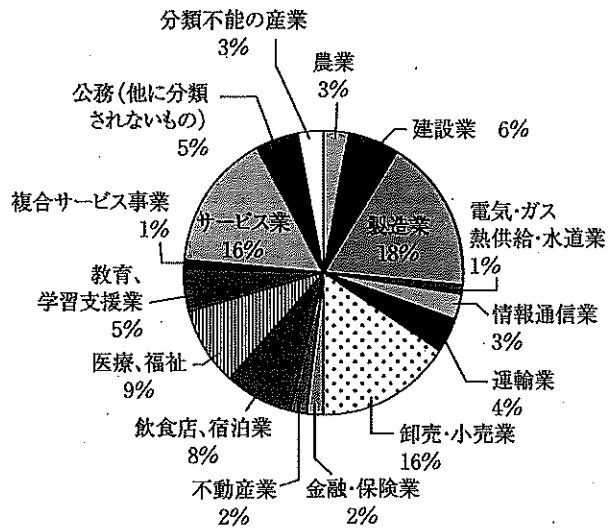
人口の3年齢区分比 (平成17年)



土地の利用状況



産業別就業者 (15歳以上) 数の割合 [平成17年]



地域のキャッチフレーズ

伝統が息づき、交流と活力のあるまち 二川

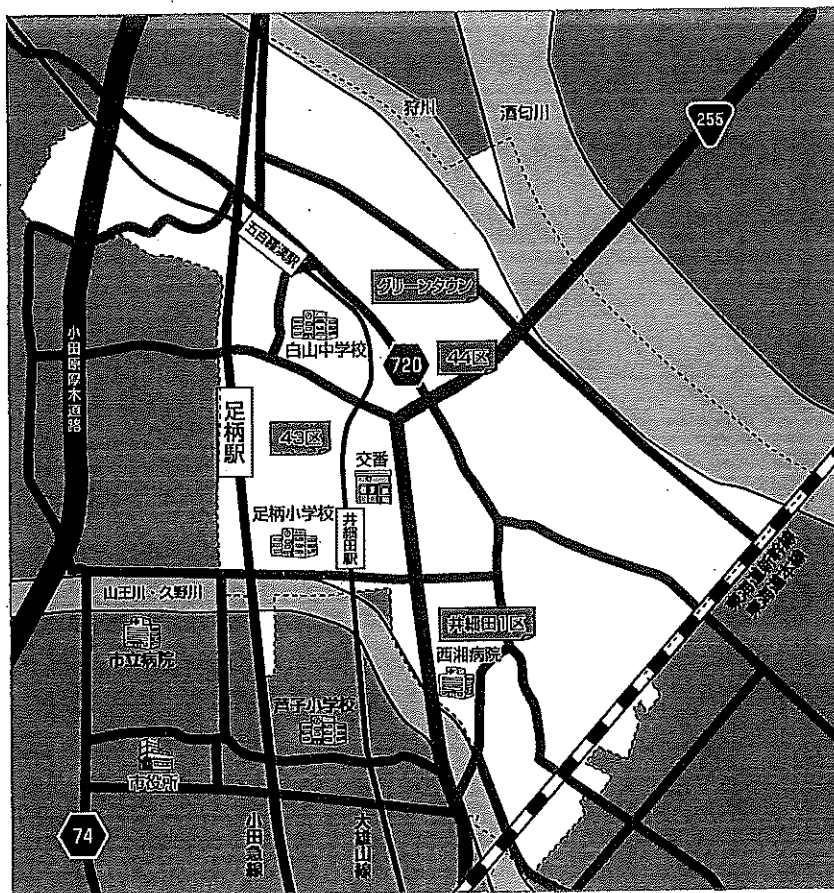
地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

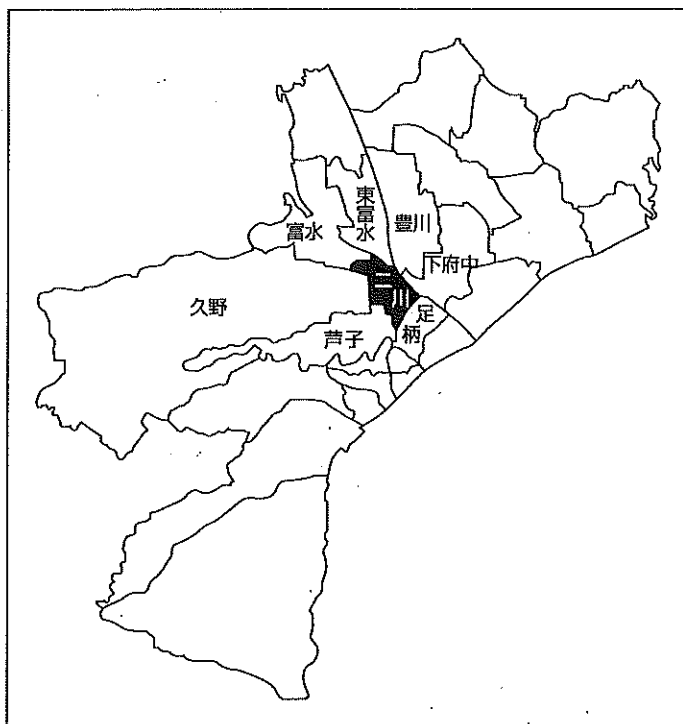
1 地域の位置と地勢

二川は、小田原市のほぼ中央に位置し、酒匂川（狩川）と山王川・久野川に挟まれた、久野、富水、東富水、足柄、芦子、豊川、下府中の7つの地域に囲まれた面積が約1.5km²の地域です。自治会としては、井細田1区自治会、43区自治会、44区自治会、グリーントウン自治会で構成されており、地域の子どもは足柄小学校や白山中学校へ通っています。

交通では、J R東海道本線・J R東海道新幹線が近くを走り、西には小田急小田原線と伊豆箱根鉄道大雄山線が通り、足柄駅・井細田駅・五百羅漢駅の3つの駅を有しています。また、中央を国道255号が走り、酒匂川に架かる飯泉橋から、川東地区にも通ずる交通の結節点となっているなど、交通の利便性の高い地域です。

そして、工業地として富士フィルムなどの工場が集積しているほか、古くからの商業地としての商店街が形成されています。

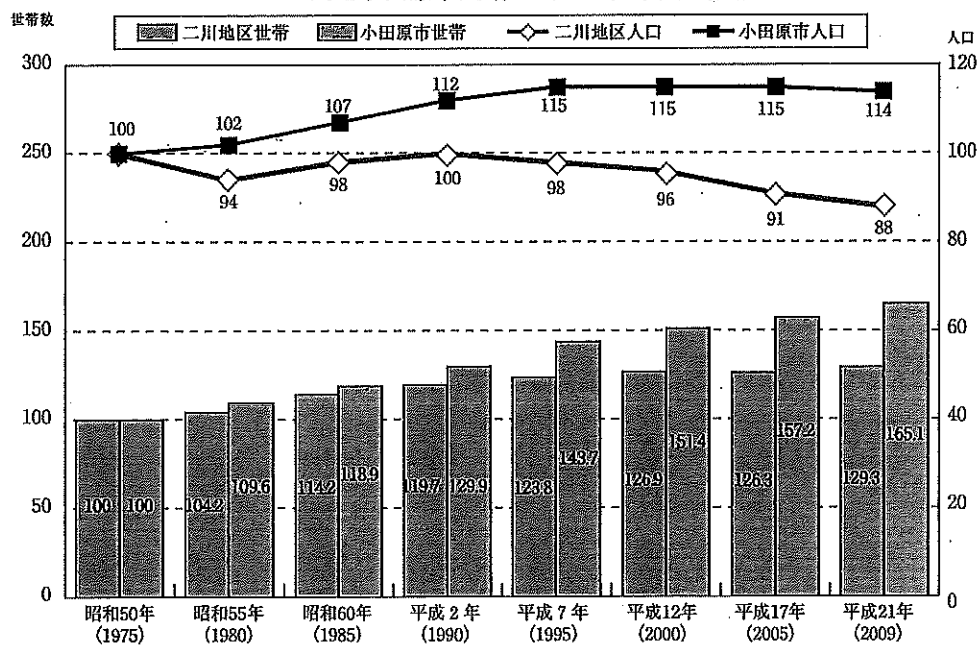




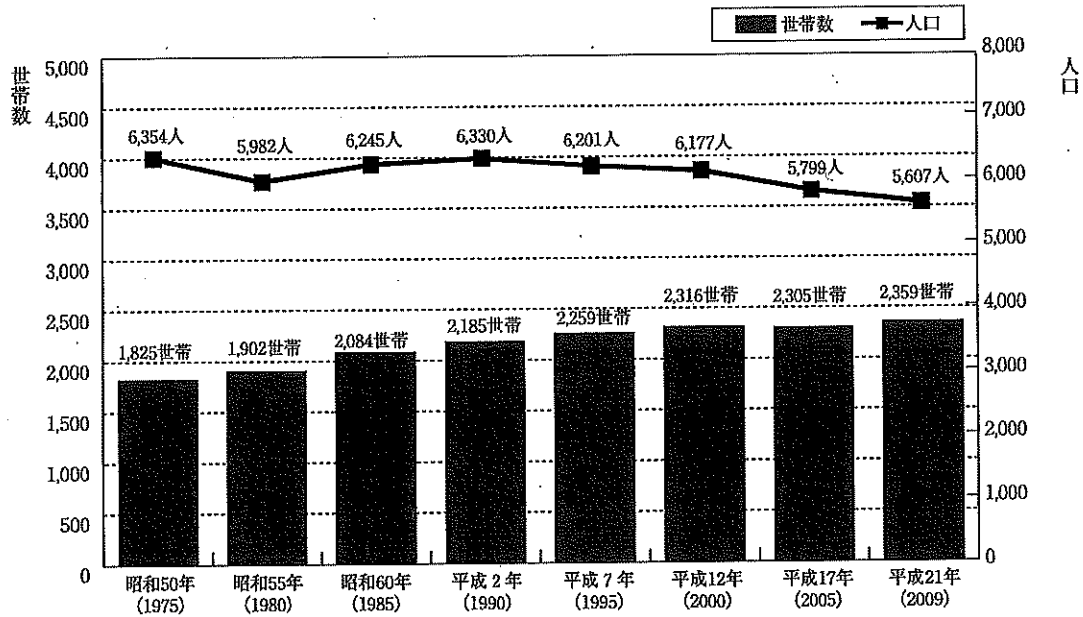
2 地域の人口・世帯

昭和50年（1975年）と比較すると、人口が緩やかに減少していますが、世帯数は緩やかに増加し続けており、また市全域の平均値よりも高齢者の占める割合が高くなっています。また、地帯としては、工業地と商業地化が進み、産業別の就業者数を見ても製造業や卸売・小売業、サービス業に多いのが特徴です。

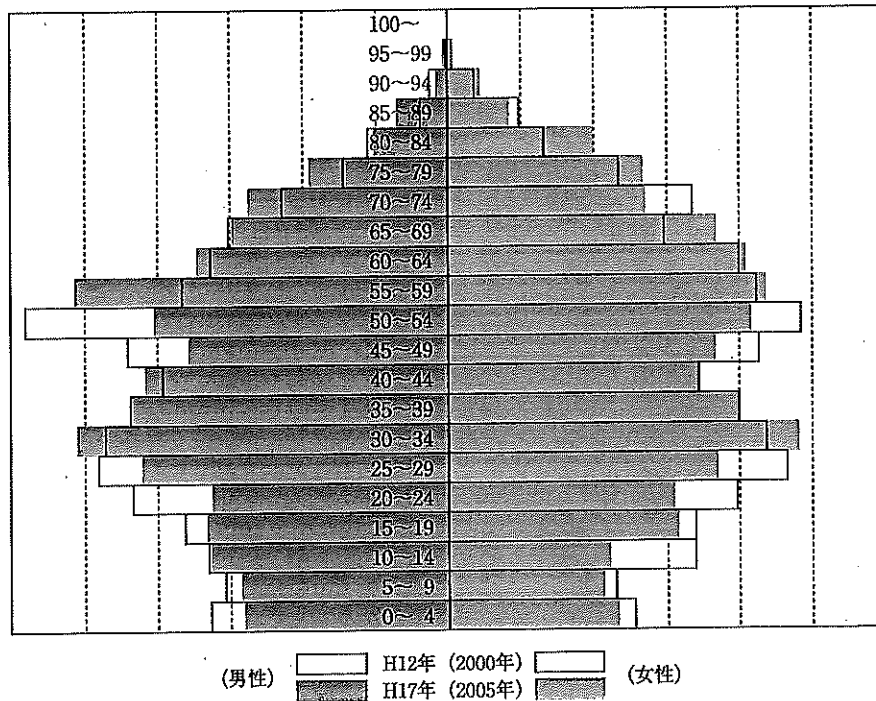
三川と小田原市全域の人口・世帯数の推移



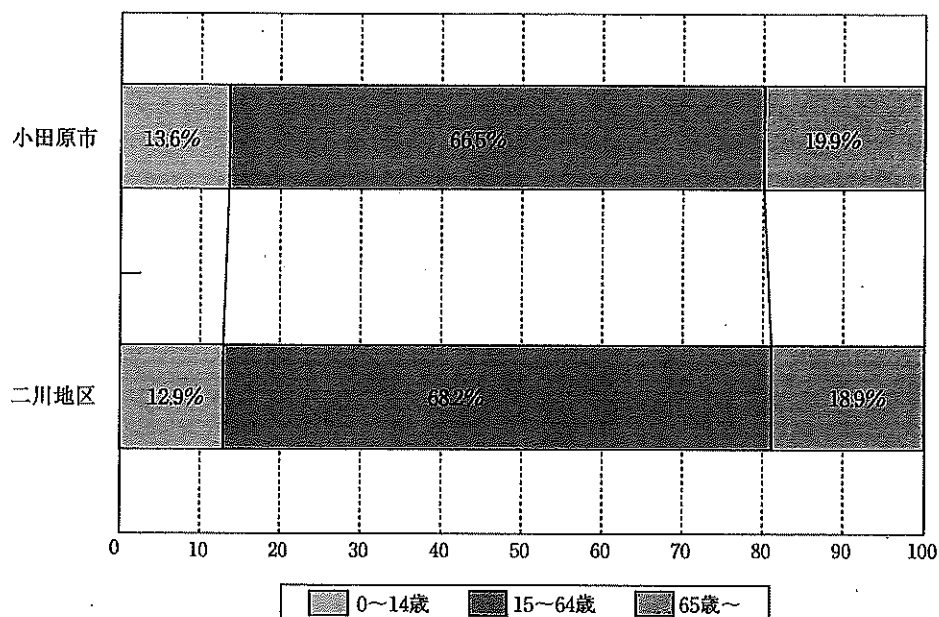
二川地区の人口・世帯数の推移



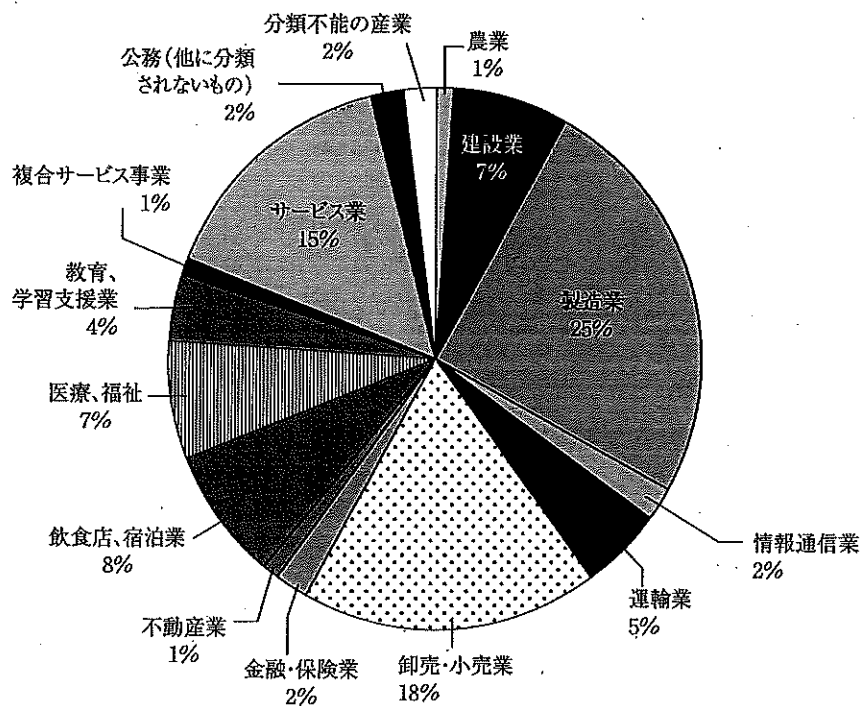
平成12・17年の二川の人口ピラミッド



二川と小田原市全域の三世代人口比（平成17年）



産業別就業者数（15歳以上）の割合〔平成17年〕

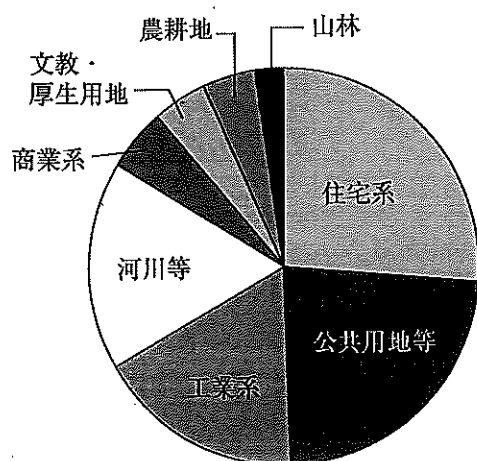


3 土地の利用状況

住宅系が約26%と最も多く、次いで公共用地等が約23%となっており、大雄山線五百羅漢駅、井細田駅、小田急線足柄駅の3つの駅があり、小田原駅へも近く、住みやすい住環境が整った地域です。

また、小田原紡績をはじめとして近代工業を誘致し、工業化、都市化を進め、現在は工業系が約17%を占めています。

土地の利用状況



区 分	割合
住宅系	26.3%
公共用地等	23.2%
工業系	17.2%
河川等	17.0%
商業系	5.1%
文教・厚生用地	4.5%
農耕地	4.4%
山林	2.3%

地域のキャッチフレーズ

子育てにやさしい久野

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の位置と地勢

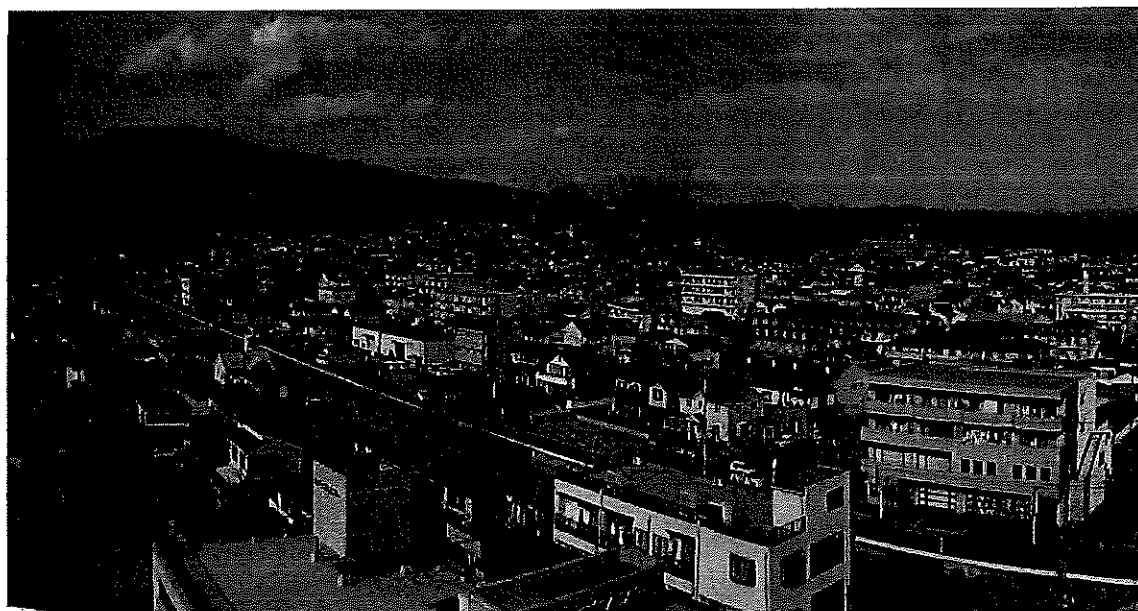
久野は、小田原市の西部に位置し、面積は約28㎢の地域です。北部は南足柄市と、西部から南部にかけては箱根町との行政境を有し、市域では、北東部から南東部にかけて、それぞれ富水、二川、芦子、大窪と接しています。

西部は、箱根連山に連なる山地で、明星ヶ岳、塔の峰の東斜面となっており、明神ヶ岳への登山ルートもあります。地域の西から東にかけて久野川が流れ、東側には、小田原厚木道路があります。

豊かな里地里山をもつ、自然環境に恵まれた地域です。また、小田原市立病院があるほか、小田原市役所や小田原警察署、神奈川県合同庁舎などの官庁街が近くに 있습니다。



久野川と桜



2 地域の人口・世帯・土地の利用状況

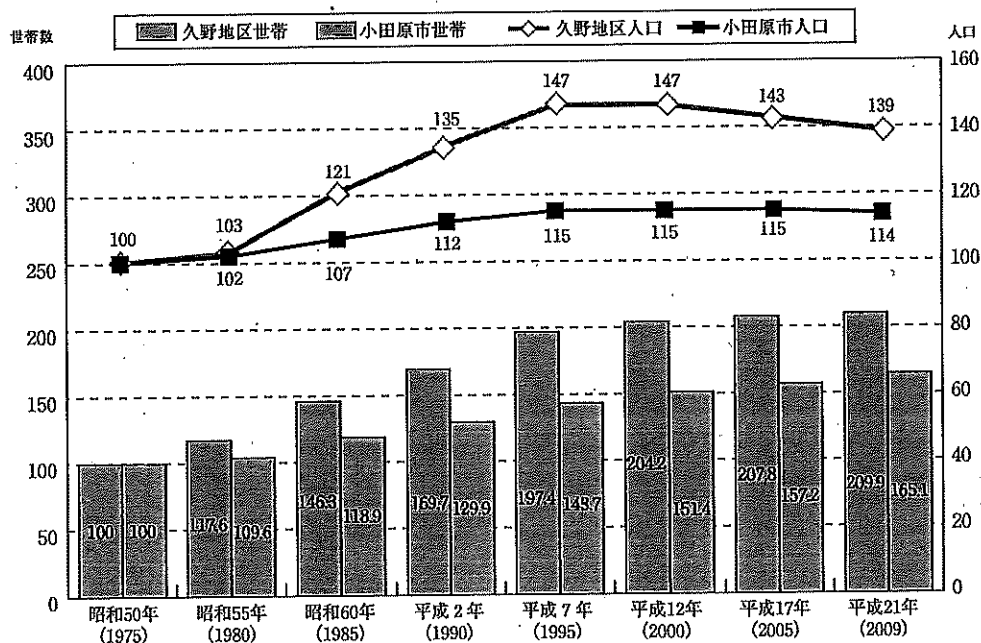
昭和50（1975）年と比較すると、平成7（1995）年までは、人口が急増していますが、そこからなだらかに減少しています。市全体としては、人口は横ばいで、世帯数は増加していますが、久野地区は、人口が減少していても世帯数が微増しているところが特徴です。また、人口は、いわゆる団塊の世代と第2次ベビーブームの頃の世代が多くはなっているものの、生産年齢層の各層に渡り住民が居住しています。

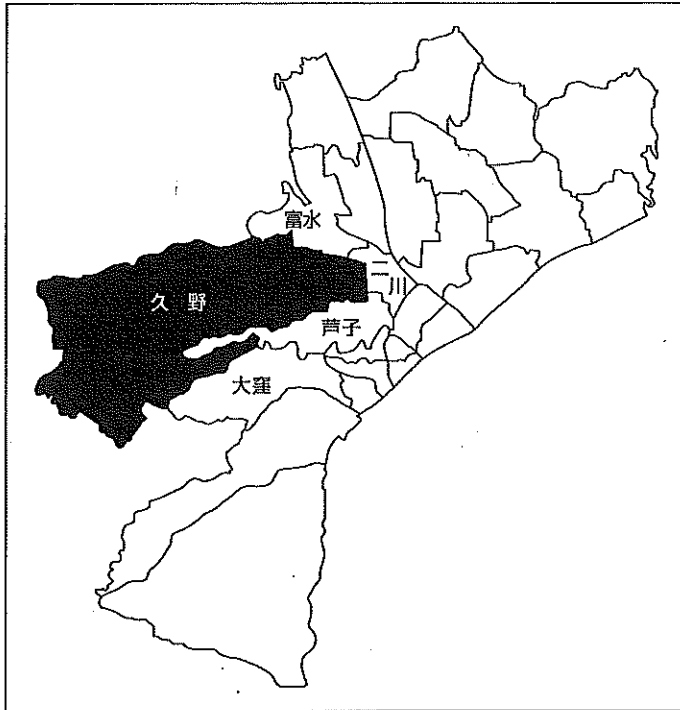
久野は、8割近くを山林が占めていることが特徴です。次に多いのが農耕地となっており、人と自然との関わりが多い地域と考えられます。

久野地区と小田原市全域との人口・世帯数の比較

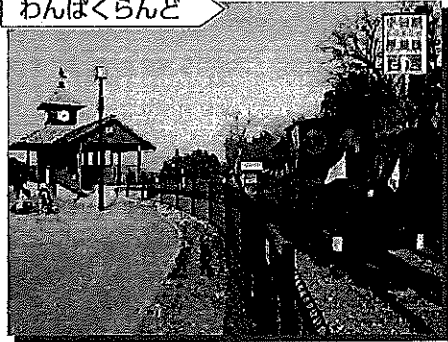
区 分		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年
久野	人 口	8,521	8,807	10,348	11,498
	世帯数	2,211	2,601	3,234	3,753
小田原市	人 口	173,519	177,467	185,941	193,417
	世帯数	47,253	51,809	56,193	61,360

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成21年
久野	人 口	12,553	12,489	12,189	11,842
	世帯数	4,365	4,514	4,594	4,641
小田原市	人 口	200,103	200,178	198,741	198,341
	世帯数	67,916	71,532	74,291	78,013

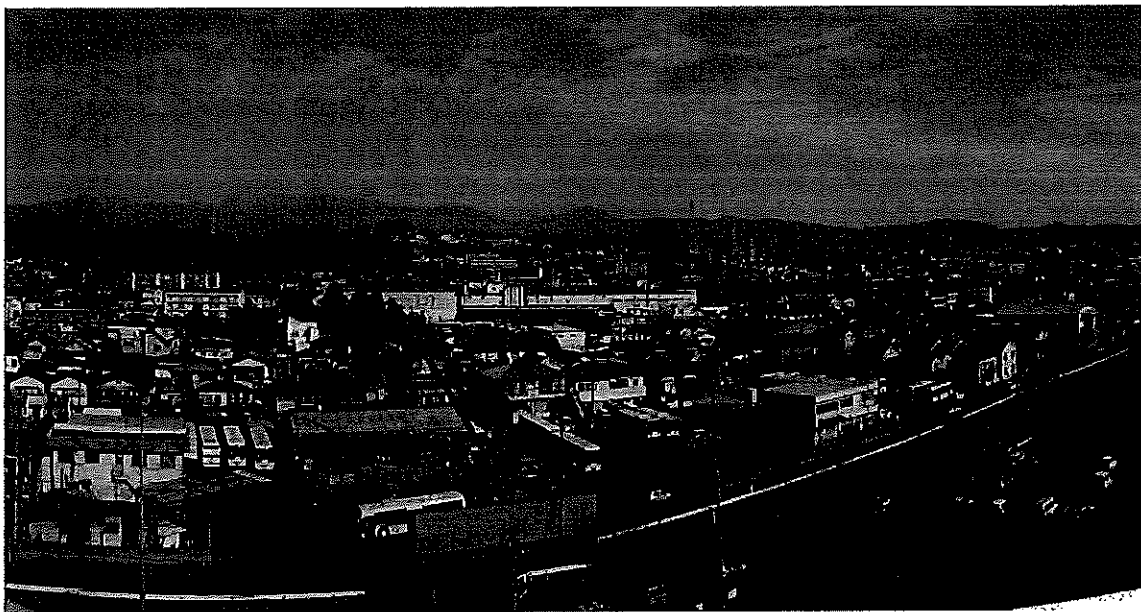




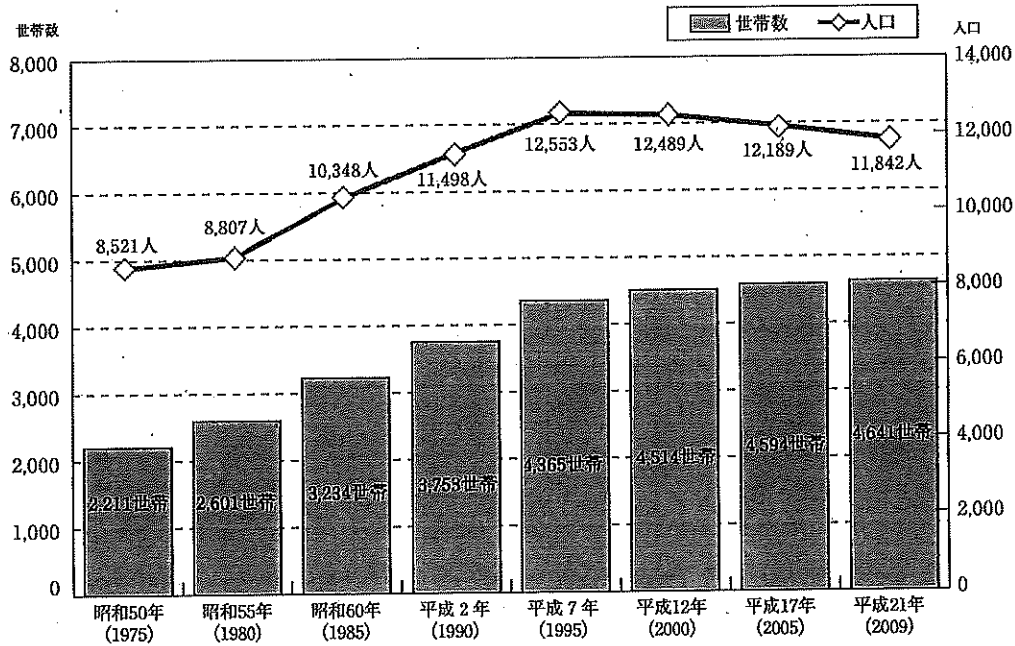
わんぱくらんど



久野の里山

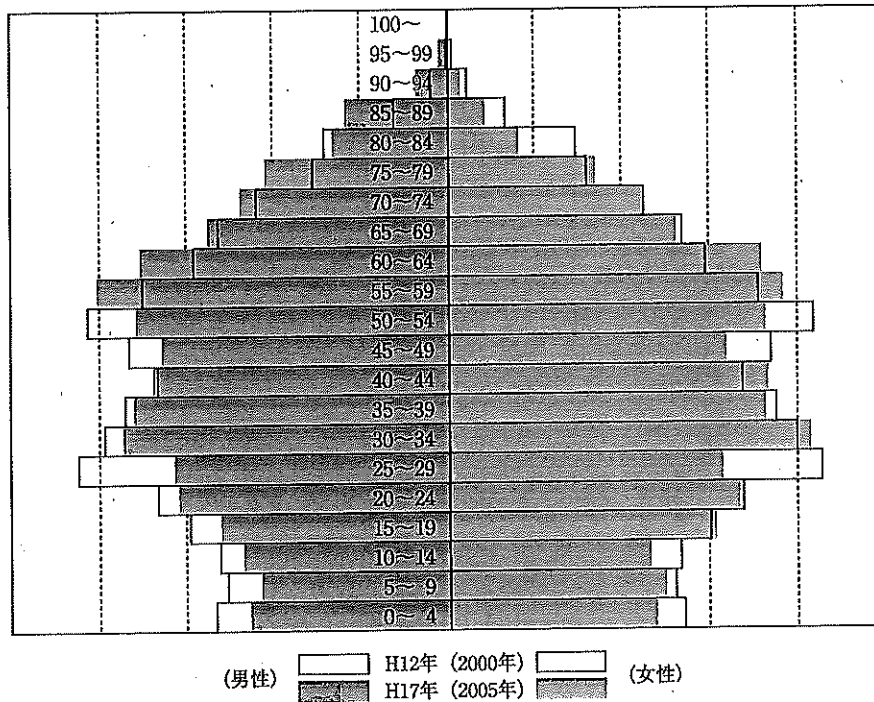


久野地区の人口・世帯数の推移

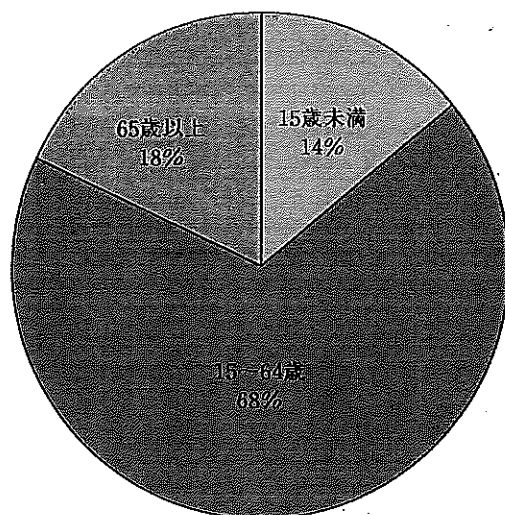


平成12・17年の久野地区の人口ピラミッド

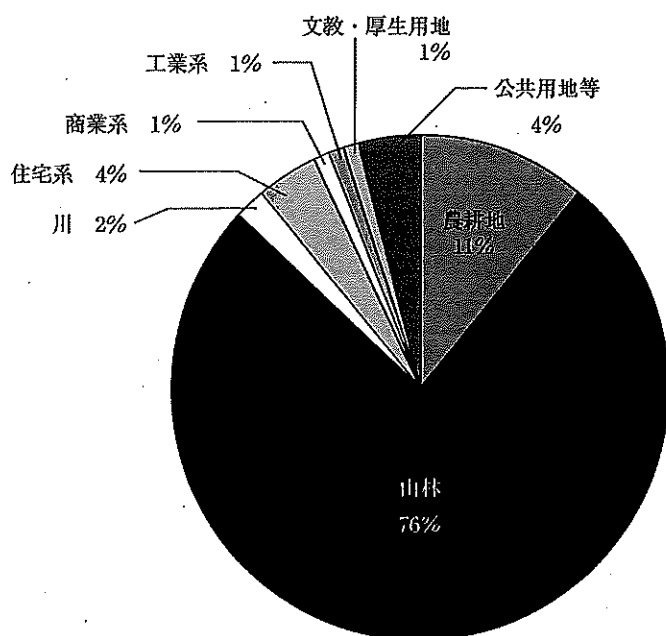
※ 目盛線は、150人単位です。



平成17年の久野地区の三世代人口比



土地の利用状況



地域のキャッチフレーズ

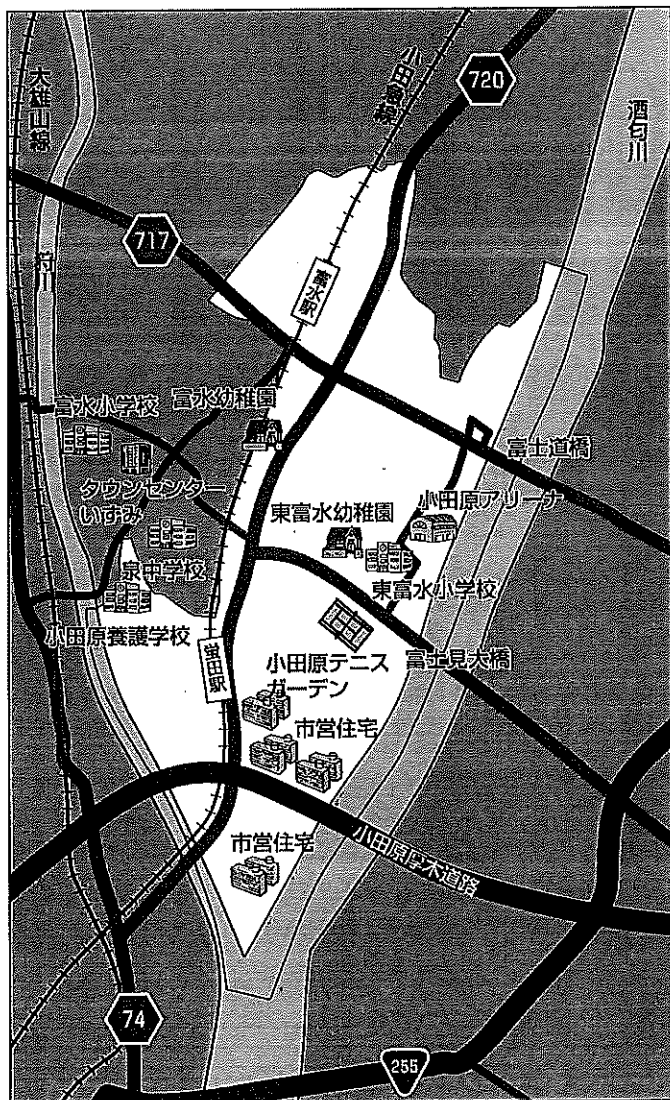
青い空 水と花と みんながあつまるまち 東富水

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

東富水は、小田急線蛸田駅、富水駅を最寄りとし、東に大いなる酒匂川、西南に狩川が流れ、天気の良い日には富士山、箱根外輪山、丹沢山塊を望むことができ、田園風景が残る風光明媚なまちです。

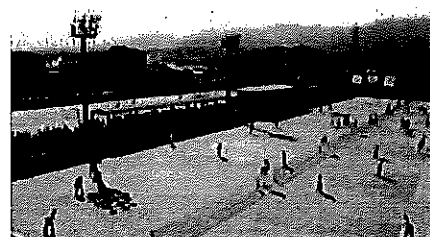
富士見大橋が開通し、近郊の地域への往来も一段と便利になり、その周辺に小田原アリーナ（小田原市総合文化体育館）、小田原テニスガーデンがあり、全国からスポーツ選手が訪れ、開放された活気あるまちです。



小田原アリーナ



富士見大橋

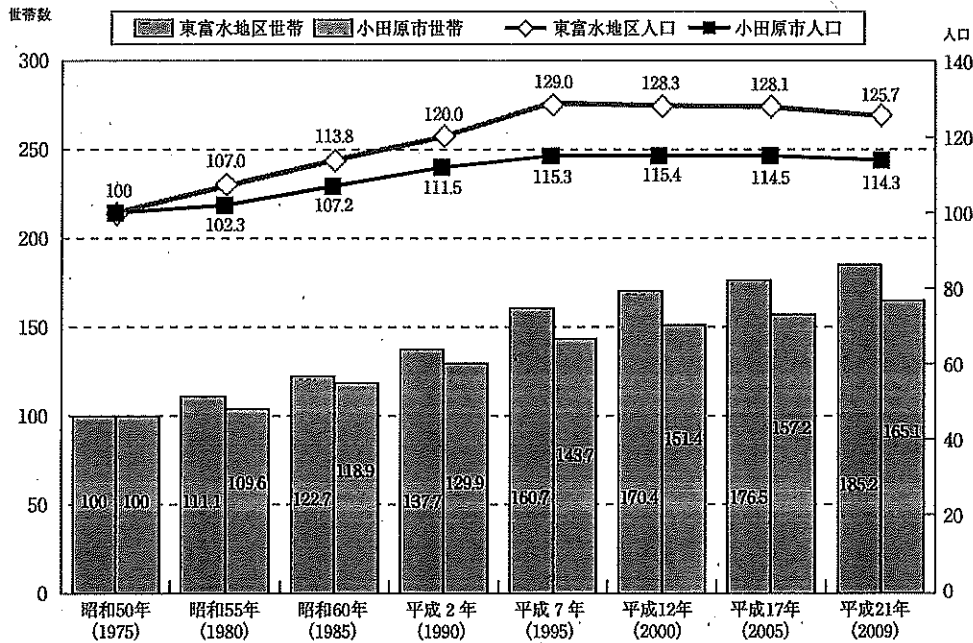


小田原テニスガーデン

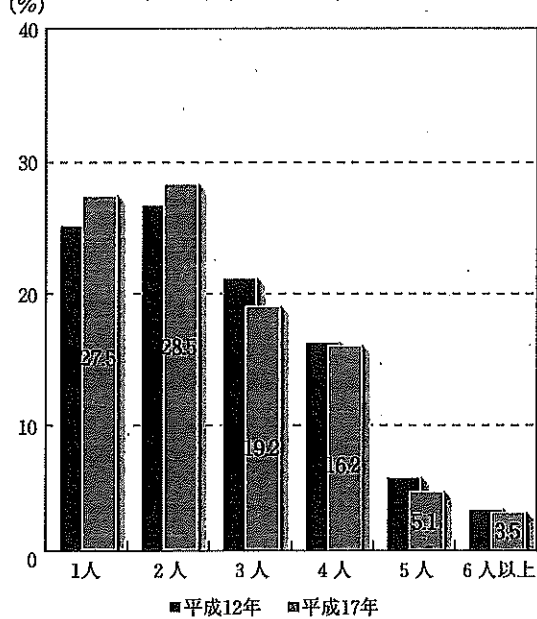
2 地域の人口・世帯

平成7年以降、地域の人口は微減傾向に転じていますが、世帯数は増加しており、1人世帯、2人世帯が多く、この2つの世帯構成が全体の56%を占めています。平成12年では65歳以上の占める割合が16.4%でしたが、平成17年では18.8%で、他の地域と同様に高齢者が増加の一途を辿っており、ひとり暮らしの高齢者世帯の増加が懸念されます。また、団塊の世代と30代の働き盛り世代の人口が多い地域です。

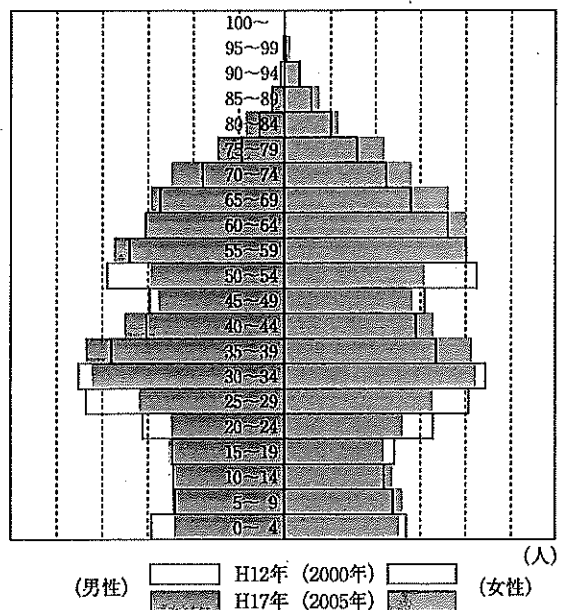
東富水と小田原市全域の人口・世帯数の推移（昭和50年を100とした各年の推移）



世帯人員（一般世帯）の割合



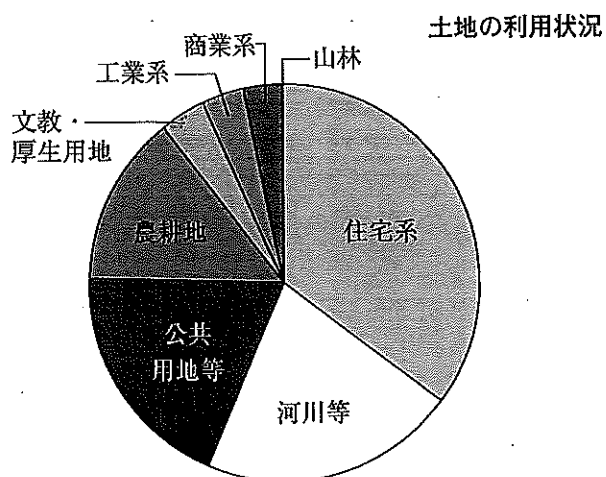
人口ピラミッド



3 土地の利用状況

地域の面積は約2.5km²で、住宅系が約35%と最も多く、次いで河川等が約21%となっており、この豊かな水の恵みを受けた農耕地が約14%を占めています。

また、小田原アリーナや小田原テニスガーデンなど、公共用地等が約19%を占めています。



区 分	割合
住宅系	35.28%
河川等	21.26%
公共用地等	18.95%
農耕地	13.93%
文教・厚生用地	3.78%
工業系	3.58%
商業系	3.18%
山林	0.04%

地域のキャッチフレーズ

水と緑 みんながふれあうまち 富水

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

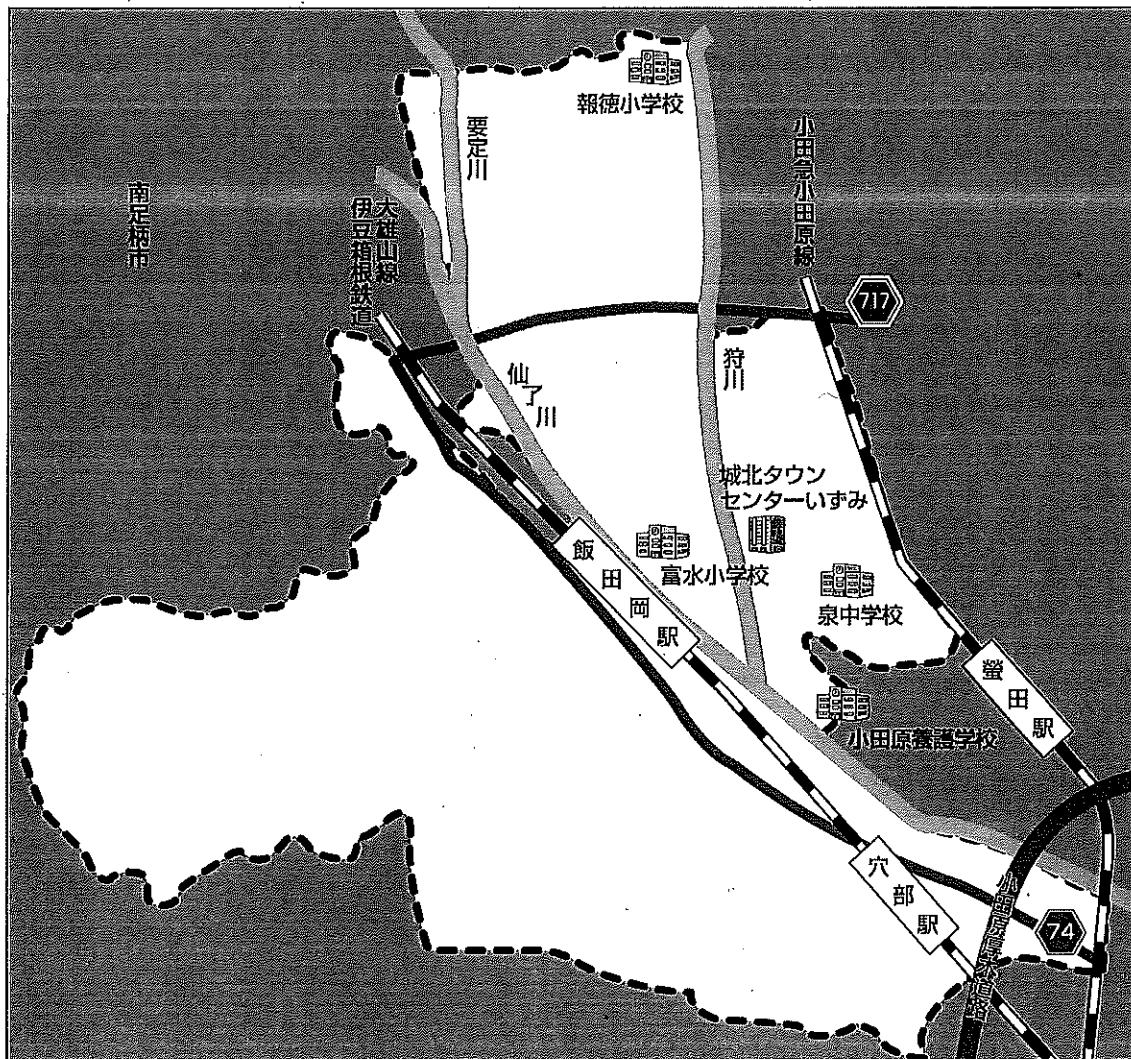
1 地域の地理状況

富水は、市内の北部に位置し、西は南足柄市と隣接する地域です。

地域内には狩川、仙了川、要定川などの清流が流れ、美しい田園風景が広がっています。

また、中央には、大雄山線が通り、穴部駅と飯田岡駅の2つの駅があり、東側には小田急線が通っています。

また、県道小田原山北線と沼田国府津線が地域の縦横に整備され、交通の便が良い地域です。

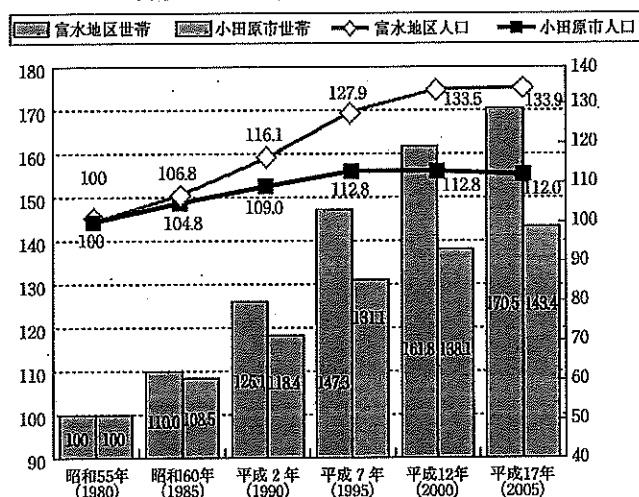


2 地域の人口・世帯

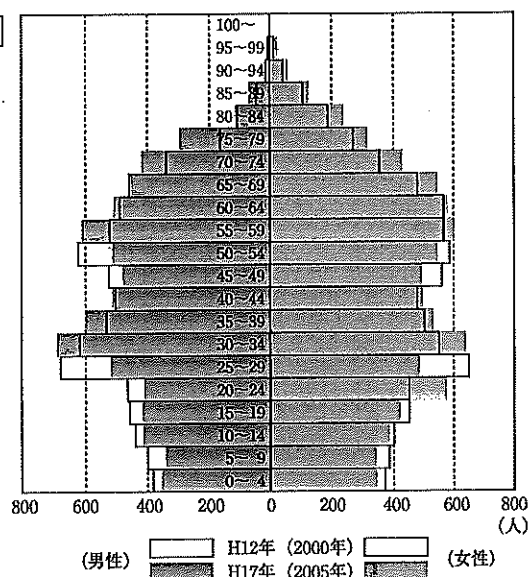
昭和55年（1980年）と比較すると、平成17年（2005年）で地域の人口は約1.3倍、世帯数は約1.4倍になっています。人口は平成12年（2000年）からはほぼ横ばいですが、世帯数は伸び続け、1世帯あたりの人数が減ってきています。

人口の構成は、他地域と同様、団塊の世代と団塊世代ジュニアの人口が多くなっています。

富水と小田原市全域の人口・世帯数の推移



人口ピラミッド

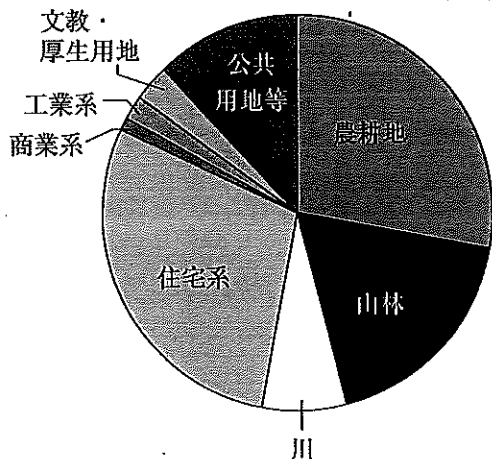


3 土地の利用状況

農耕地、山林、河川などの自然環境が約半数を、住宅地が約3割を占めています。自然環境が豊かな住宅地で住みやすい地域です。

逆に、商工業などが少ない地域となっています。

土地の利用状況



区 分	割合
農耕地	28%
山林	18%
川	7%
住宅系	29%
商業系	1%
工業系	2%
文教・厚生用地	3%
公共用地等	12%

地域のキャッチフレーズ

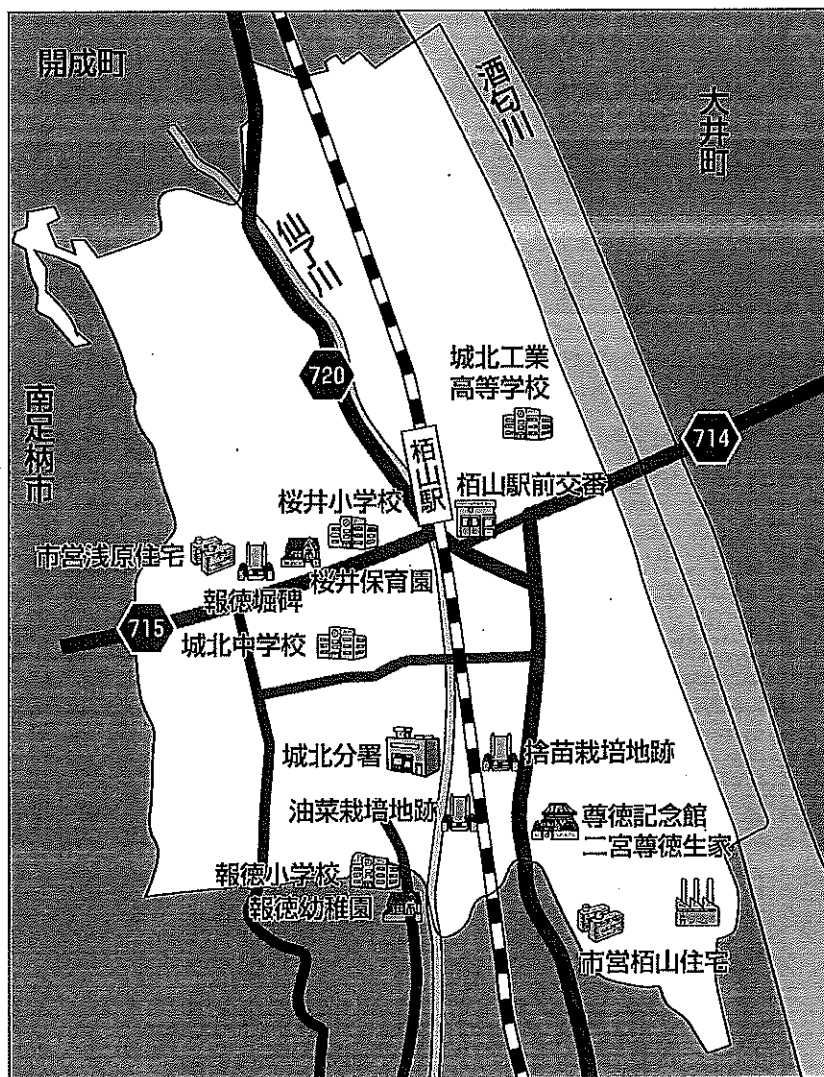
尊徳の教えが生きているまち

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

市の北部に位置し、地形上は平坦で、西は南足柄市、北は開成町、東は大井町と接しており、開成町では新しい小学校の建設準備が進むなど、近隣の環境が大きく変わろうとしています。

地域の中央には仙了川が、東には酒匂川が流れ、美しい田園風景が今も随所に残っており、また、地域の中央には、小田急線が通り、栢山駅を中心に賑わっています。

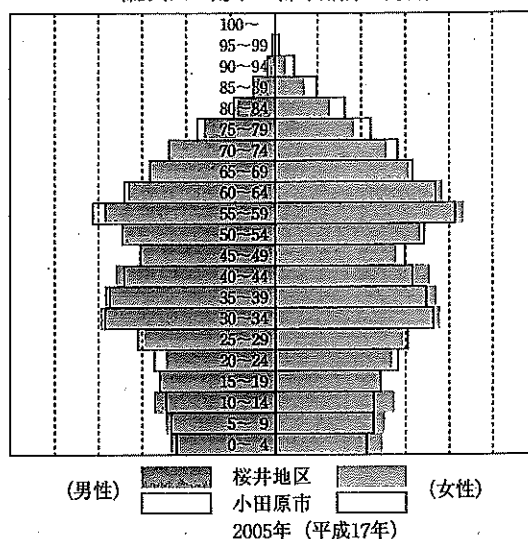


2 地域の人口・世帯

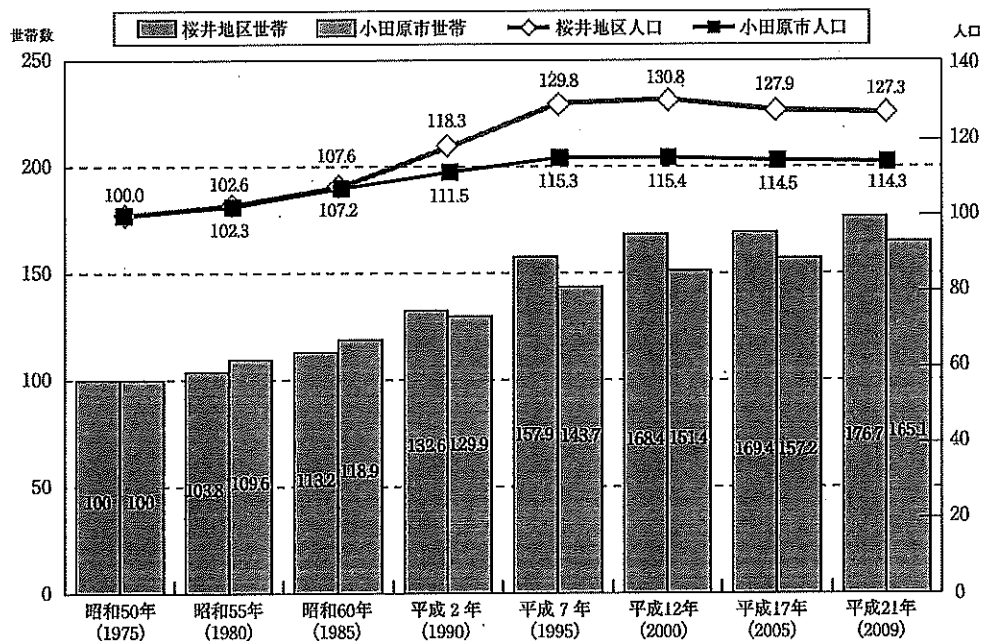
1975年（昭和50年）と比較すると、2000年（平成12年）が人口のピークで約1.3倍となっており、以後は微減傾向にあります。一方、世帯数は増え続け、2009年（平成21年）に約1.7倍になり、1世帯あたりの人数が減ってきています。

また、人口ピラミッドを見ると小田原市の平均とほぼ一致していますが、30歳から44歳の層と14歳未満の層は平均を上回っており、若い子育て世代が若干多くなっています。

人口ピラミッド
(総人口に対する各年齢層の割合)

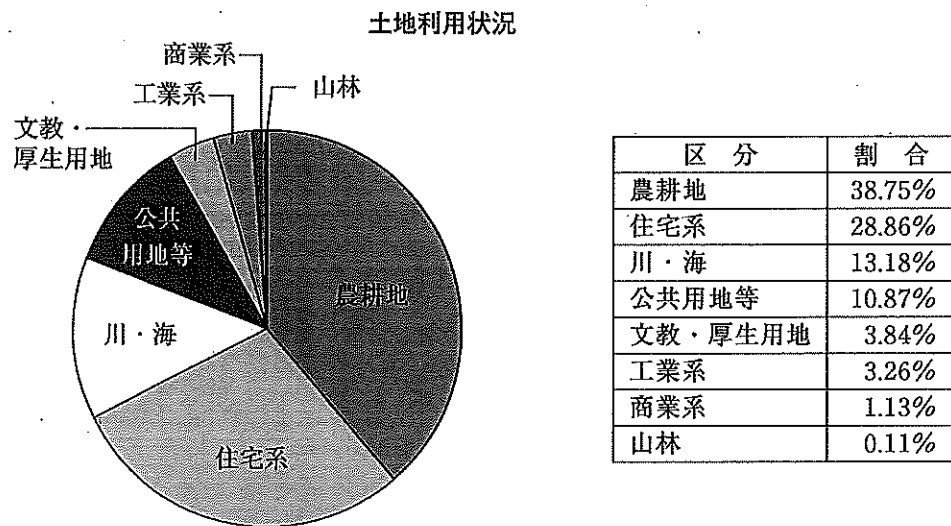


桜井地区と小田原市全域の人口・世帯数の推移



3 土地の利用状況

農耕地や河川などの自然環境が約半数を、住宅地が約3割を占めています。湧水に恵まれ、農業が盛んで、住みやすい環境が整った地域です。



地域のキャッチフレーズ

住んでいることに誇りがもて 住みたくなるまち、酒匂・小八幡

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

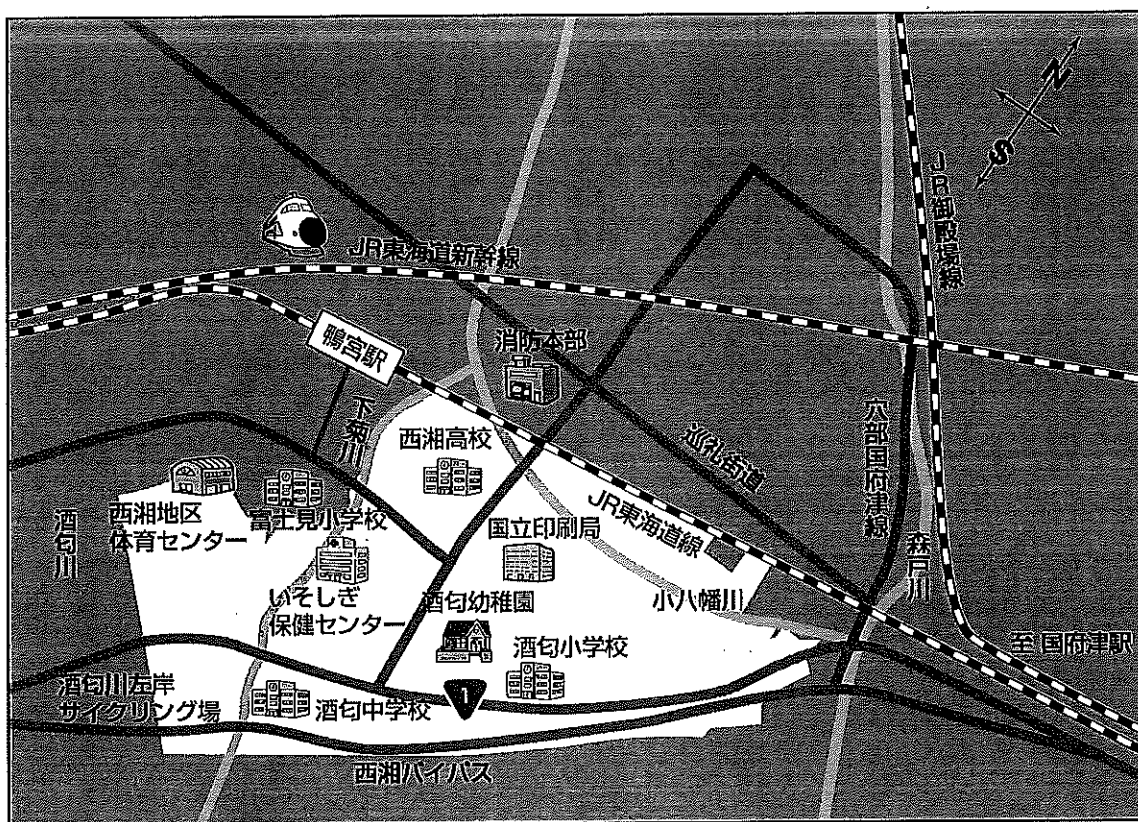
1 地域の地理状況

酒匂・小八幡地区は国道1号に沿って発展した由緒あるまちです。

西には酒匂川が流れ、南は相模湾に面した自然豊かな地区で、西の地区はＪＲ東海道線鴨宮駅へ、東の地区は国府津駅へ徒歩やバスで行ける交通の便にも恵まれています。

地区内には保健センター、生きがいふれあいセンターいそしぎ、酒匂川左岸サイクリング場、県立西湖地区体育センターなどの健康、文化、スポーツ関連の公共施設、また、市立の酒匂幼稚園や酒匂小学校、酒匂中学校、県立西湖高等学校の幼稚園から高等学校までの教育施設が揃っています。

（酒匂地区の一部の児童は隣接する富士見小学校に通学しています。）

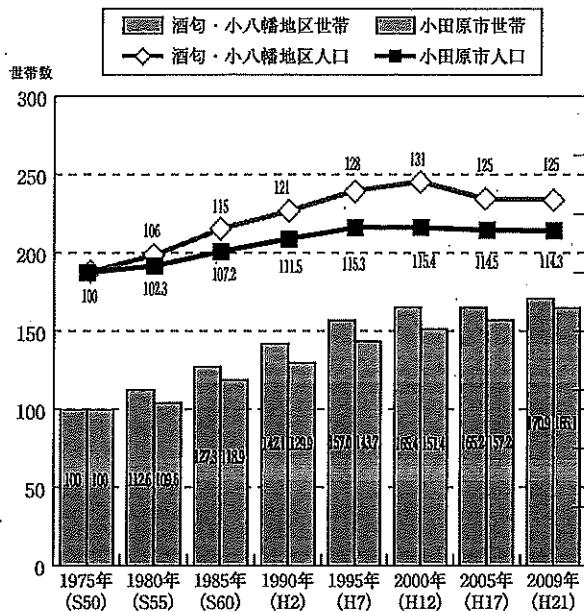


2 地域の人口・世帯

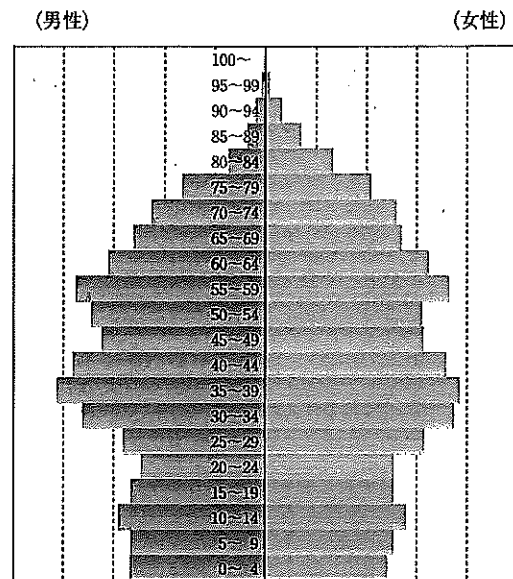
小田原市の全域と同様、平成12年（2000年）以降の人口は、微減の傾向ですが、世帯数は増加しています。

人口ピラミッドの人口構成をみると他地区と同様に60歳前後のいわゆる「団塊の世代」が多いですが、第二次ベビーブーム世代で子育て世代と言われる30歳から40歳までの人口も多いのが分かります。

小田原市と酒匂・小八幡地区の
人口・世帯数の推移

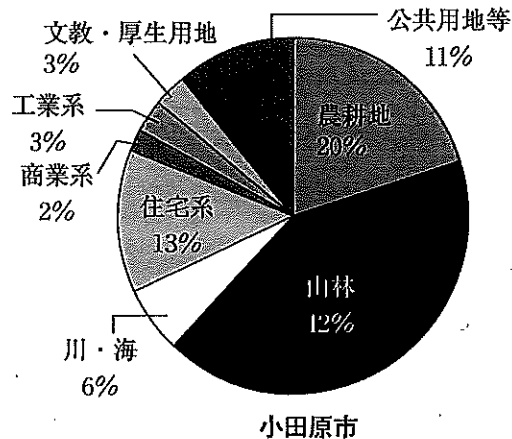
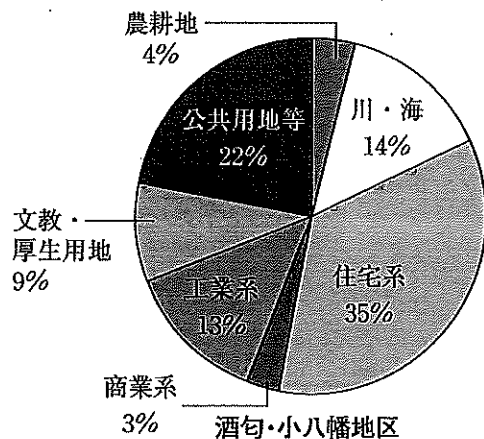


平成17年酒匂・小八幡地区
人口ピラミッド



3 土地利用状況

地区内の土地利用は住宅地と工業地が多く、逆に農地や山林が少なく、酒匂川の下流に広がる平地を利用した、住宅地と工業地として発展した地区です。



地域のキャッチフレーズ

**小田原の中核として発展し、
みんな仲良く生き生きと暮らせる町、下府中**

下府中の将来像 ～ みんなでめざそう ～

自然が豊かで、生活環境が良いまち

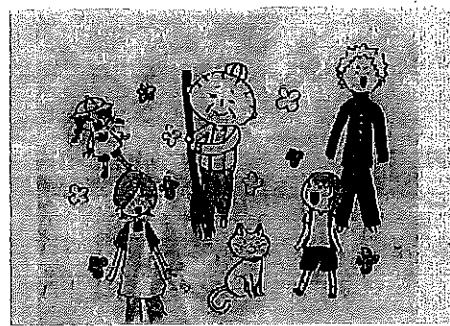
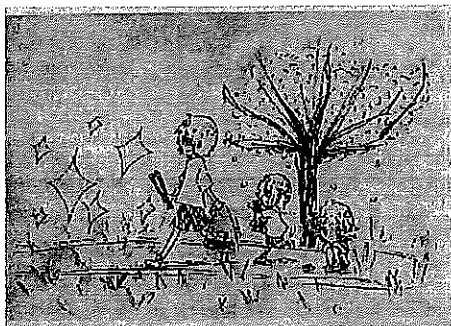
- ・ 地域が連携し、高齢者・障がい者にやさしく、子どもたちが伸び伸び生活できるまち
- ・ 清潔感に満ちていて、住み心地が良いまち

安全、安心なまち

- ・ 防犯意識が高まり安心して暮らせ、事件や事故がないまち
- ・ 子どもが成長し、また、下府中に住んで子育てしたいと思えるような子育てに優しいまち

賑わうまち

- ・ 活気のある元気なまち
- ・ 子どもからお年寄りまでコミュニケーションの場があり、笑顔で挨拶し合えるまち
- ・ 住宅地と商業地が調和した、賑わいがあり安全で楽しいまち



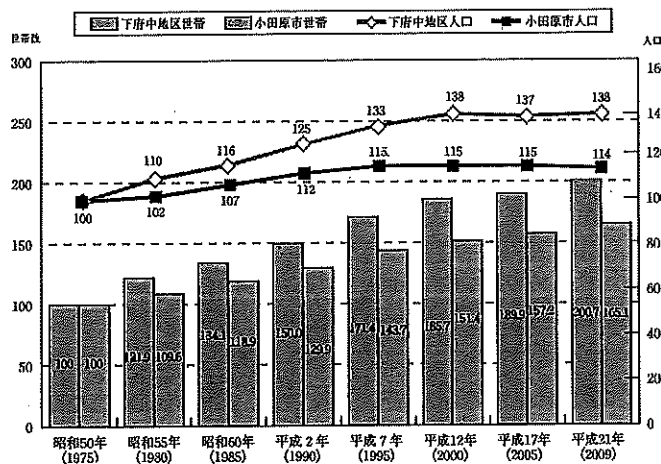
鴨宮中学校3年の生徒

2 地域の人口・世帯

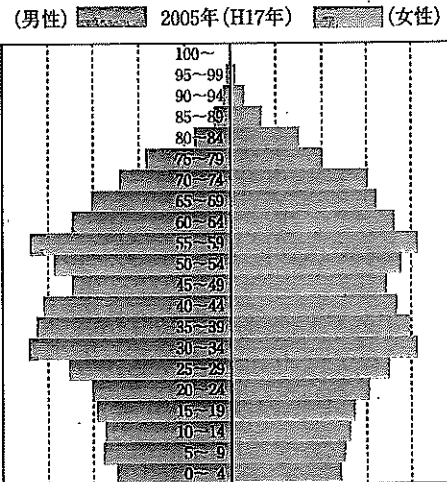
平成12年（2000年）以降、地域の人口は横ばい状態ですが、世帯数は増加しています。

他地域と同様で「団塊の世代」の人口が多いが、子育て世代である30歳～40歳代の占める割合も29%と高く、人口の2段構造が特徴です。

小田原市全域と下府中地区の人口・世帯数の推移
(1975年=100)



平成17年下府中地区人口ピラミッド



3 地域の特徴

(1) 商業施設の集客

下府中の商業施設を統計結果から見ると、全市の商店数2,460店のうち278店、11.3%の割合であります。売り場面積は、29.3%と大型店の多さが目立っています。なお、統計数値には表れませんが、一店舗当たりの駐車可能台数も高いと推測できます。ちなみに、中里地区の大型2店舗の駐車可能台数は約4,000台であります。

商業統計調査結果

H19. 6. 1 現在

地 域	商店数(店)	従業員数(人)	売り場面積(m ²)	年間販売額(万円)
小 田 原 市 計	2,460	18,455	245,769	42,887,354
下 府 中 地 域	278	3,025	71,941	6,628,795
割 合	11.3%	16.4%	29.3%	15.5%

(2) 居住環境の良さ

交通の便が良く、暮らしに必要な公共施設が整い、衣食等生活関連の店舗は駅前商店街等、地区ごとに存在しますが、必要に応じ中里・前川地区の大型商業施設、文化・娯楽施設に徒歩や自転車圏内で行き帰り出来ます。

また、住宅地は緑が多く田畑も各地区に見られますが、特に南鴨宮地区は、区画整理されて街区公園が点在する良好な住宅地であります。

医療環境は、保健センターに近く、地域内には、18の病院各科診療所と17の歯科診療所があり住民の健康管理面も充実しています。

豊川の誇り（キャッチフレーズ）

友愛のまち 豊川 ～^{あいよ}相寄り^{あいだす}相扶け～

（小田原市合併記念号「村を語る」：昭和29年7月1日豊川村発行より）

昭和29年、町村合併促進法に基づき小田原市へ合併した時に発行された「村を語る」の小田原市合併記念号の中で沖津村長が綴った一節に「桑原、成田、飯泉の三部落は友愛を根幹として相寄り相扶け、豊川村の発展に協力し…」と記されています。住民が友愛を根幹に育んできた土壌・風土を守り、円満な地域運営を行ってきたことを表すものです。これからの豊川地区のまちづくりにおいて、あらためてこの言葉をめざすものとし、将来にわたり大事にしていくものです。

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 豊川とは

豊川は、足柄平野の中央を流れる酒匂川とともに発展してきた地域であり、中流域の左岸から県道及び国道255号を中心に南北に広がり、曾我、上府中、下府中地区と隣接しています。

西に富士山を望み、古くから酒匂川の水を活かした田園を中心とした農村をかたちづくってきました。現在は、田園風景を有する地域と工業団地やいくつかの工場を抱える地域、宅地化が著しく進む地域が混在する比較的穏やかで風光明媚な地域です。

豊かな酒匂川を背景に、酒匂川水系めだかを育む人やほたるの自生を楽しむ人、桜を愛でる人が、自然豊かな生活を楽しんでいます。地域活動としては、自治会や各種団体が連携し、様々な催しを行っています。代表的な行事としては、防災訓練、健民祭、各神社で行う夏祭り、秋祭りなどの伝統行事があります。特に、防災訓練や健民祭は、地域最大の行事として毎年多くの人が参加し、



地域の活力を発揮しています。

また、師走に行われる飯泉山勝福寺の飯泉観音だるま市は、家内安全、商売繁盛を願う近隣住民や遠方から来る多数の人々で賑わい、正月を迎えます。これも、地域の交通安全、防犯に関わる人など、地域のボランティア団体が交通整理やパトロールなどを実施し、陰の力となって支えています。



飯泉観音だるま市

2 人口統計

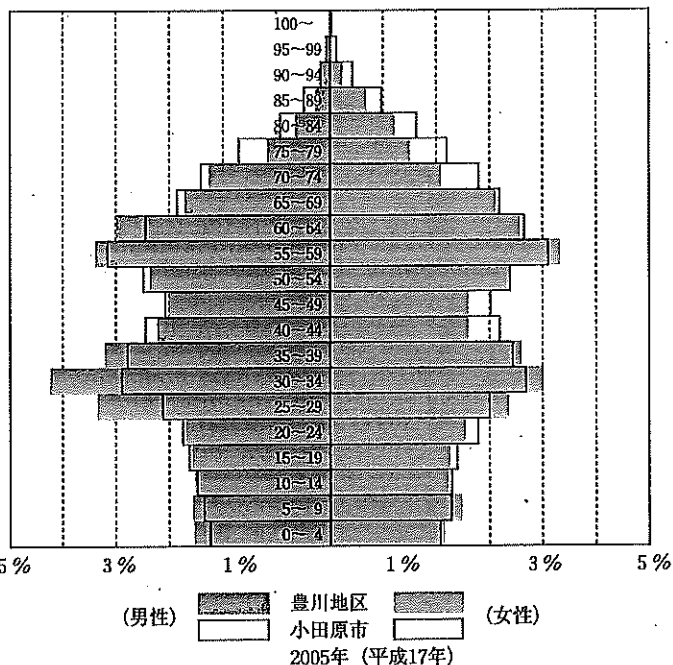
昭和29年（1954年）7月小田原市に編入合併時に2,075人だった人口は、平成17年（2005年）に9,456人と約4.5倍に増加し、住みよい環境が整備され、発展してきていることがわかります。

この20年間の人口統計を見ると、世帯数はやや増加傾向にあるものの、人口は微増傾向であり、核家族化が進んでいることが伺えます。

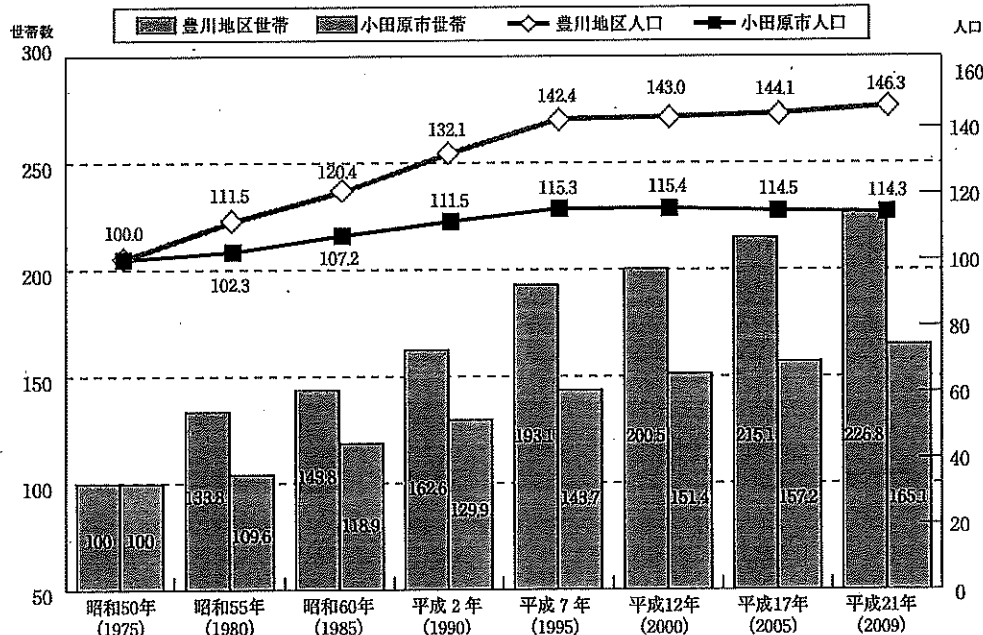
年齢構成を見ると、30歳から35歳を中心とする層が最も多く、小田原市平均よりもバランスの良い年齢構成であると言えます。

敬老対象者は、年々増加する傾向にあるものの、高齢化率は市内では比較的低い状況です。しかし、将来は、高齢化率が著しく高くなると予想されます。

人口ピラミッド
(総人口に対する各年齢層の割合)



豊川地区と小田原市全域の人口・世帯数の推移



地域のキャッチフレーズ

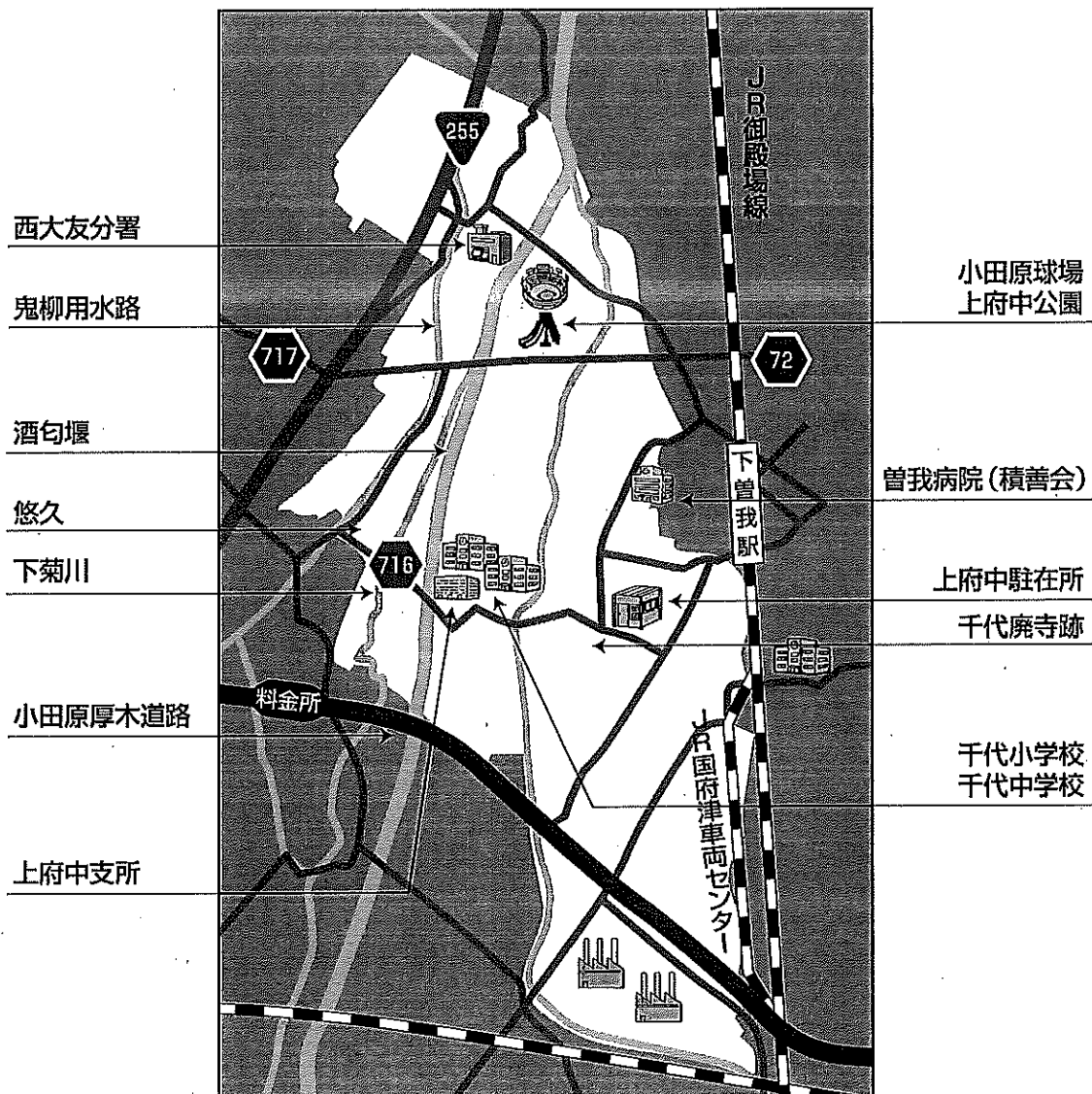
上府中 みんなで起こそう 地域の和

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

上府中は、市内の北東部に位置し、東側にはＪＲ御殿場線が、西側には国道255号が、南側には小田原厚木道路が通っています。

地域内には、酒匂堰、鬼柳用水路などが整備され、また、中央には千代台地があり、周りには田園風景が広がり、自然環境に恵まれた地域です。



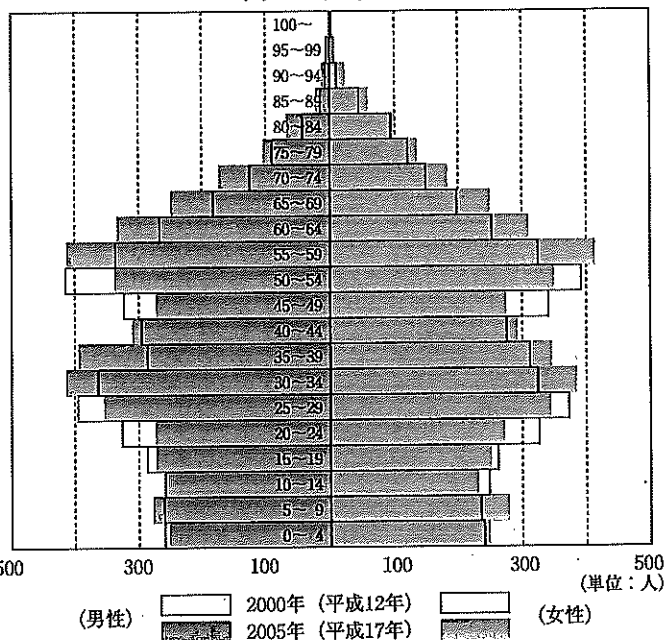
2 地域の人口と戸数

古くから村落共同体として営まれてきた集落は、1889年（明治22年）町村制度により東大友村、西大友村、延清村、永塚村、千代村、高田村、別堀村の7か村が合併して現在の上府中となりました。時代の移ろいととも歩み、近年になって急速に発展し、昭和から平成にかけ人口が急増しています。

人口は、1876年（明治9年）から1954年（昭和29年）の78年間では約1.7倍に、1954年から2009年（平成21年）の55年間では約3.6倍に増えています。また、戸数は約1.5倍、約7.6倍に増えていますが、1戸あたりの人数は2009年には逆に半数以下になっています。

他地域と同様、高齢者層が増えていますが、10歳未満の人口が2000年（平成12年）993人から2005年（平成17年）1,061人へ、30歳代の人口が2000年1,293人から2005年1,546人へと、若い子育て世代も増えています。

人口ピラミッド



人口と戸数の推移

地区	人口 (人)			戸数 (戸)		
	1876 (明治9)	1954 (昭和29)	2009 (平成21)	1876 (明治9)	1954 (昭和29)	2009 (平成21)
東大友	124	122	122	24	22	38
西大友	274	449	580	53	70	183
延清	100	145	533	20	22	179
永塚	258	353	1,175	52	60	425
千代	430	1,004	3,751	82	171	1,241
高田	364	※504	2,440	57	※82	881
別堀	53	※68	961	8	※11	360
計	1,603	2,645	9,562	296	438	3,307
1戸あたりの人数 (人口÷戸数)				5.42人	6.04人	2.89人

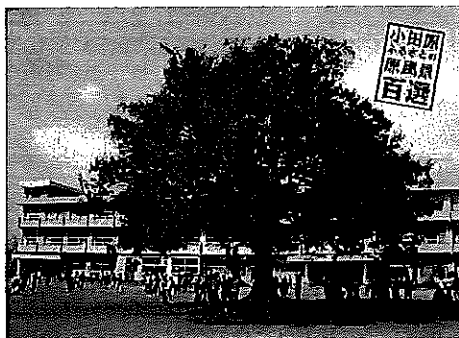
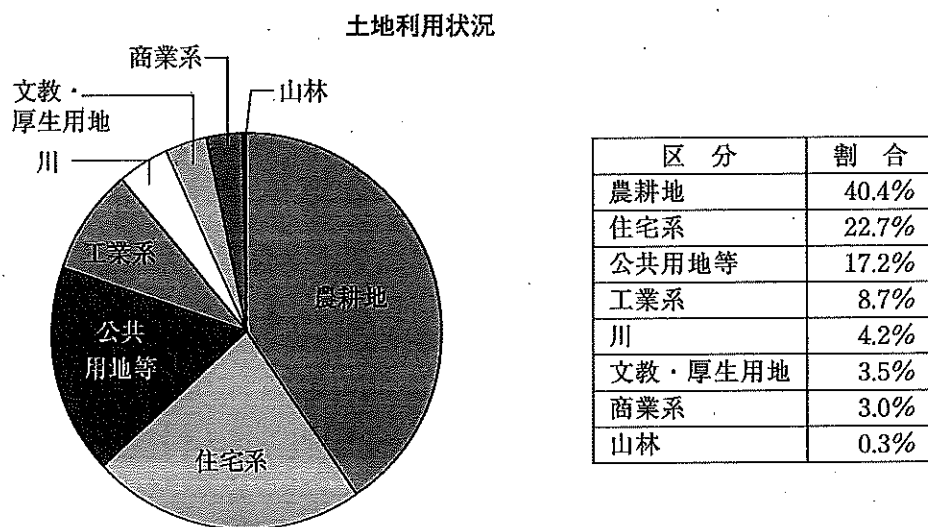
出展は神奈川県皇国地誌残稿、村の歴史、2009年10月市統計月報（※は推定数）

3 土地の利用状況

農耕地と住宅系が全体の63.2%、川が4.2%を占め、山林がほとんどなく、河川や水路から豊富な水の恩恵を受けた緑が豊かな地域です。

また、公共用地等と文教・厚生用地が20.7%を占めており、子どもの学び舎である千代小学校をはじめ、地域の安全を守る西大友分署、憩いの場である上府中公園、楽しくプレーや観戦ができるようナイター照明や近代的な設備を整えた小田原球場などがあります。

反面、商業施設などが少ない地域です。



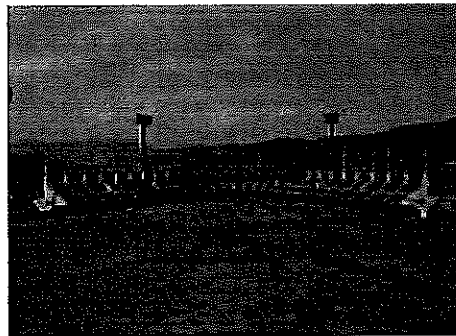
千代小学校と大ケヤキ



住民の安全を守る西大友分署



憩いの風景・上府中公園



スポーツ振興・小田原球場

地域のキャッチフレーズ

緑と歴史遺産を誇り、富士を仰ぐ長寿の里 “曾我”

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

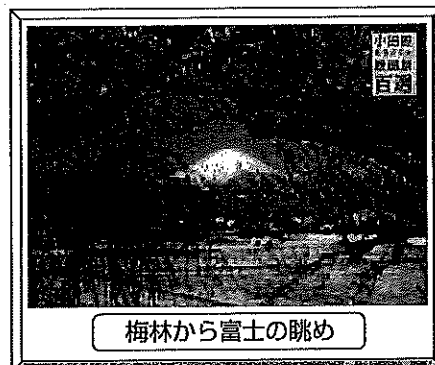
1 地域の位置と地勢

曾我は、小田原市の北東部に位置し、面積は6.06km²の地域です。北部は大井町との行政境を有し、市域では、南部は上府中に、東南部は下曾我に、西部は桜井に接しています。

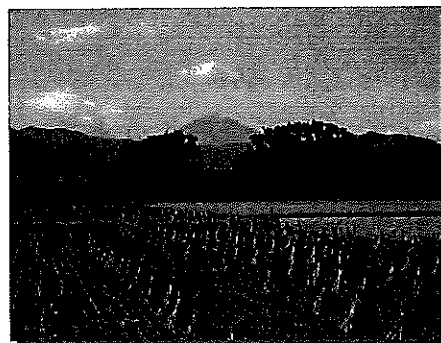
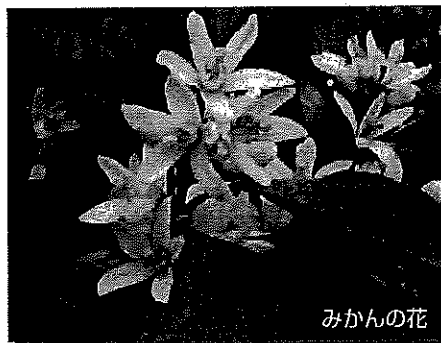
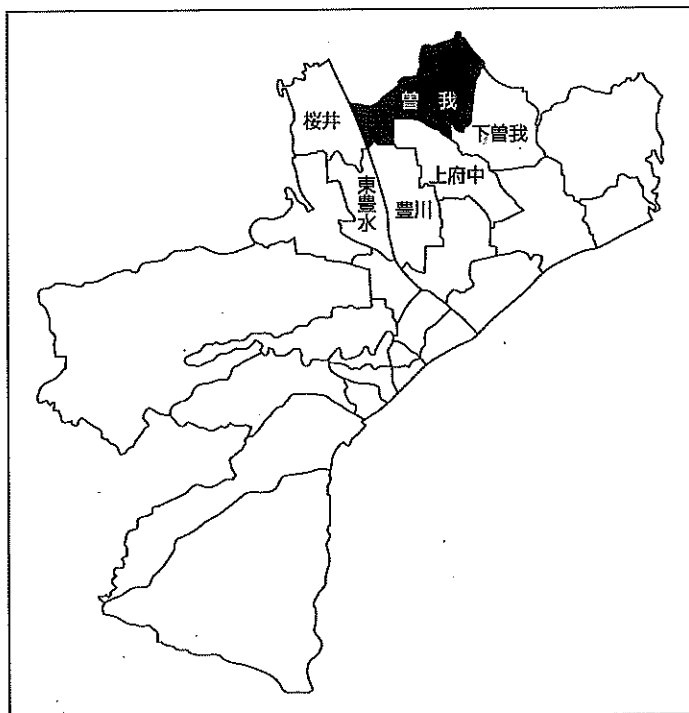
西部は酒匂川に接し、東部は曾我山といわれる大磯丘陵地帯となっています。中央部には、東名高速道路と国道1号を繋ぐ国道255号が南北に、市道0065と0066が東西に走っています。また、丘陵地の裾野に沿って、県道72号（松田国府津線）とJR御殿場線が並行して通っています。さらに国道255号に並行する道路として小田原・大井線の建設が進められております。

豊かな田園地帯を中心にもつ、自然環境に恵まれた地域で、地域内のどこからでも富士山を眺めることができます。梅の花の咲く時期には、梅の花と富士山との景色が素晴らしく、多くの人が訪れます。

梅やみかんなどの果樹栽培のほか、米の水稻栽培が盛んな地域です。



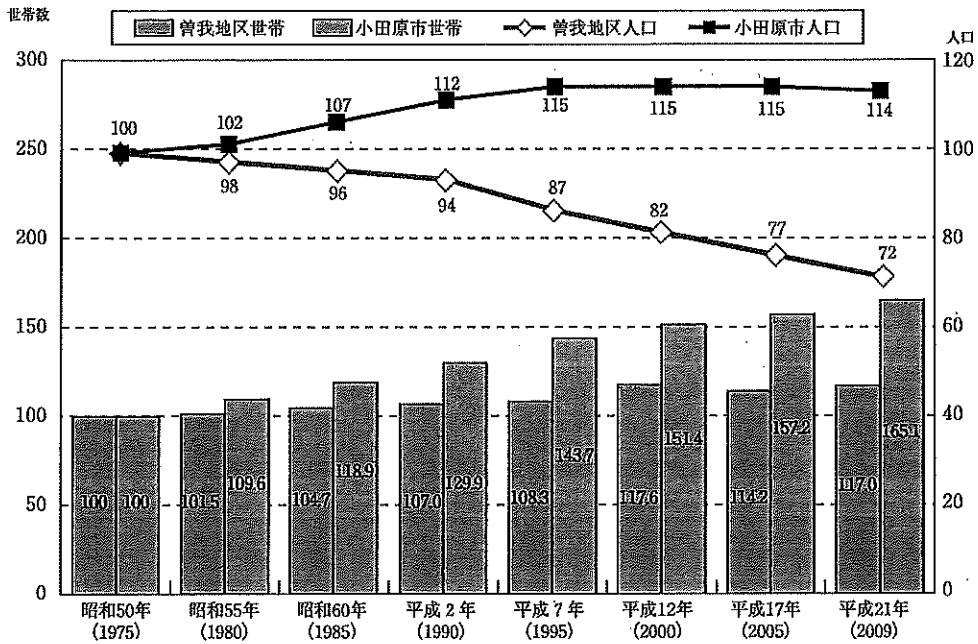
梅林から富士の眺め



2 地域の人口・世帯

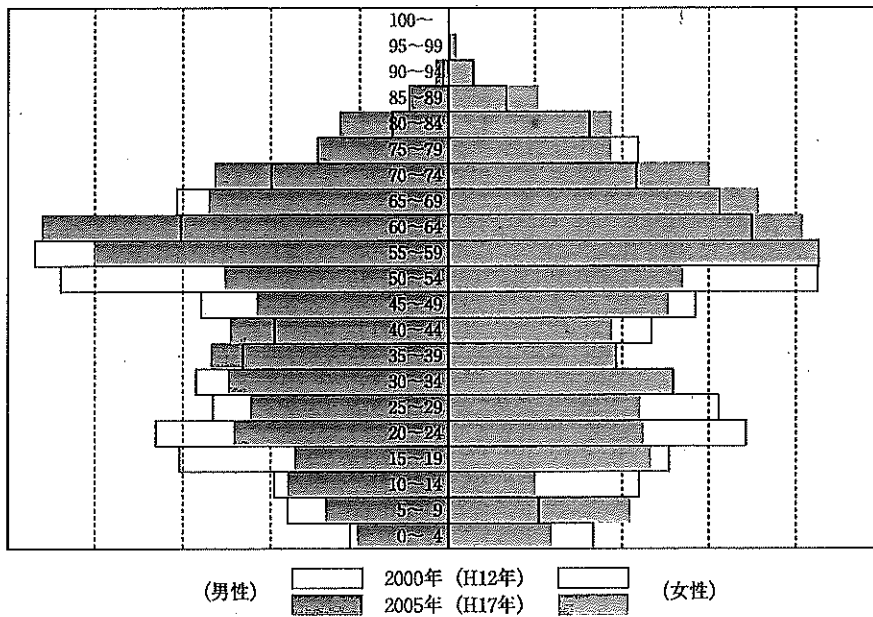
人口は、昭和50（1975）年から毎年減少し、平成17（2005）年には30年前と比べると約7割近くに落ち込んでおります。市全体としては、人口は横ばいで、世帯数は増加していますが、曾我は、世帯数が横ばいとなっていることが特徴です。

曾我地区と小田原市全域との人口・世帯数の比較

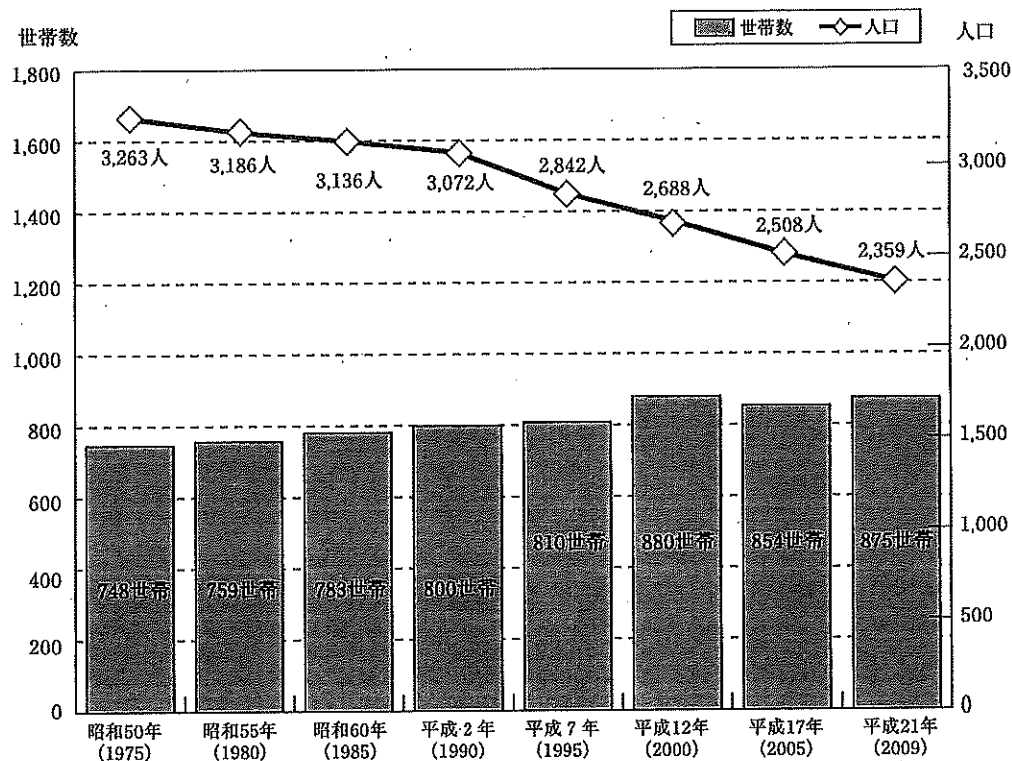


曾我地区の人口ピラミッド

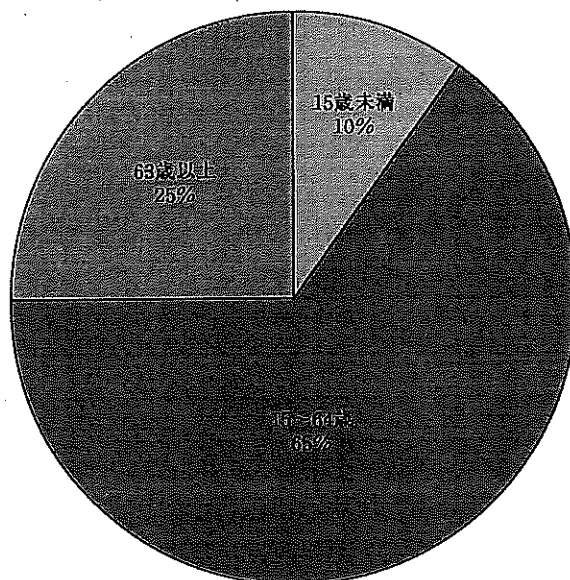
※ 目盛線は30人間隔です。



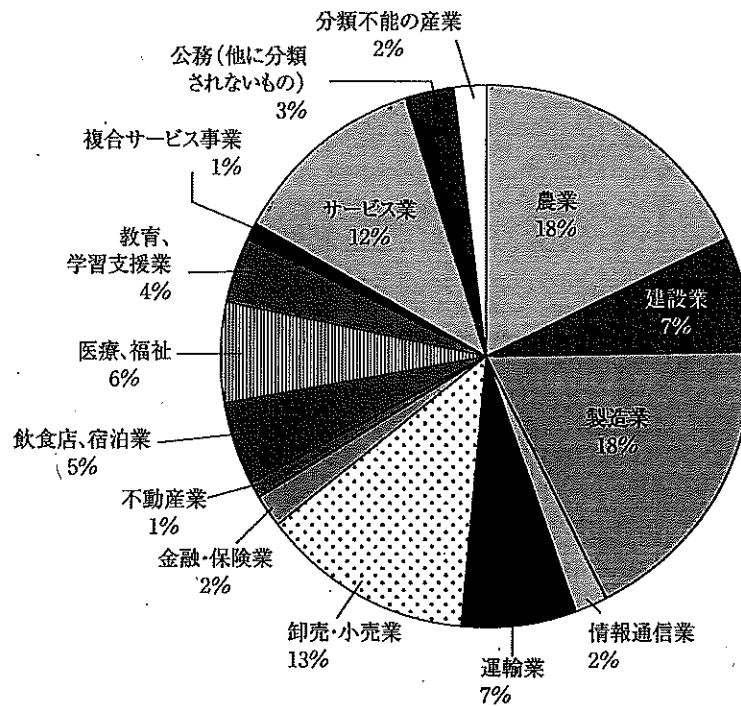
人口と世帯数の推移



人口の3年齢区分の割合 (平成17年)

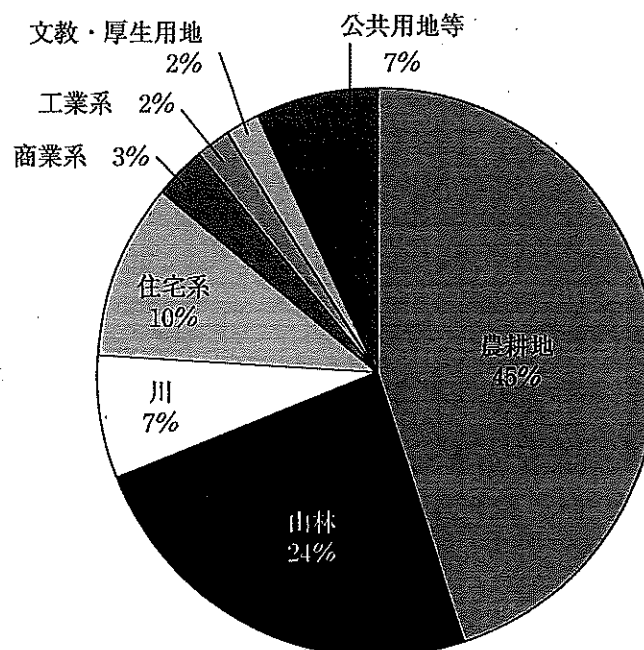


曾我地区の産業別就業者(15歳以上)の割合[平成17年]



3 土地の利用状況

曾我の80%近くは、農耕地や山林、川で占められており、豊かな自然に囲まれた中で、自然を生かした産業である農業に占める土地の割合が多いことが特徴です。



地域のキャッチフレーズ

梅かほる歴史の郷 下曽我

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の位置と地勢

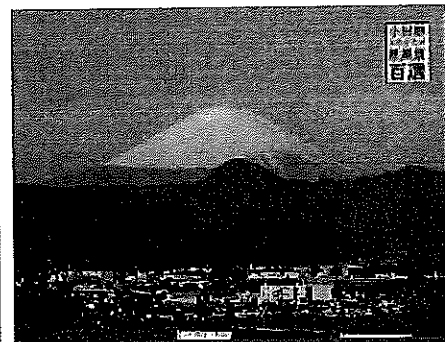
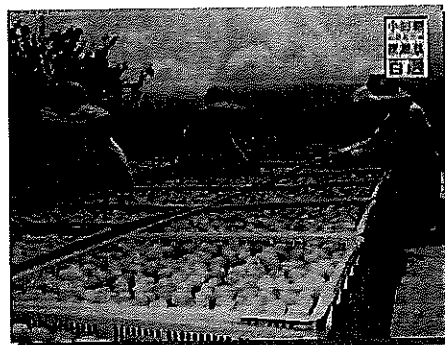
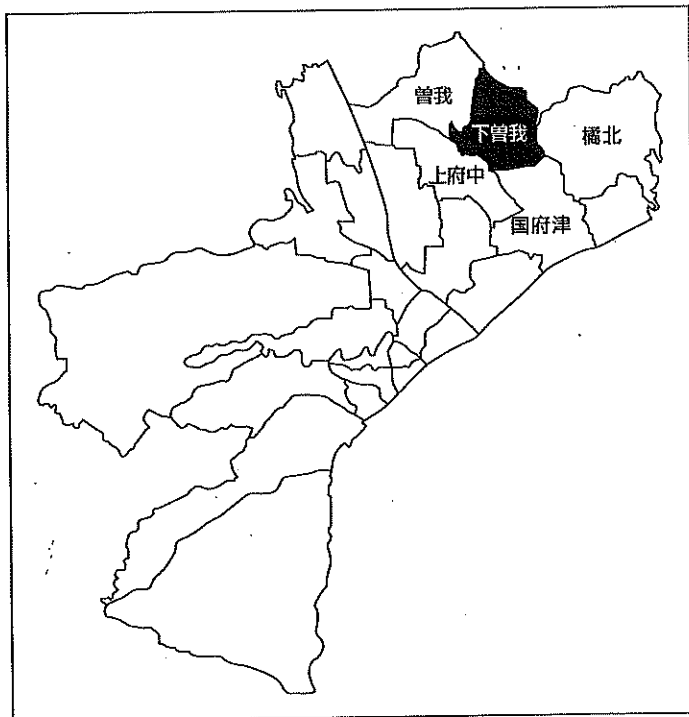
下曽我は、小田原市の北東部に位置し、面積は約3.1km²の地域です。北部は中井町との行政境を有し、市域では、北部は曾我に、西部は上府中、南部は国府津に、東部は橋北に接しています。

地区の北東部には曾我丘陵の丘陵地帯となっています。また、丘陵地の裾野に沿って、県道72号（松田国府津線）とＪＲ御殿場線が並行して通っています。

曾我丘陵には里山が連なり、平野部には豊かな田園地帯と、ＪＲ御殿場線の下曽我駅を中心に古くからの商店街をもつ、自然環境と住環境に恵まれた地域です。ここから望む富士山の眺めは素晴らしく、また、曾我山の丘陵地帯に登れば、富士山から、遠く伊豆半島や江ノ島まで180度の大パノラマを楽しむことができます。2月初旬から下旬までの頃には、約3万5千本の梅が一斉に咲き、梅の花と富士山との景色が溶け合い、多くの人で賑わいます。



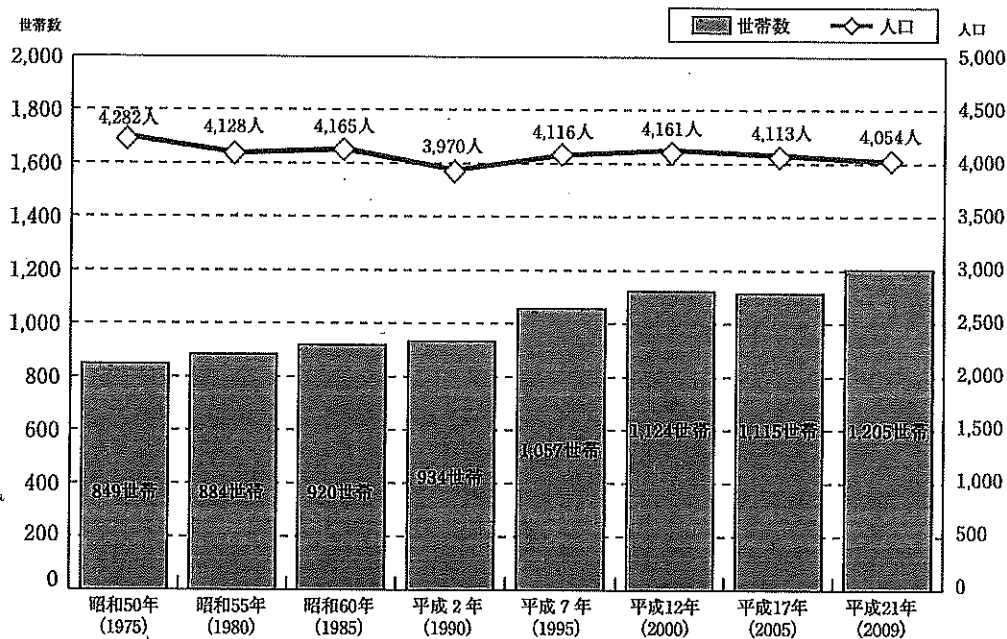
曾我の寿獅子舞



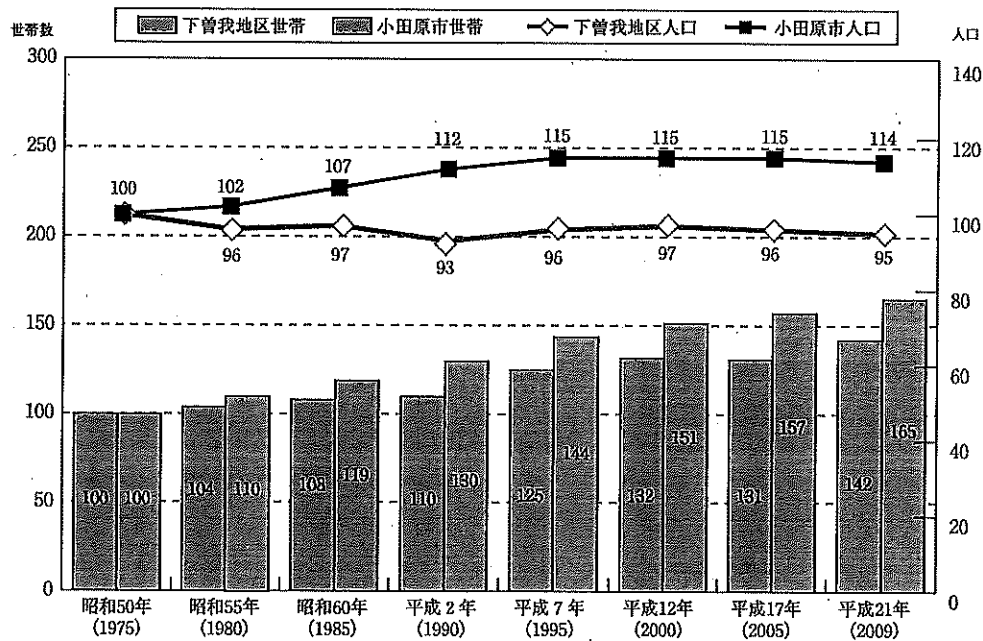
2 地域の人口・世帯

昭和50（1975）年と比較すると、微減はしているものの、平成21（2009）年まで、ほぼ横ばいです。また、市全体と同様に下曽我地区の世帯数が増加しています。

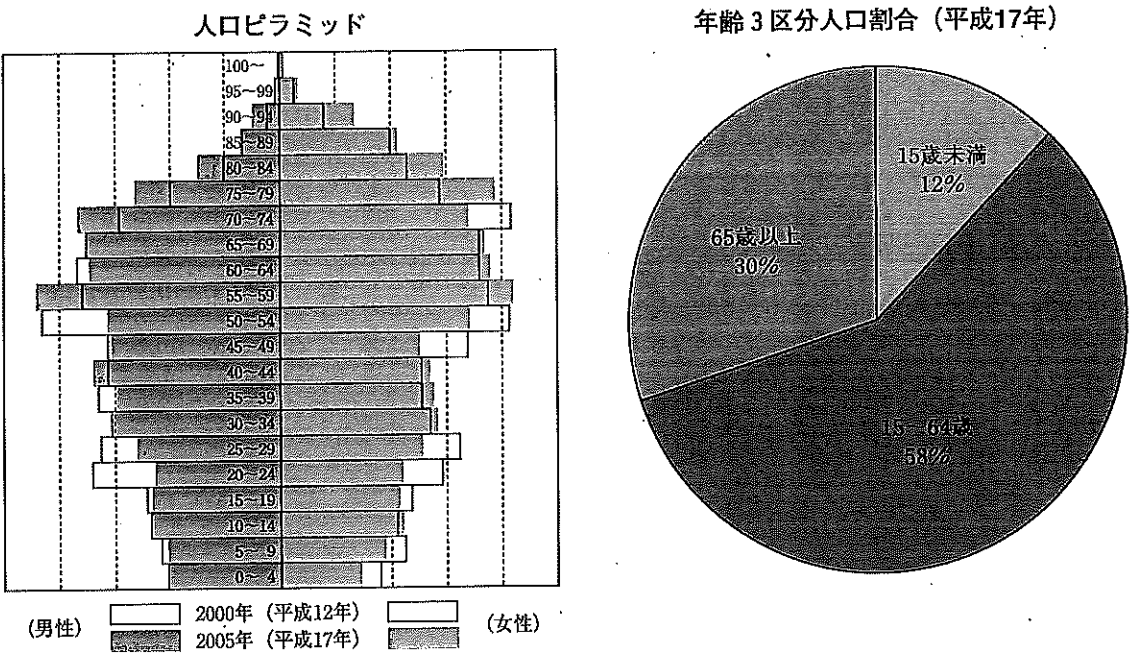
下曽我地区の5年間の人口の推移



下曽我地区と小田原市全域との人口・世帯数の比較

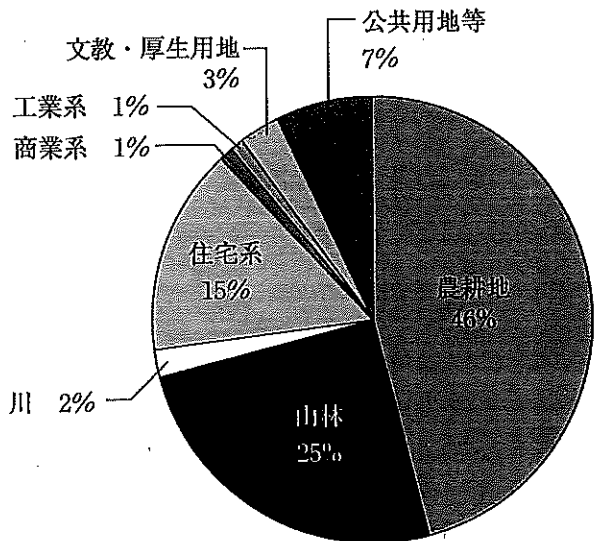


平成12・17年度の下曽我地区の人口ピラミッドと年齢3区分人口割合



3 土地の利用状況

農耕地が地区の約半分近くを占めており、梅やみかん、米などの農業が盛んなこと伺えます。続いて、曽我山を控え山林が多くなっていることと、下曽我駅を中心に住宅系が3番目となっています。



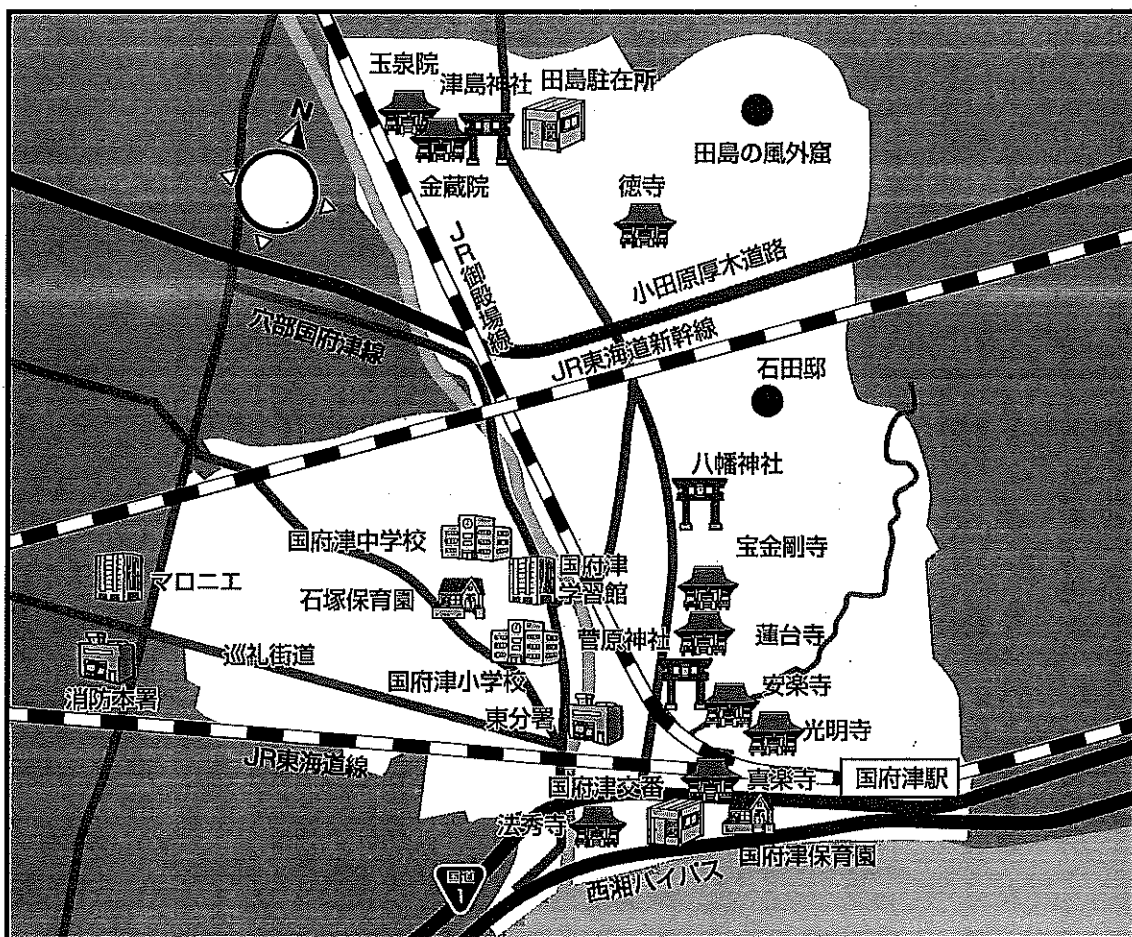
地域のキャッチフレーズ

人と海と山の織りなす小田原の東玄関 国府津

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

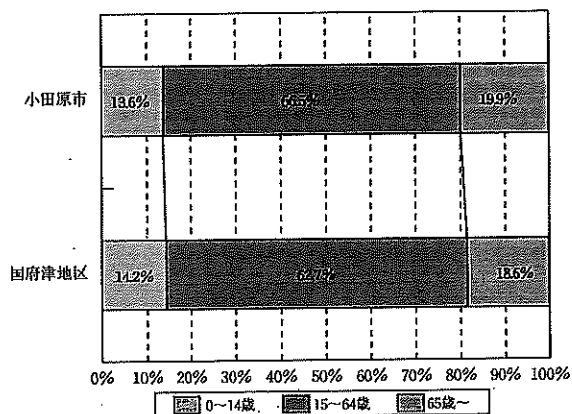
北は国府津山、南は相模湾に面し、地区の中央を森戸川が流れる自然豊かな土地でありながら、地区の南側に旧東海道を起源とする国道1号と東海道線が、また地区の中央を御殿場線が走り、国道1号にはバス路線が、東海道線には快速アクティ、湘南ライナーが停車する国府津駅があります。



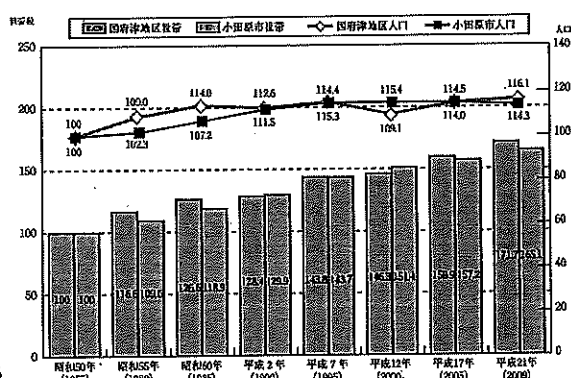
2 地域の人口・世帯

人口や世帯の推移・変遷と構成は小田原市全体と比較的近い割合を示しています。また、全国的に言われている60歳前後の団塊の世代が多いのは国府津地区も同じで人口ピラミッドから判ります。

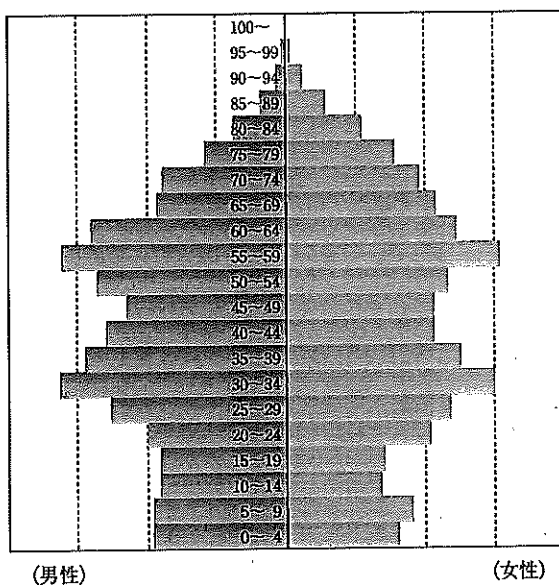
小田原市と国府津の年齢3区分人口（平成17年）



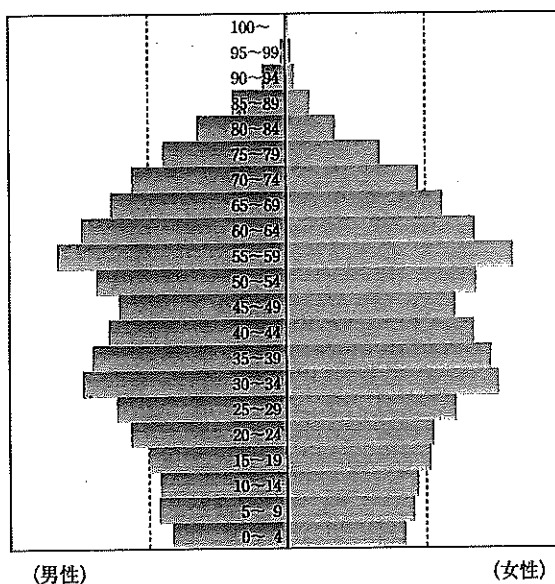
小田原市と国府津地区の人口・世帯数の推移（1975年=100）



平成17年国府津地区人口ピラミッド

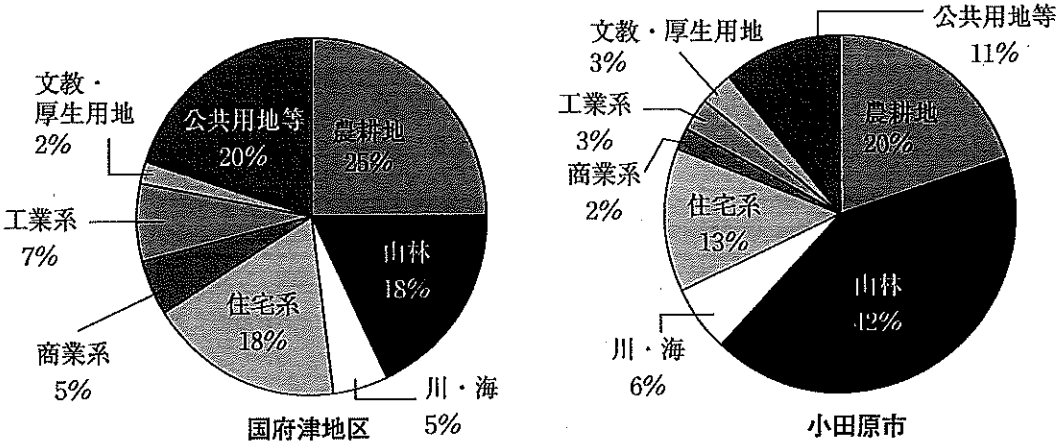


平成17年小田原市人口ピラミッド



3 土地利用状況

住宅系や商業系、工業系の土地利用が図られている土地の割合が小田原市全体に比べて高いですが、農耕地の割合も高く地区内に多くの農耕地が残っています。



地域のキャッチフレーズ

海と山に囲まれ、昔の風情が残る住みよいまち 前羽

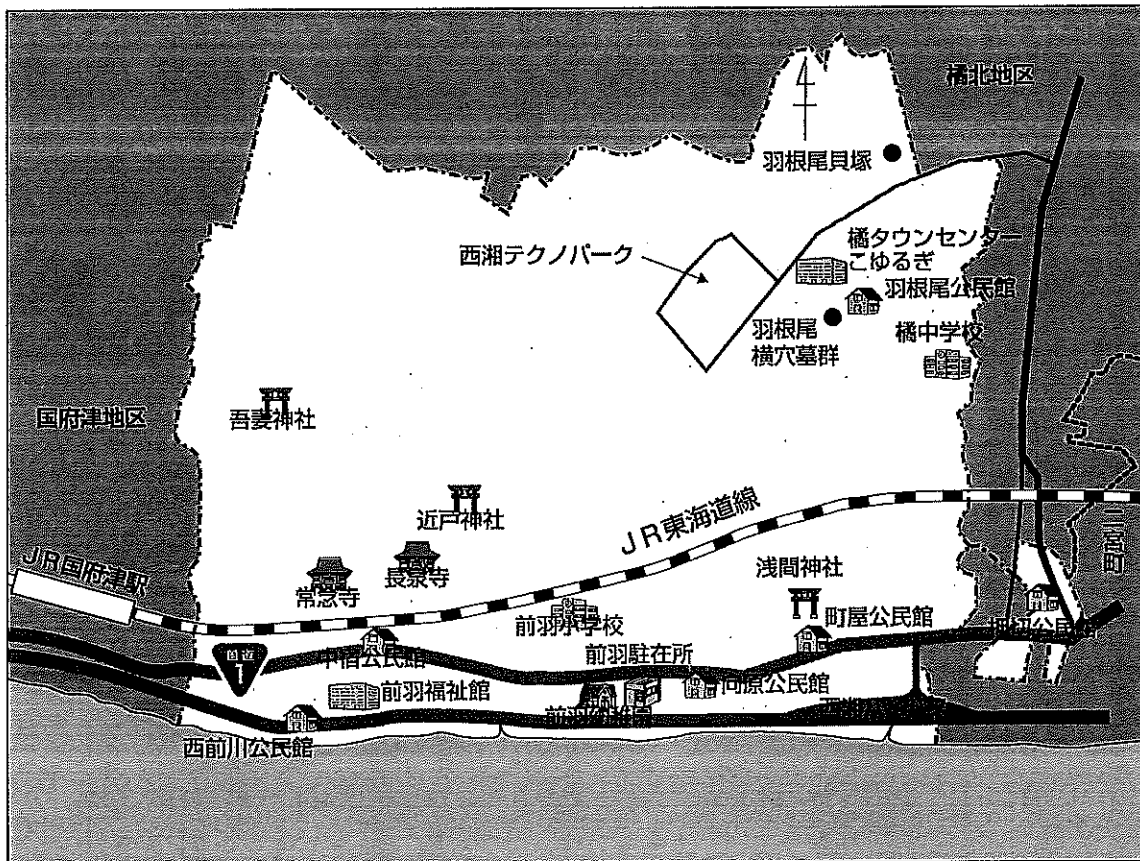
地域の今（現況） ～ わたしたちの地域はこんな地域 ～

1 地域の地理状況

前羽は、小田原市の東部に位置し、東側を二宮町に接し、南側が相模湾に面する地域です。海側から西湘バイパス、国道1号、JR東海道線が東西に走っています。

前羽を通る国道1号は、1月2日と3日に開催される伝統的な箱根駅伝のコースとなっています。ランナーは、押切を過ぎて高台から相模湾を一望されます。

地区内には西湘テクノパークがあり、その中には平成19年8月にオープンした橋
タウンセンターこゆるぎがあります。地域コミュニティの場としては、前羽福祉館
もあります。

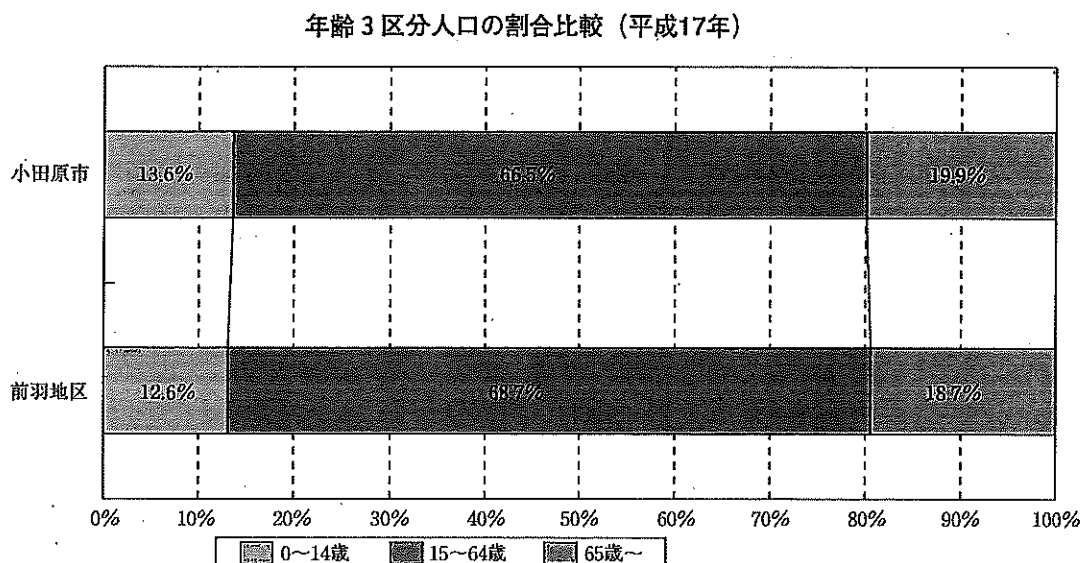
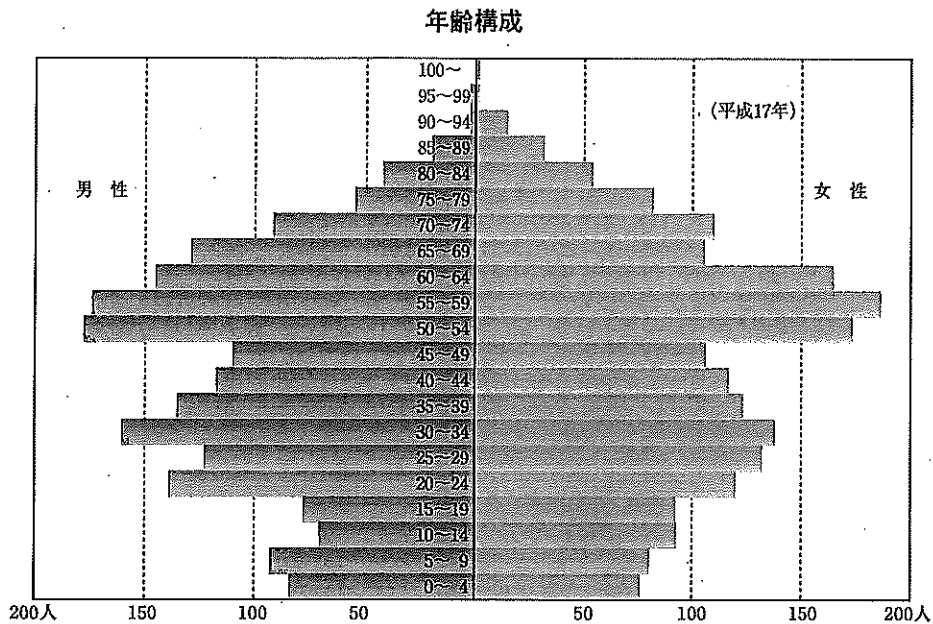


2 地域の人口・世帯

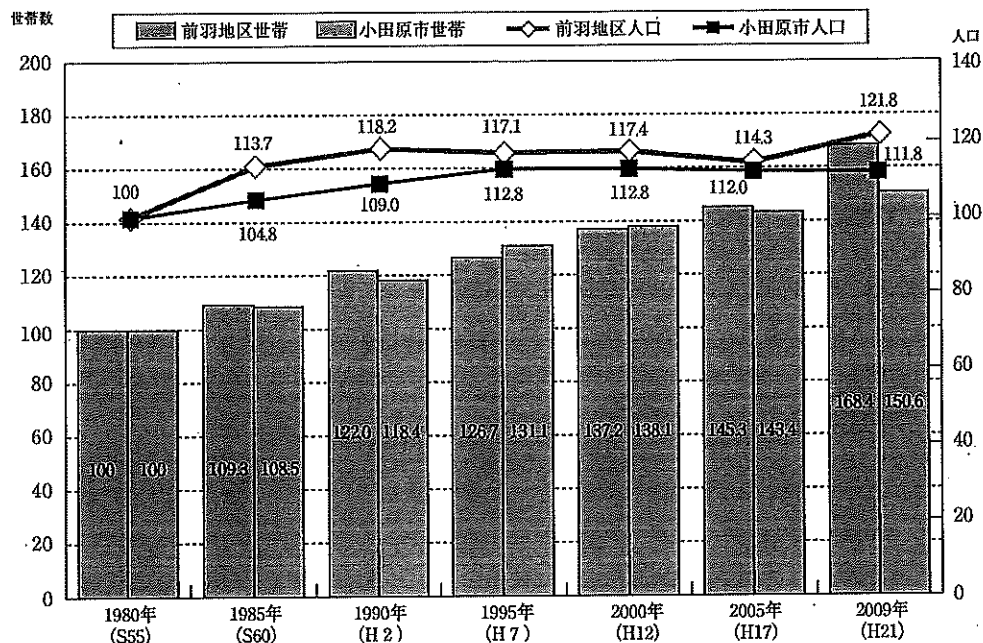
人口の年齢構成は、団塊の世代、団塊ジュニア世代が多く、「釣鐘型」になっていますが、これは前羽地区だけでなく小田原市全体、さらには日本全体の傾向です。

年齢3区分人口の割合を小田原市全体と比較しますと、ほぼ小田原市全体と同じ割合ですが、年少人口割合がやや少なく、一方、生産人口割合がやや多くなっています。

1980年からのおよそ30年間の世帯数・人口の推移に目を移しますと、世帯数・人口ともに小田原市全体の増加率よりも高い増加率を示しています。

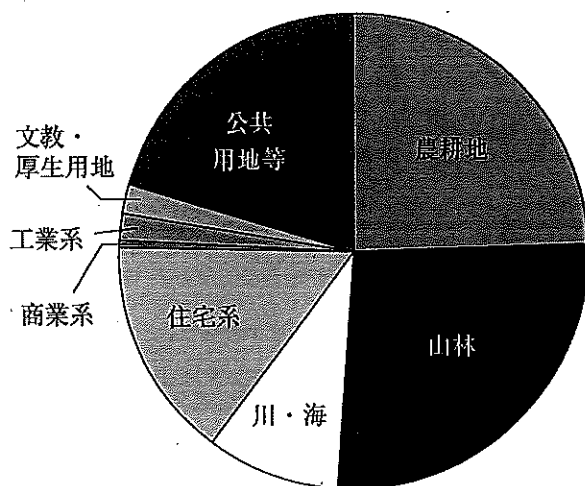


前羽地区と小田原市の世帯数・人口の推移



3 土地の利用状況

土地利用状況の割合を小田原市全体と比べると、下図に示すように「農耕地」、「住宅系」などの割合が高く、一方、「山林」、「商業系」の割合が低くなっております。とりわけ鉄道用地、道路用地や公園の「公共用地等」の割合が小田原市全体の2倍近くになっているのが、前羽の特徴です。



区 分	前羽地区	小田原市
農耕地	24.6%	20.4%
山林	26.6%	42.0%
川・海	9.1%	6.0%
住宅系	15.1%	13.3%
商業系	0.5%	2.1%
工業系	1.8%	2.9%
文教・厚生用地	2.0%	2.7%
公共用地等	20.3%	10.6%
合 計	100%	100%

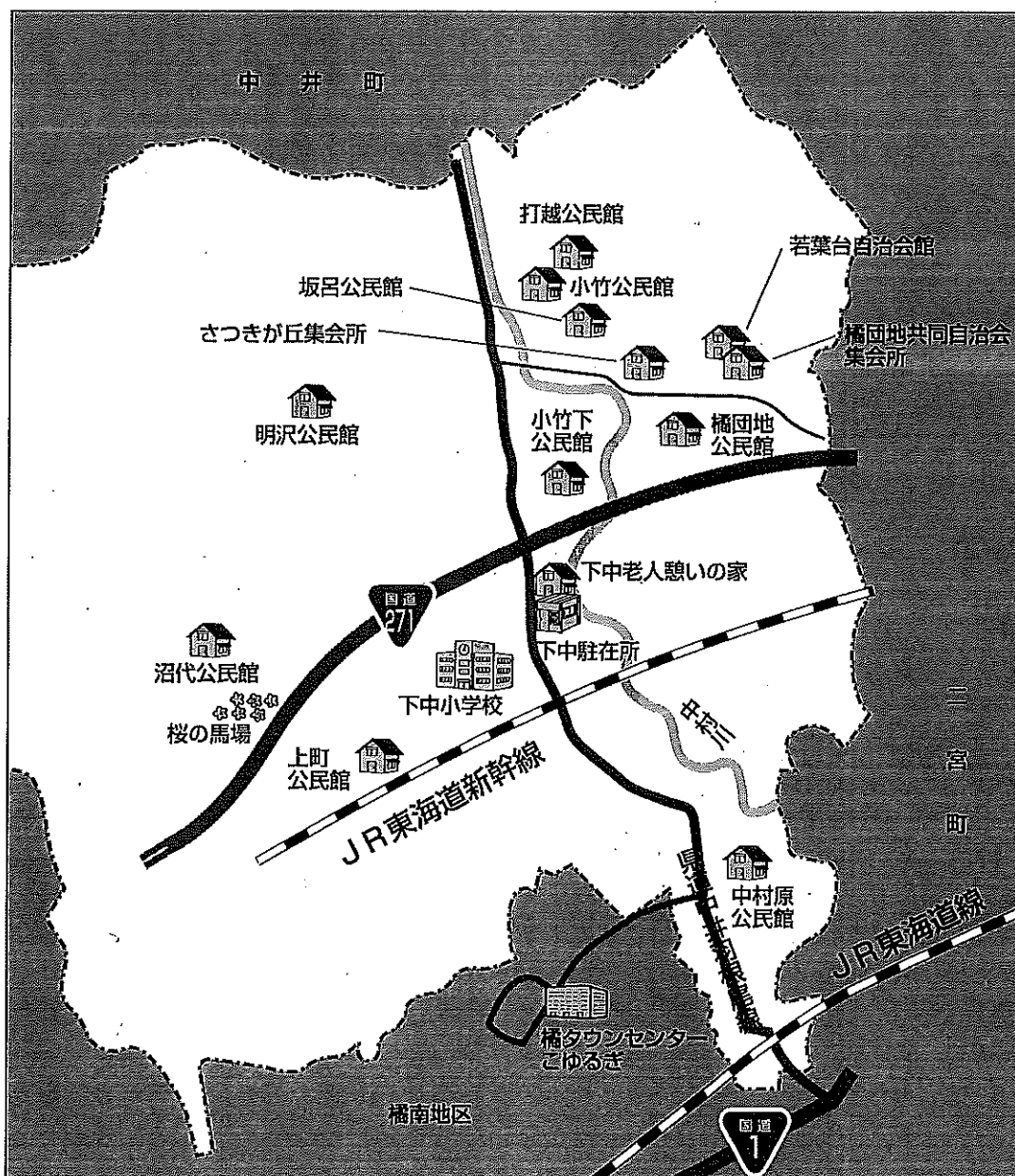
地域のキャッチフレーズ

歴史溢れる長寿の里 たちばな北

地域の今（現況） ～わたしたちの地域はこんな地域～

1 地域の地理状況

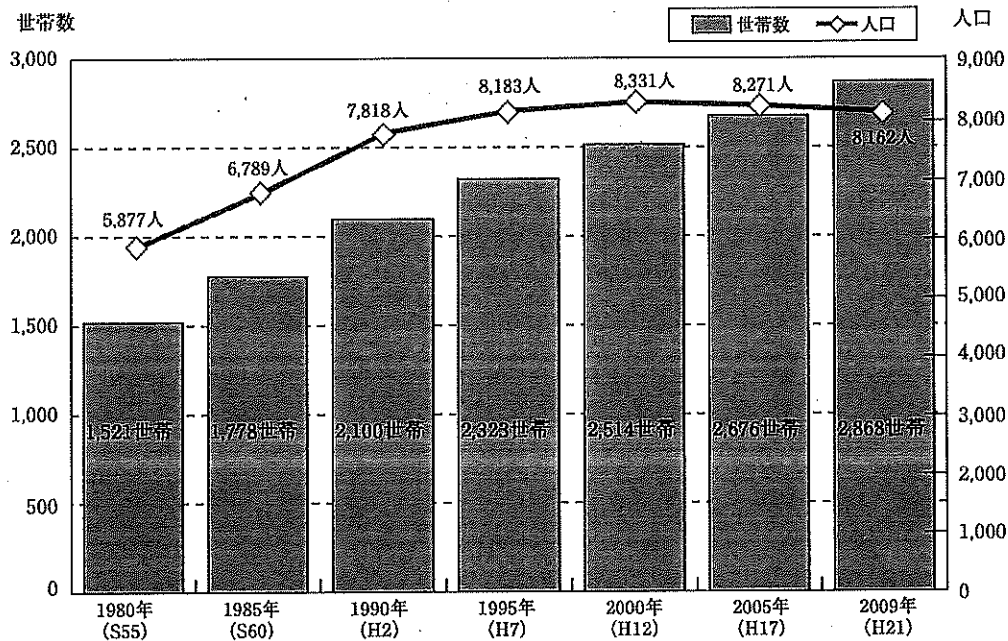
橘北は、小田原市で一番東に位置し、東は二宮町に接し、北は中井町に接しています。南北に県道中井羽根尾線が通っており、東西には小田原厚木道路が通っており二宮インターが近くにあります。



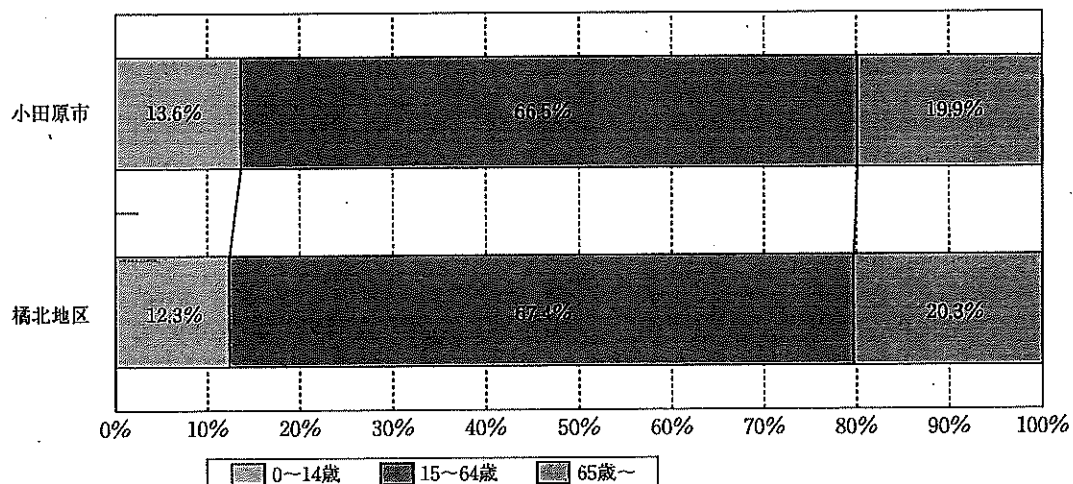
2 地域の人口・世帯

1980年（昭和55年）と比較すると、2009年（平成21年）で地域の人口は約39%増加し、世帯数は約88%増加していて、人口の増加が著しい地域です。人口は1980年（昭和55年）から増加をしていき、2000年（平成12年）の8,331人をピークにゆるやかに減少しています。世帯数は増加し続けており、新たな住宅が多く建設されたことが伺えます。1世帯あたりの人数は1980年（昭和55年）の約3.8人から、2009年（平成21年）の約2.8人と減少しています。

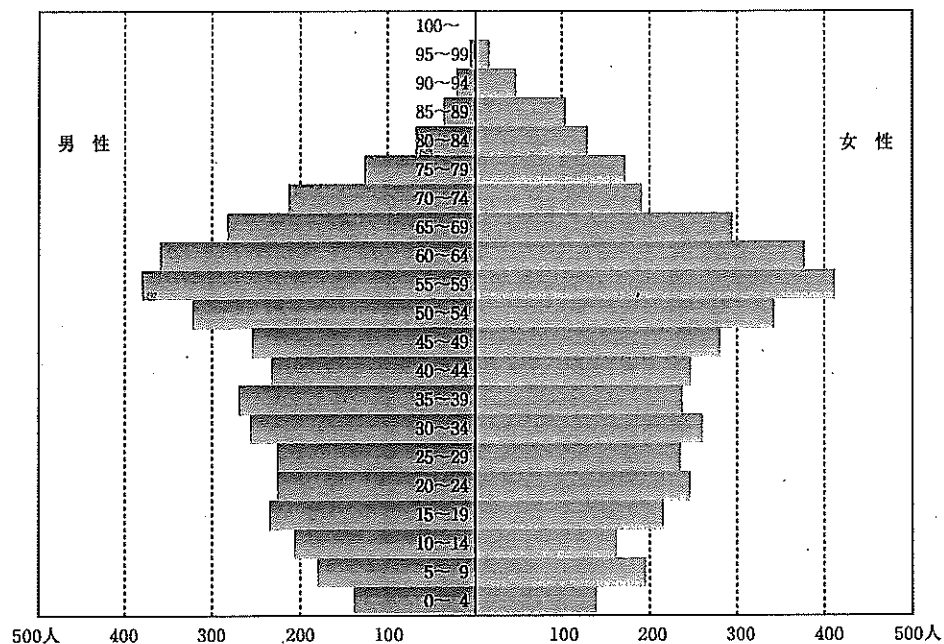
橋北地区の人口と世帯数の推移



小田原市と橋北地区の年齢3区分人口割合の比較（平成17年）



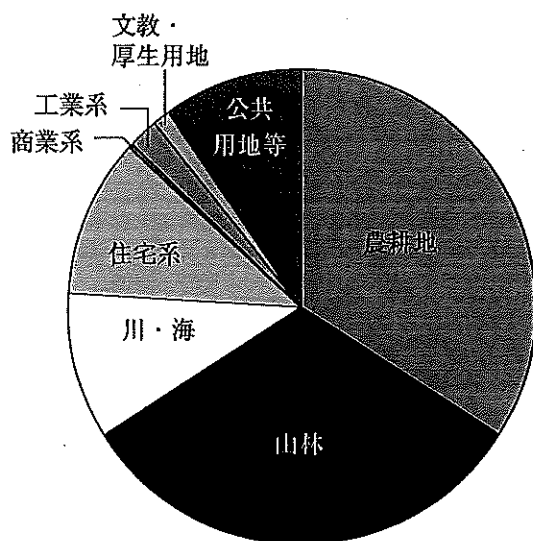
橘北地区の人口ピラミッド（平成17年）



3 土地の利用状況

農耕地と山林を併せると全体のおよそ66%を占め、続いて住宅系、川・海、公共用地等がそれぞれおよそ10%となっており、自然がとても豊かな地域であるのがわかります。

反面、商工業系などが少ない地域です。



区 分	割 合
農耕地	34.1%
山林	31.9%
住宅系	10.8%
川・海	10.0%
公共用地等	9.6%
工業系	2.1%
文教・厚生用地	1.2%
商業系	0.3%
合 計	100%